

港北第一地区タウンセンター シンボル広場基本設計

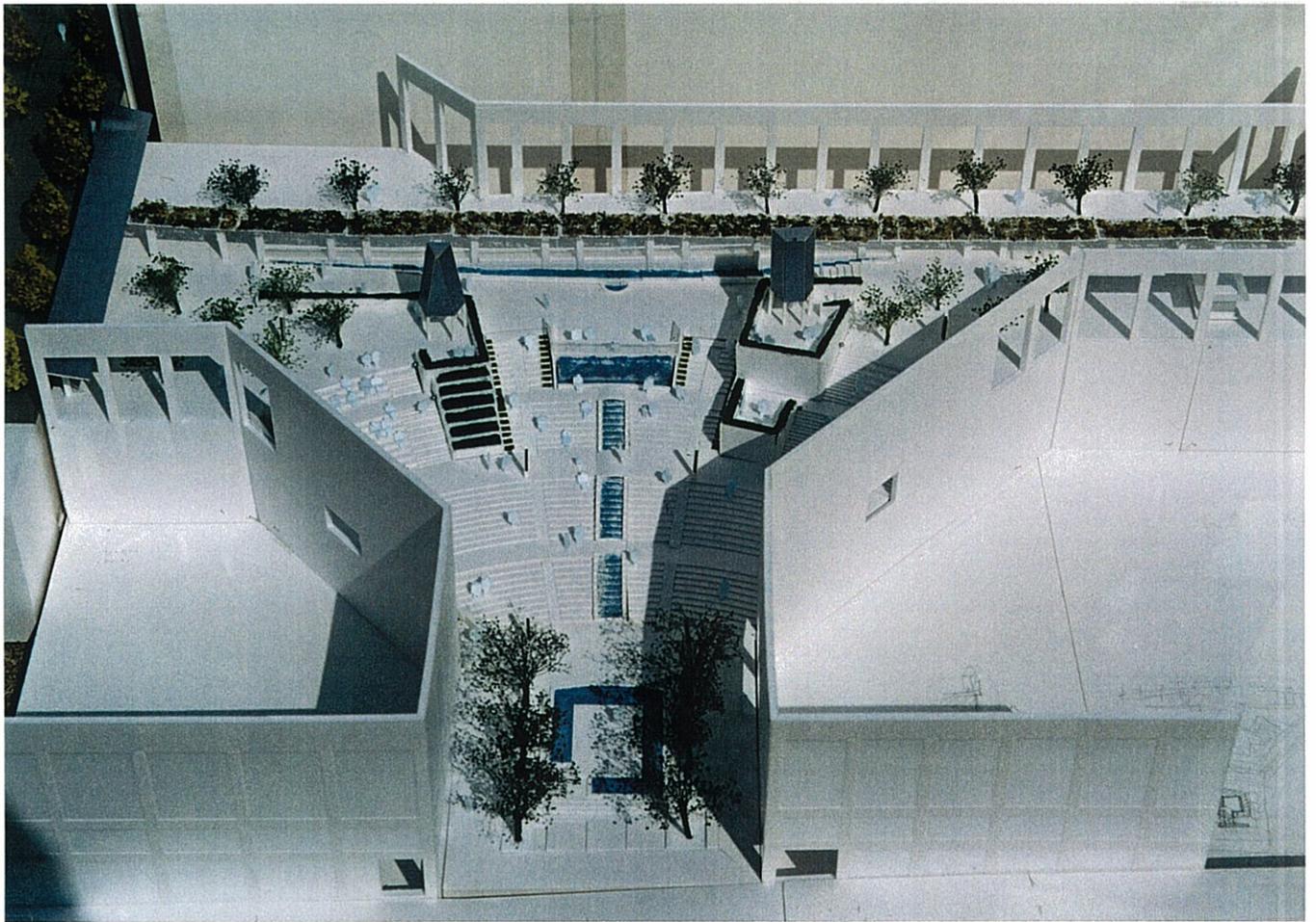
平成6年7月

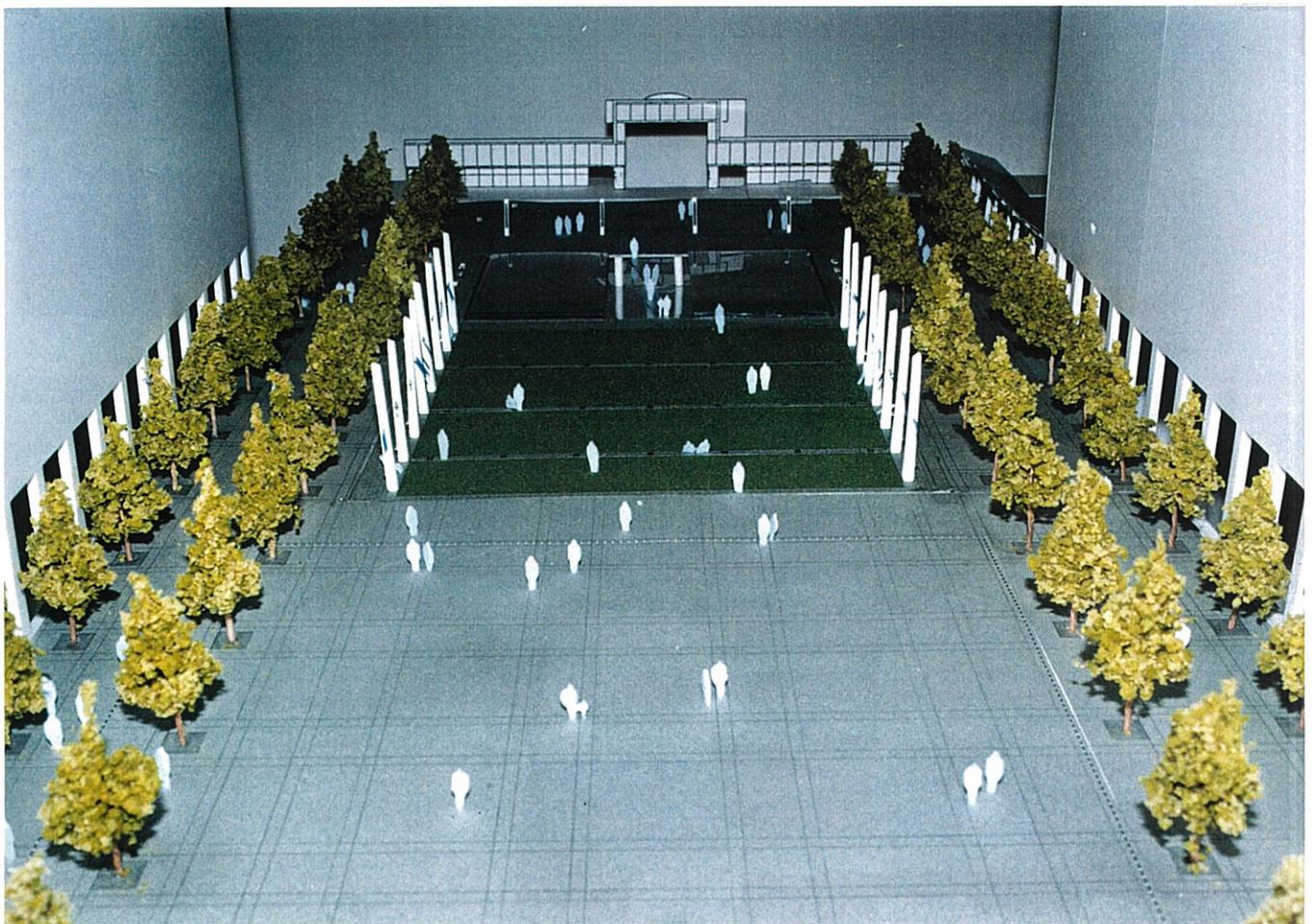
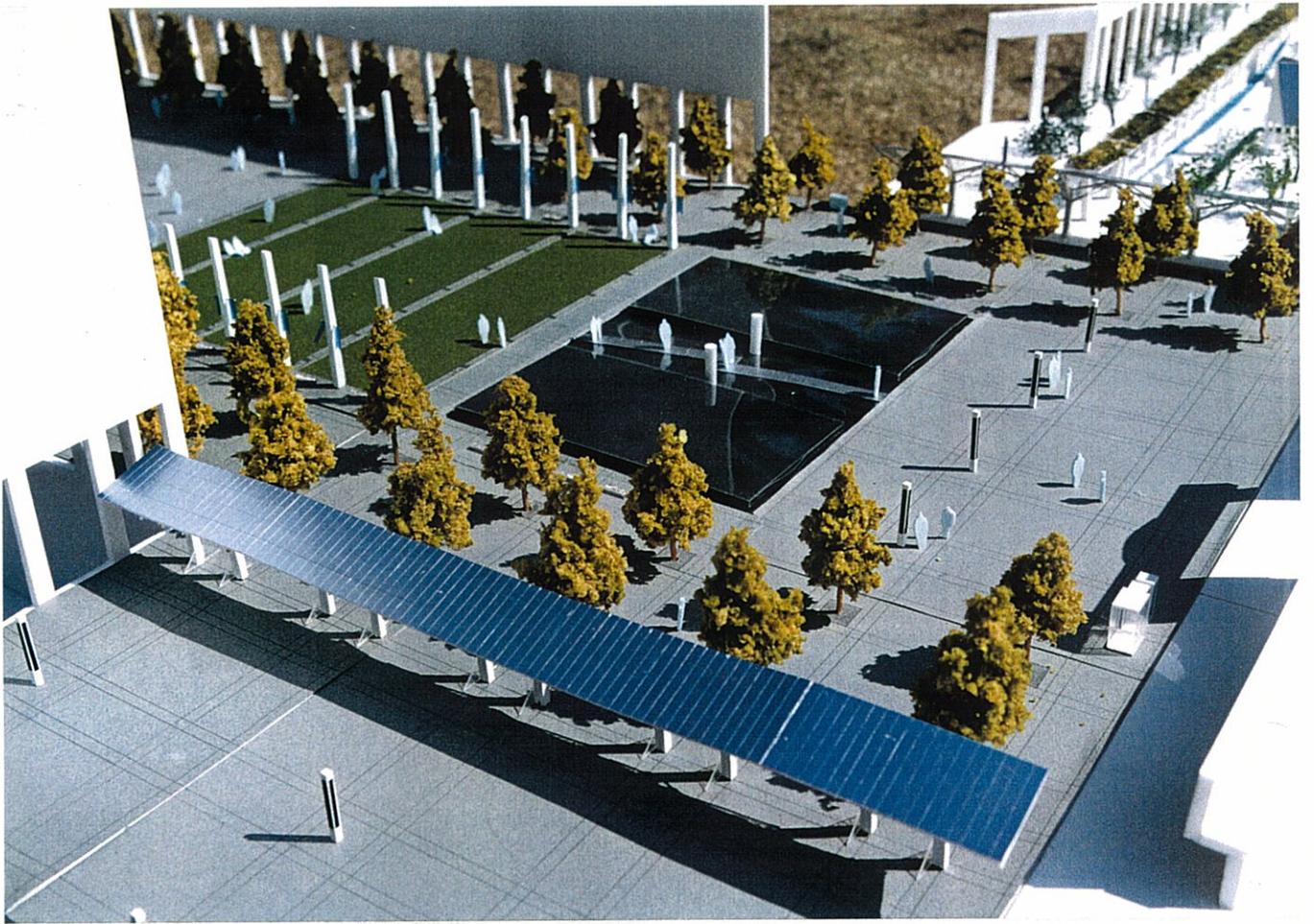
住宅・都市整備公団港北開発局
山手総合計画研究所

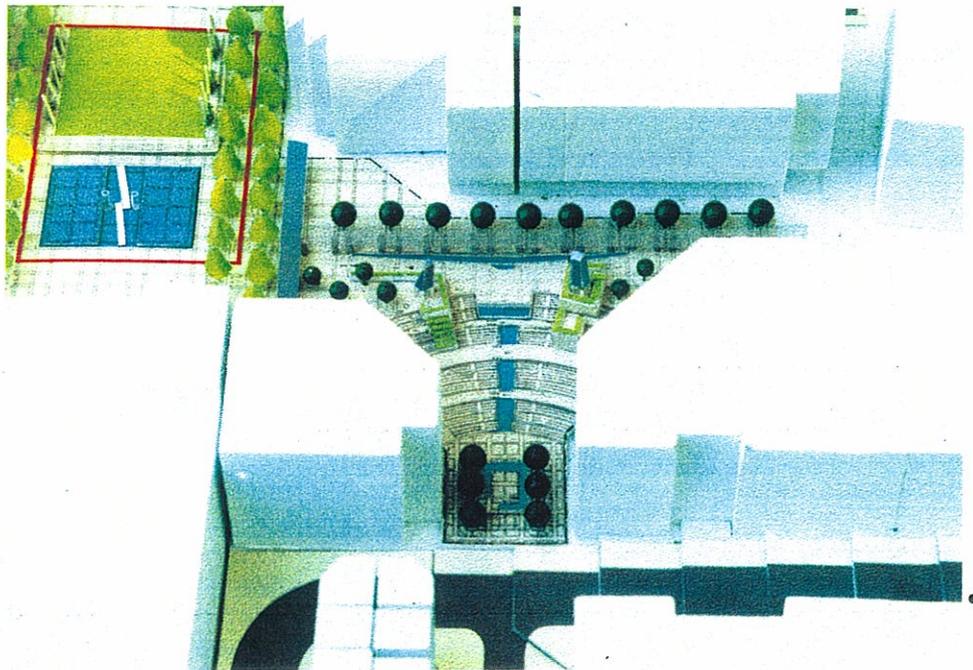
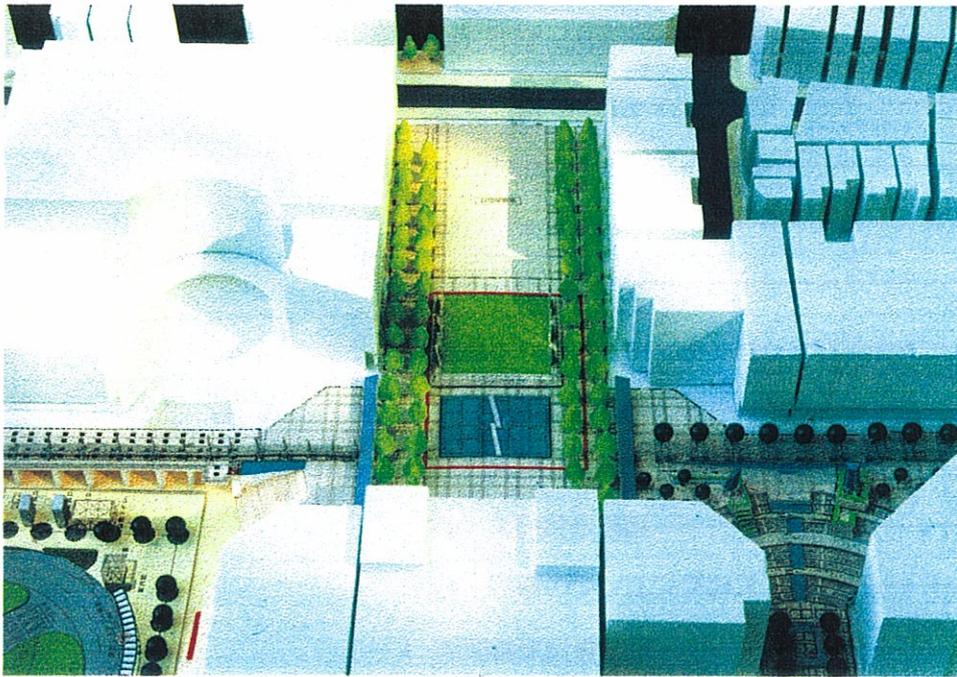
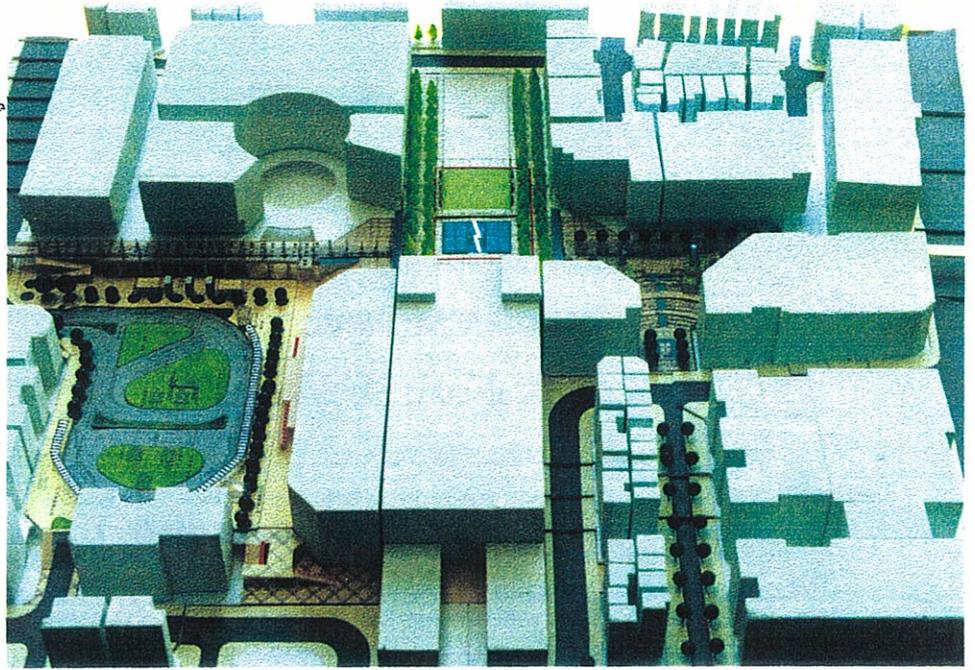
港北第一地区タウンセンター シンボル広場基本設計

平成6年7月

住宅・都市整備公団港北開発局
山手総合計画研究所







目 次

| | |
|----------------------|----|
| I. 周辺条件の整理 | 1 |
| II. シンボル広場のデザインコンセプト | 3 |
| 1. シンボル広場の空間特性とテーマ | 3 |
| 2. シンボル広場のデザインコンセプト | 7 |
| III. 基本設計 | 14 |
| 1. 基盤施設設計 | 14 |
| (1) 舗装 | 14 |
| (2) 階段 | 15 |
| (3) 擁壁 | 16 |
| 2. 主要施設 | 17 |
| (1) シェルター | 17 |
| (2) フォリ | 19 |
| (3) パーゴラ | 20 |
| 3. 水施設 | 21 |
| (1) 水施設の系統 | 21 |
| (2) 大水面水施設 | 22 |
| (3) 大階段水施設 | 25 |
| (4) 設備のランニングコスト | 26 |
| 4. 照明電気設備計画 | 27 |
| (1) 照明計画の考え方 | 27 |
| (2) 電気設備計画の考え方 | 28 |
| 5. 植栽計画 | 30 |
| 6. 整備費概算 | 31 |
| IV. 基本設計図書 | 34 |

1. 周辺条件の整理

シンボル広場の周辺は、平成9年度インフラ整備へ向けて、道路や駅前広場等の工事が急ピッチで行われている。シンボル広場部分も、地域冷暖房洞道の地下部分の工事がほぼ終わろうとしており、地上部への出入口の位置・高さが確定している。また出入口がシンボル広場内に設けられる共同溝の出入口も同様であり、どちらもシンボル広場側からのデザイン提案で調整が行われる。

公共下水道についても建設が進められており、基本的合意は完了しているが、実施設計の進行や現場の進行に伴う計画の修正に対応して、速やかかつ十分な調整が必要となってくる。

電気の供給については、シンボル広場内には都市緑地と歩行者専用道路があり、管理が分かれるため本来なら2系統となるが、シンボル広場として一括で受電を行い、そこからそれぞれの系統に分電していくものとして、基本的合意が得られている。

また、一部地下鉄利用者の通路確保のため、先行整備が行われる部分があり、その部分と最終整備部分との取り合いなどは、十分な調整が必要である。

II. シンボル広場のデザインコンセプト

1. シンボル広場の空間特性とテーマ

(1) シンボル広場の地相——静かで整った地相

●平坦な造成

第一地区のシンボル広場は、センター北駅の北側に緩やかな南下がりに造成された、ほぼ平坦な南北に長い空間が中心となっている。

●整形な広場空間

広場の中心となる空間は、隣接宅地の敷地形状により、幅60m、奥行き約170mの矩型の大空間となっている。

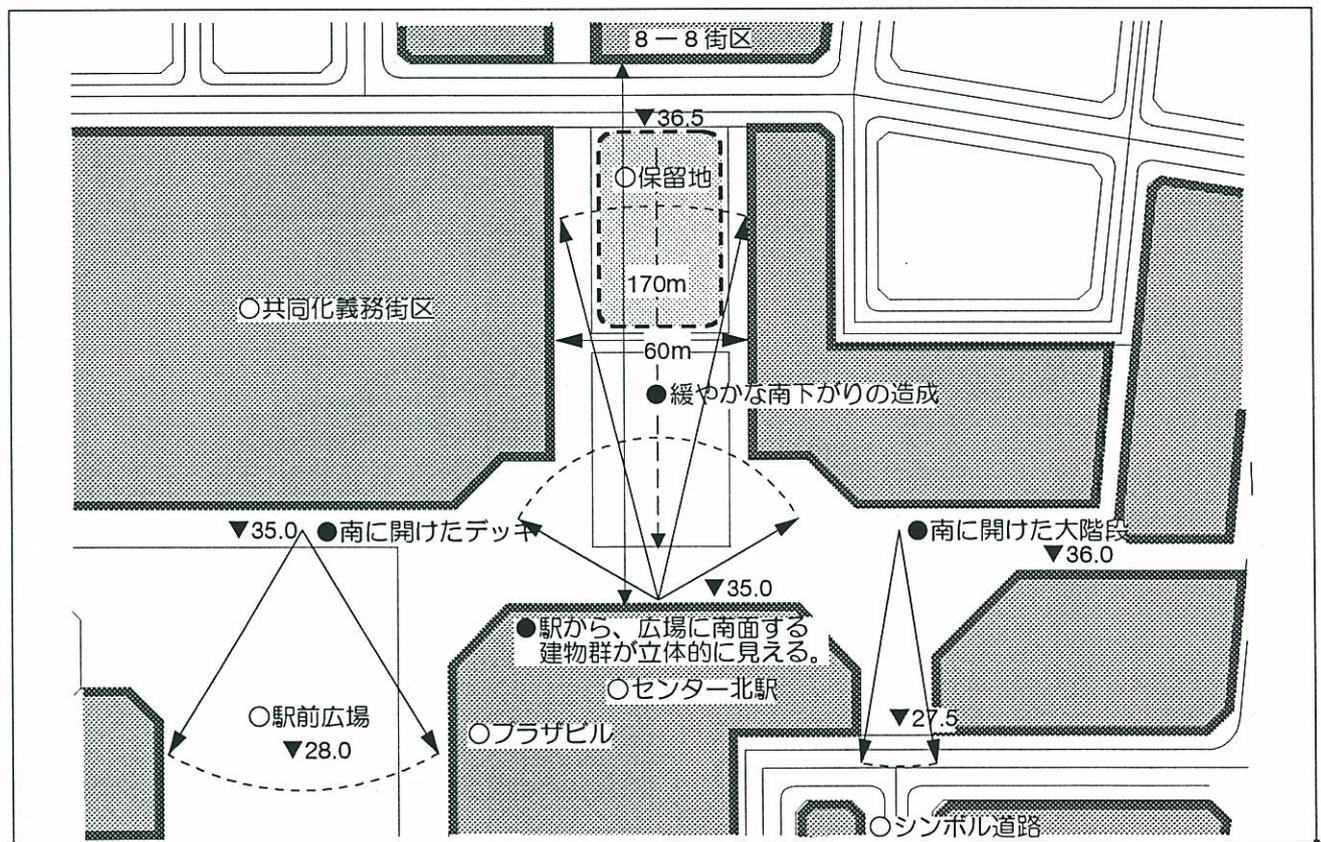
●南へ開き、北に奥深い空間

中心に駅前から北に奥行きのある矩型の空間が広がり、その東西には約7mの高低差で南に広がる立体的な広がりを持った空間が連続して、それぞれダウンタウンへとつながっている。さらにその東西には、隣接住区へとつながるペデ橋が位置する。

●広場空間の中のパビリオンとしての施設計画

シンボル広場北側に位置する保留地に建設される建物は、8-8街区の建物の壁面までの奥行き感を隠さないよう留意して計画する。

広場と一体となったシンボル性を持った形態と、一体となった利用が可能な施設としたい。



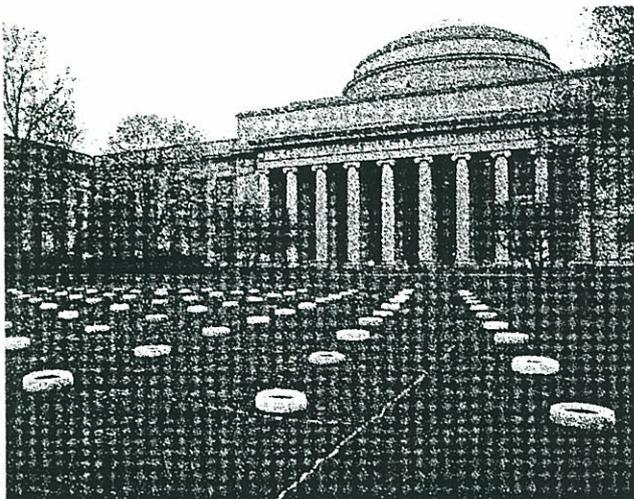
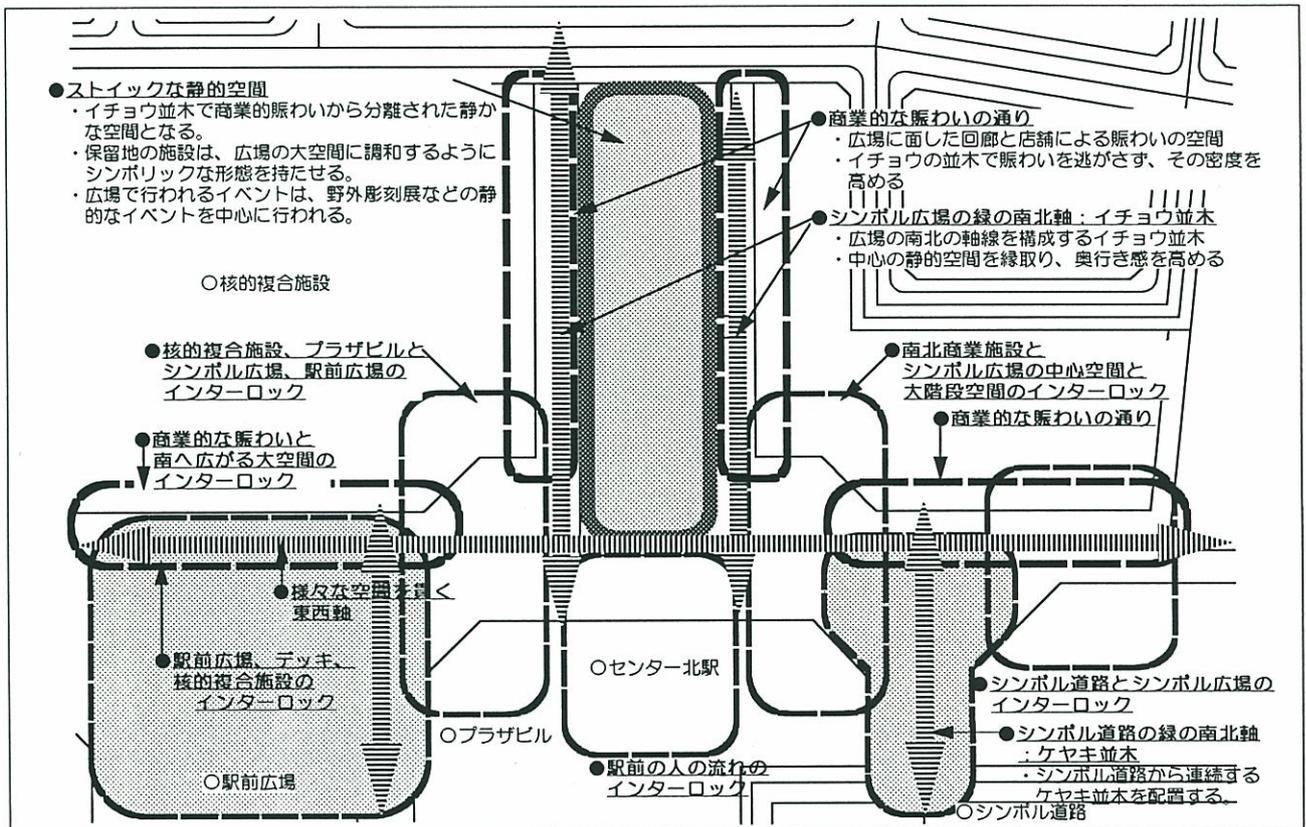
(2) シンボル広場の空間構成——南北に奥行きのある深いストイックな空間を中心に据えて、東西に立体的な広場を控える構成

●様々な様相を持った空間

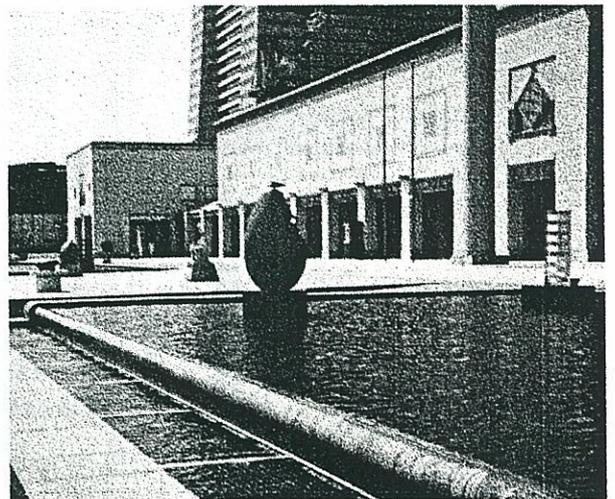
南北の人の動きは均質な空間内で行われる。それぞれの動きの軸（動線）はずれており、連続する1本の軸にはなっていない。

この動きの軸のずれを吸収し、アッパータウンとダウンタウンのレベルの違う空間を、お互いに平面的にも立体的にも噛み合わせる（インターロックさせる）空間を設ける。

シンボル広場内には様々な形態のインターロック空間が、串団子のように動きの軸によって貫かれており、人の動きに沿って多様な空間の変化が生まれる。



○芝生の広場に置かれた環境芸術。日常的に或いは非日常的に、芝生広場を中心としてこのようなイベントを開催する。



○大水面も水底をフラットに造っているため、屋外彫刻展などに利用することが可能である。

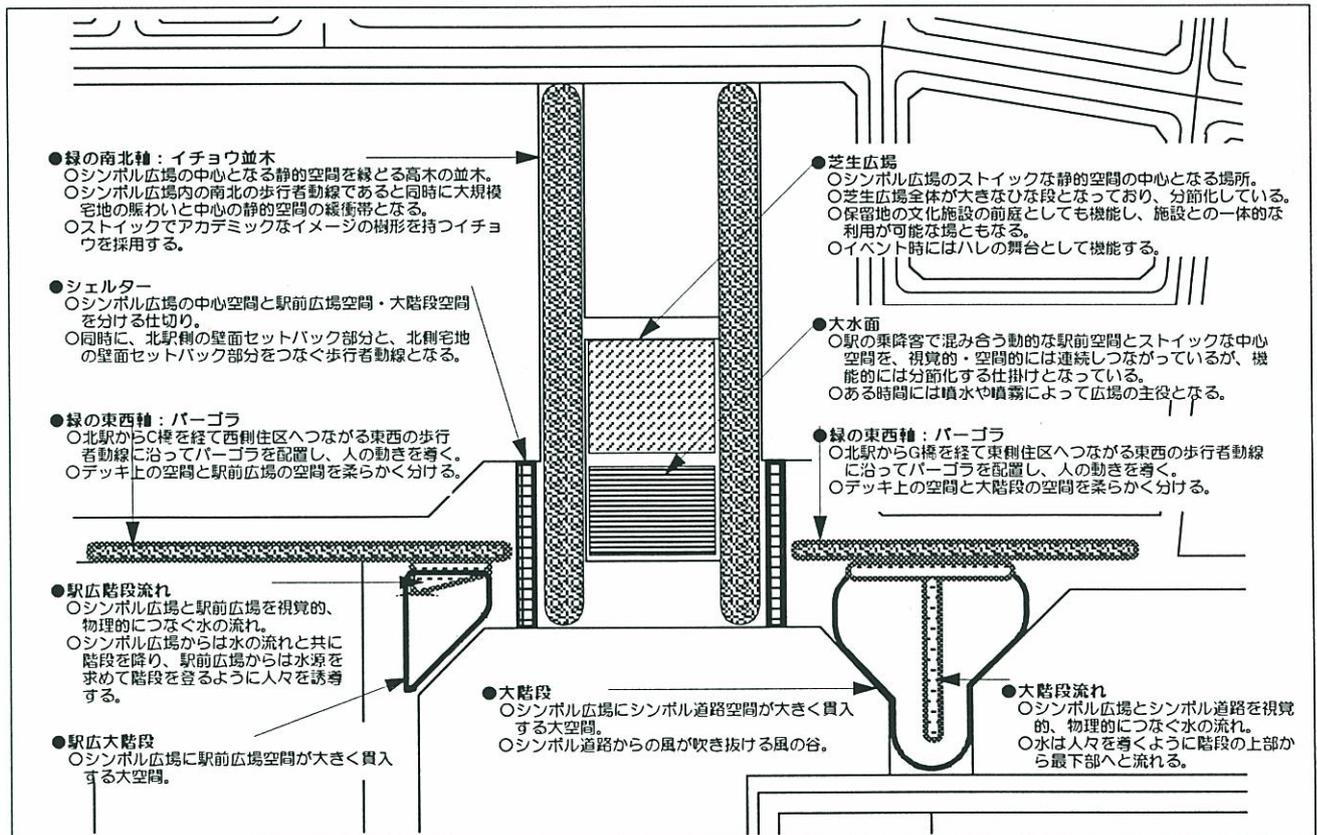
(3) 空間の相互貫入と分節化の仕掛け——それぞれの空間を東西・南北の明確な軸で相互貫入し、それぞれの場を分節化する。

●多様な空間を貫く軸

東西の軸は、様々な形態・機能を持った空間・軸を貫き、多様な空間体験を引き起こす軸となる。

●エコロジカルな仕掛け

空間の相互貫入と分節の仕掛けにエコロジカルな機能を盛り込ませる。



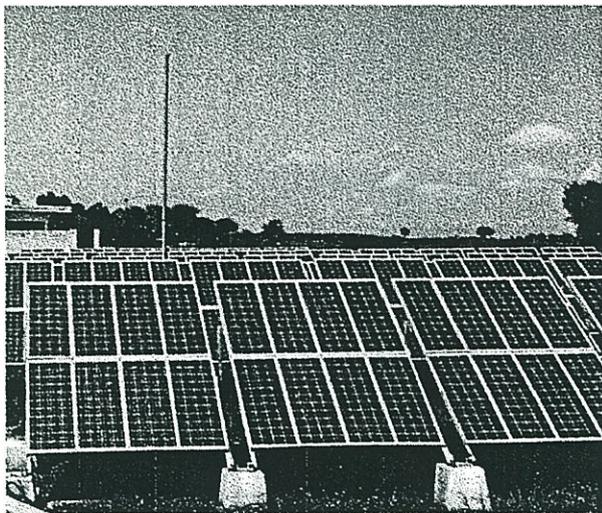
(4) シンボル広場の計画テーマー水と緑、エコロジーとエネルギー

●環境に共存する都市空間

人間と都市を取り巻く自然環境とのこれからのあるべき関係や、エコロジーをテーマに広場を想像する。

21世紀に向けた、環境に対してやさしい都市空間づくりの〈知〉(新技術、情報、提案等)を発信する。

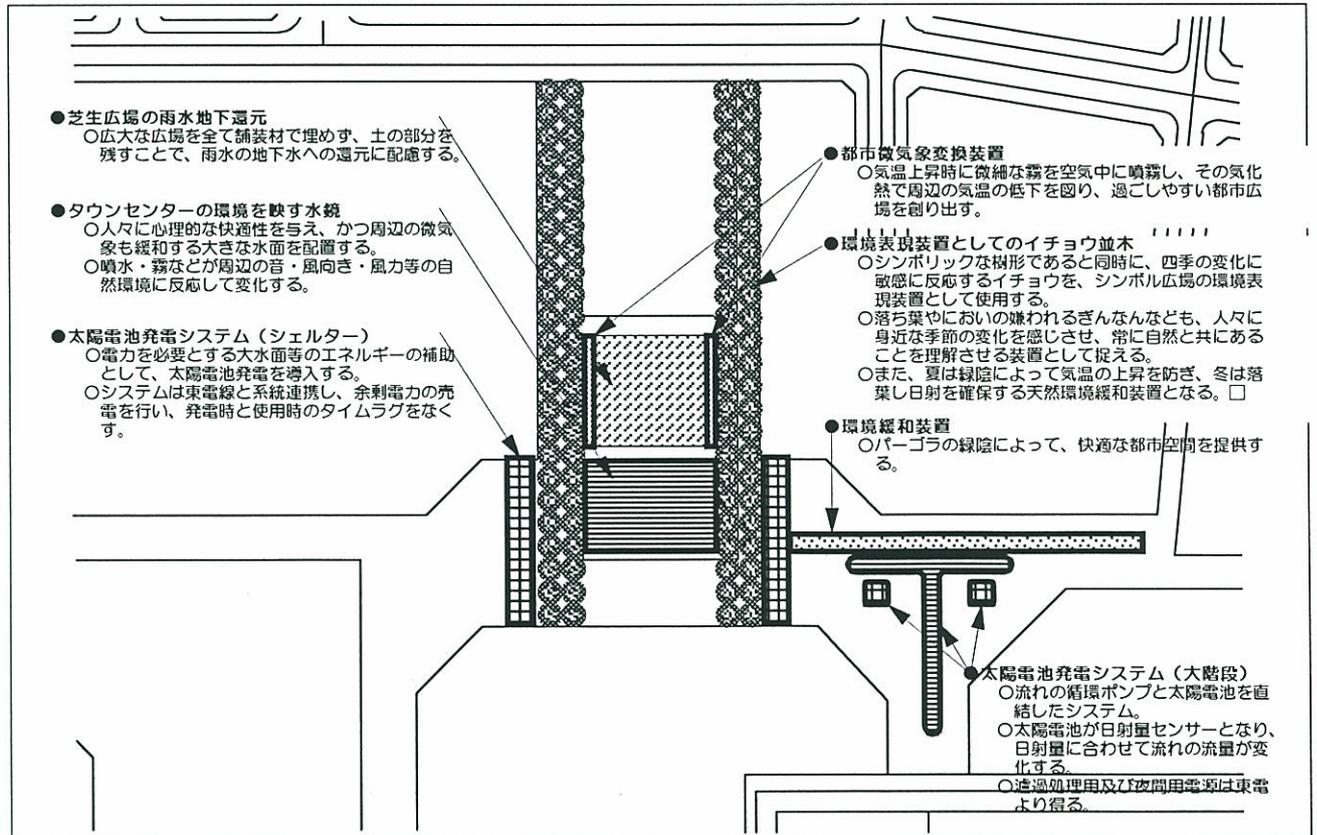
自然の要素の特性や特徴について検証し、シンボル広場のデザインに取り入れる。



○太陽電池発電



○芝生広場



2. シンボル広場のデザインコンセプト

(1) デザインコンセプト

～ 『知の広場』 水と緑、エコロジーとエネルギー ～

21世紀に向けた環境にやさしい都市空間づくりの『知』（新技術、情報、提案等）を発信する広場。

○芝生広場の雨水地下還元—————広大な広場を全て舗装材で埋め尽くさないで、雨水が地下に浸透するように配慮する。

○タウンセンターの環境を映す水鏡—————人々に心理的な快適性を与え、かつ周辺の微気象も緩和する。

○太陽電池発電システム—————エネルギーの自立性向上、クリーンエネルギーの使用
電力を必要とする大水面等のエネルギー補助

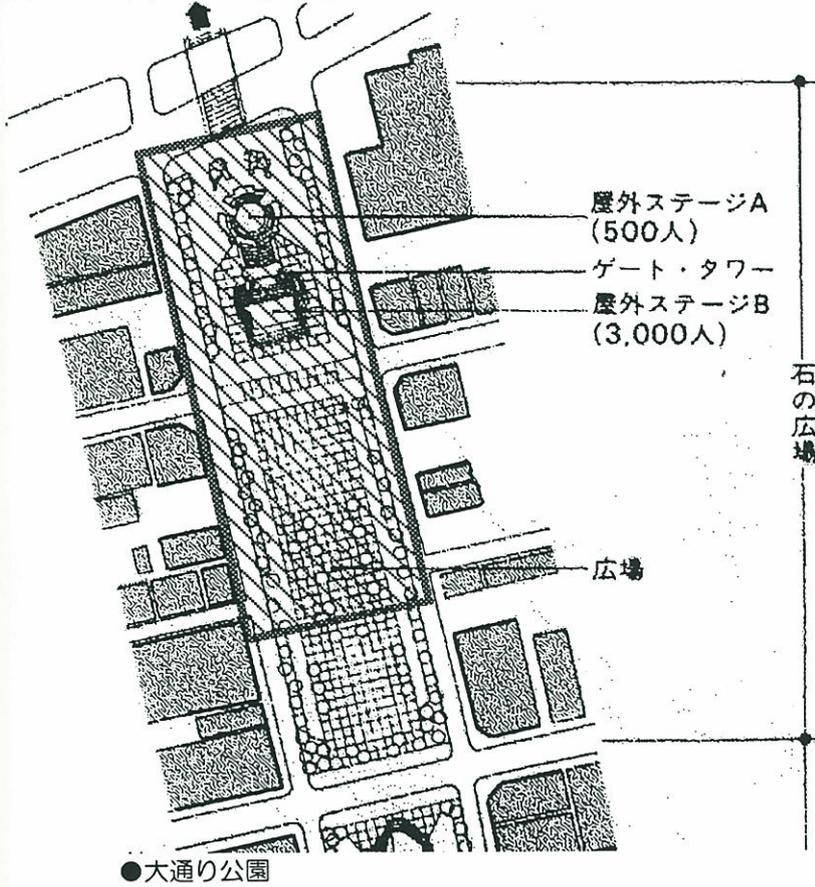
○都市微気象変換装置—————気温上昇時に微細な霧を空気中に噴霧し、その気化熱で周辺の気温の低下を図り、過ごしやすい都市広場を創り出す。

○環境表現装置としてのイチヨウ並木—————シンボリックな樹形であると同時に、四季の変化に敏感に反応するイチヨウ。

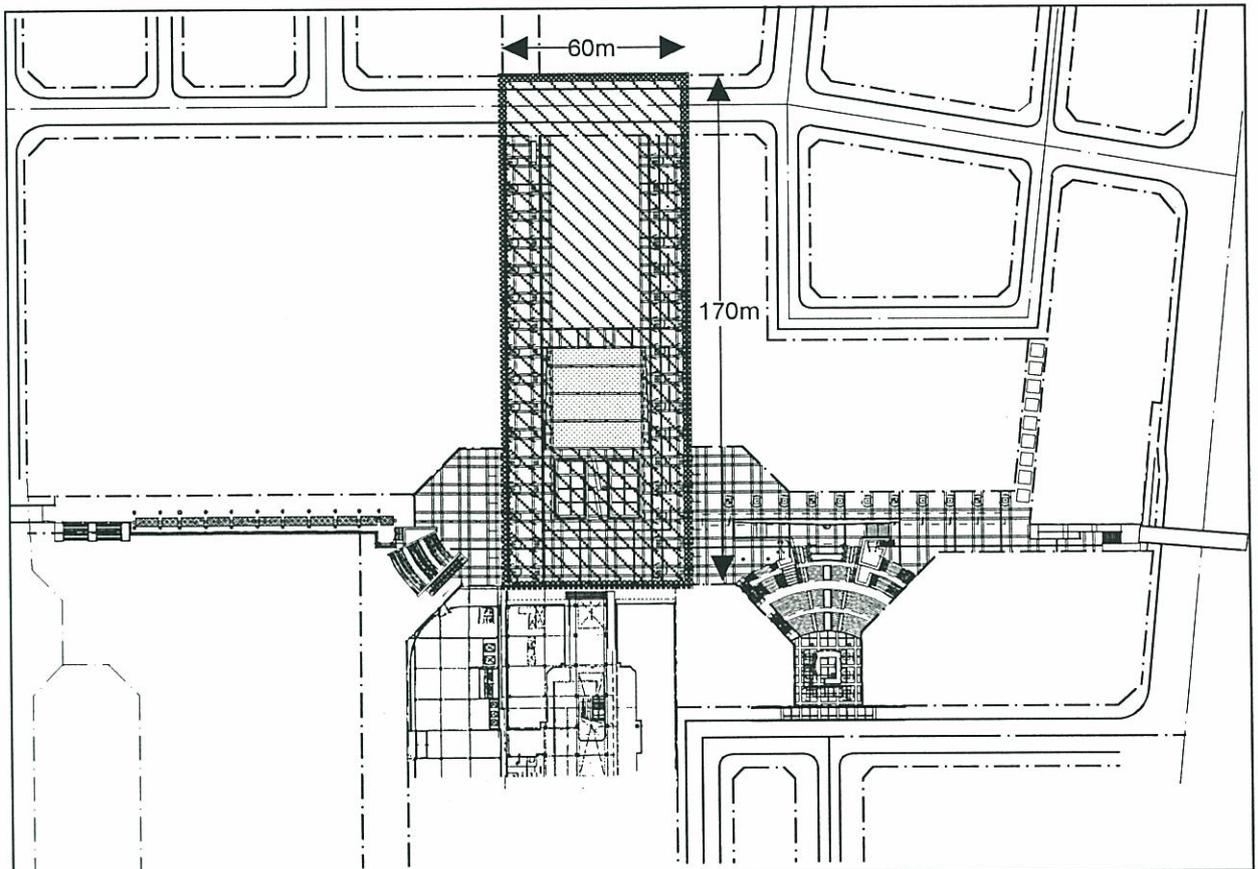
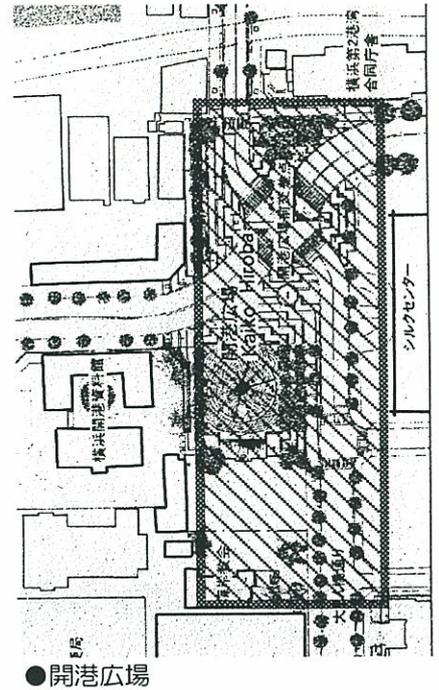
(2) 面積

1.45ha (都市緑地0.25ha、歩行者専用道路1.20ha)

港町くすのき広場 国電関内駅



シンボル広場に空間的規模は、大通り公園の石の広場や、開港広場の全体の空間とほぼ同等の規模を持つ。



(3) 空間構成要素

○芝生広場（都市緑地内）

・シンボル広場に静的空間の中心となる場所で、イベント時にはハレの舞台として機能

- ・30m×30m、900m²
- ・照明灯と噴霧装置を付けた列柱（H=8m、16本）
- ・階段部分にも噴霧装置と照明器具を大水面の照明のグリッドに合わせて設置。
- ・階段ブロックには発光ダイオードを内蔵

○大階段（歩専用用地内）

- ・シンボル広場にシンボル道路空間が大きく貫入する大空間
- ・高低差10m、幅員22~60m
- ・中央にカスケード（流れ）（幅員2m、延長30m）と滝（幅8m）
- ・下部に水上ステージ（9m×10m）
- ・上部に流れ（幅員1.5m、延長50m）
- ・動力源はフォリーの太陽電池も使用する。

(4) 主要施設

○シェルター（歩専用用地内）

・駅から商業施設へのアクセスともなる屋根施設であり、シンボル広場の中心空間と大階段・駅前広場の各空間を分節する仕切り

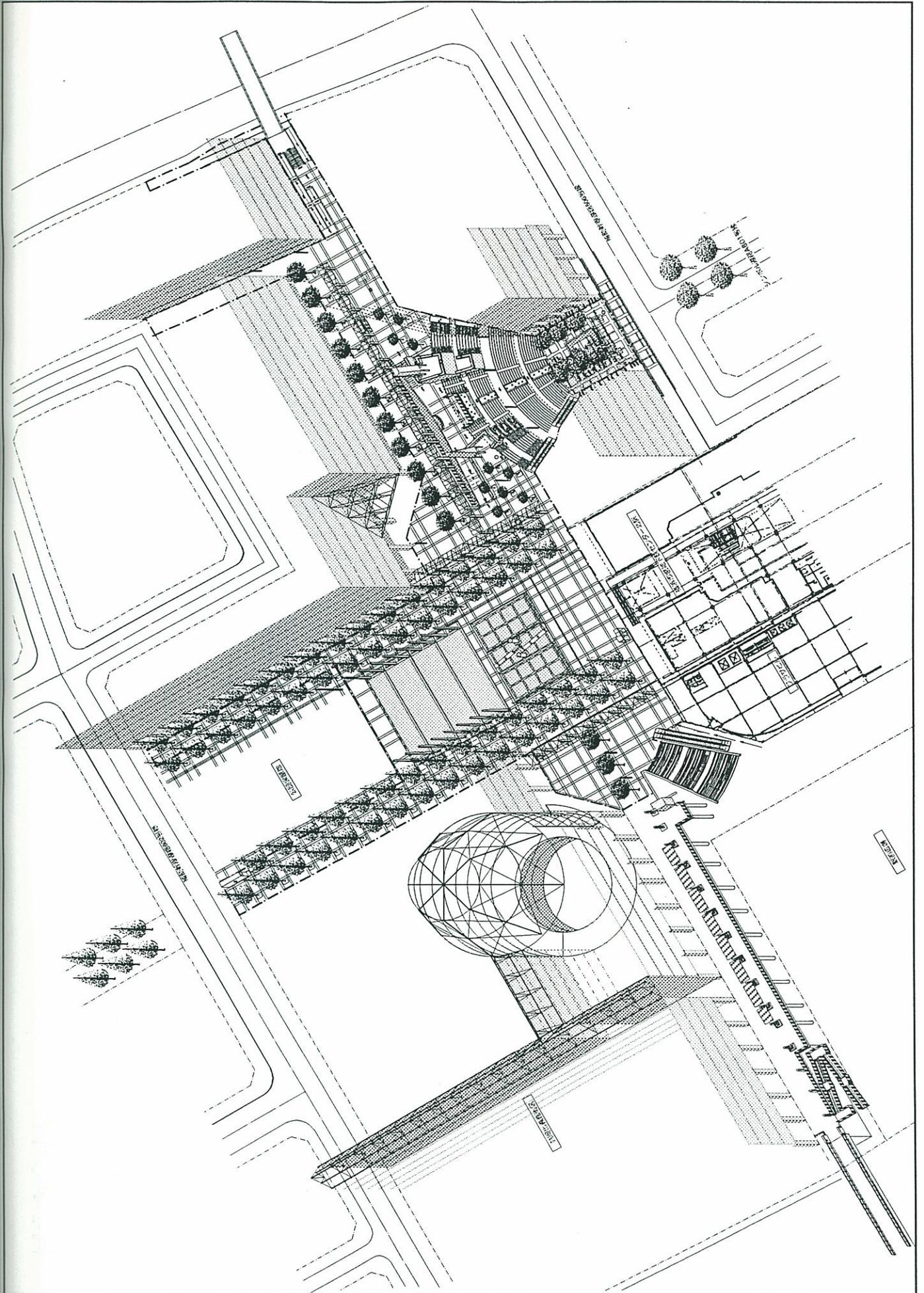
- ・2か所、幅員4m、延長各45m、高さ5m、太陽電池組み込み
- ・大水面のポンプ等の動力電源

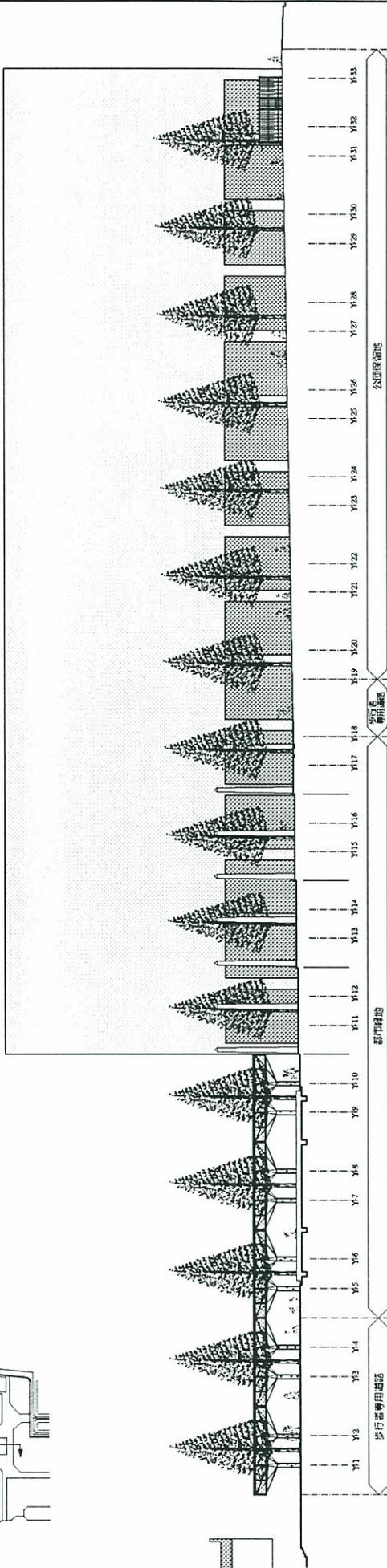
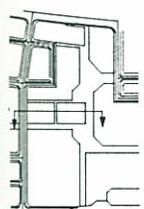
○パーゴラ（歩専用用地内）

- ・幅員3m、延長100m、高さ3m
- ・屋根部は溶接金網で、ツタを絡ませる。

○フォリー（歩専用用地内）

- ・太陽のフォリー（高さ9m、3.5m×3.5m）
- ・月のフォリー



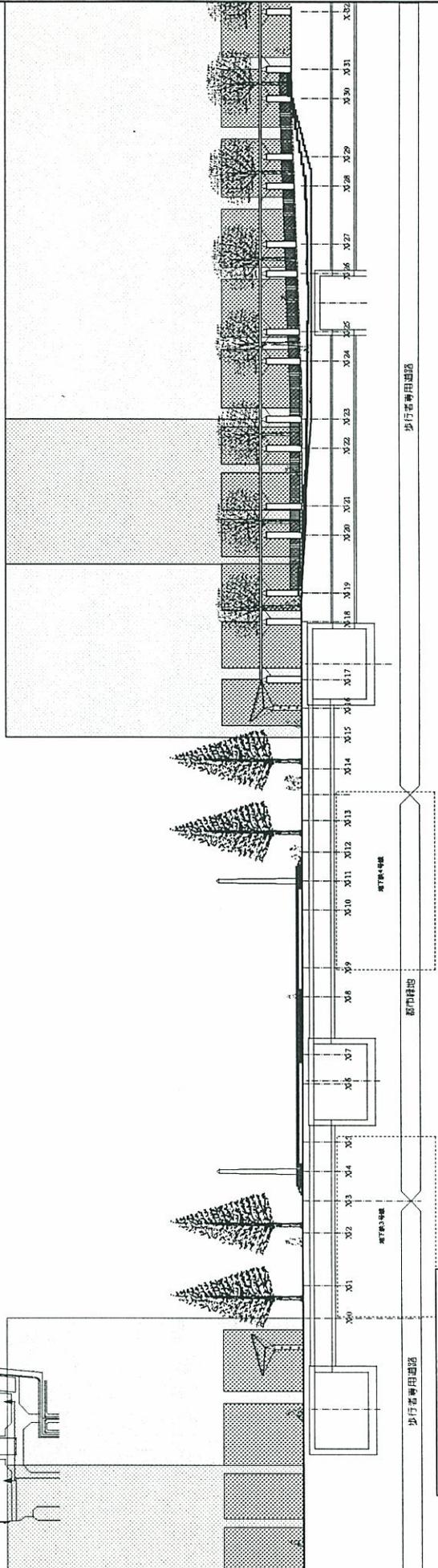
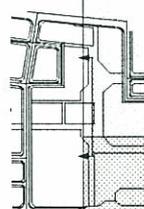


歩行者専用道路

公園緑地

歩行者専用道路

シンボル広場南北断面図 S=1/200



歩行者専用道路

歩行者専用道路

シンボル広場東西断面図 S=1/200

III. 基本設計

1. 基盤施設設計

シンボル広場の基盤を構成する施設について、基本方針、デザインコンセプト、素材、モジュール等について示す。

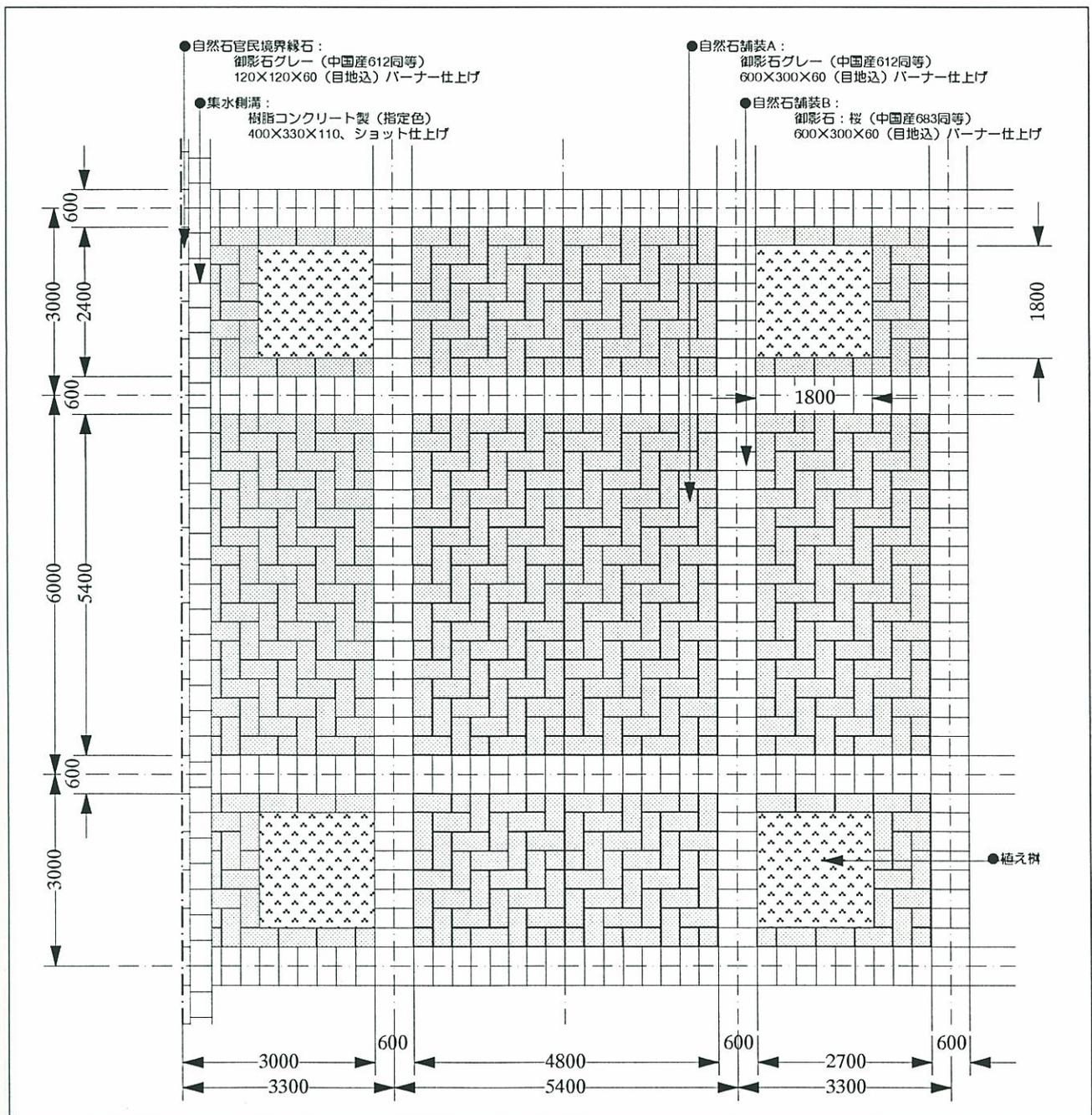
(1) 舗装計画

シンボル広場の舗装は、タウンセンター内で最もグレードの高い公共空間である。その空間に相応しい舗装材として自然石舗装を行う。

舗装は、3mと6mの複合グリッドをモジュールとする。グリッド部分は桜御影、面部分は、グレーの御影石を使用する。

また自然石の大きさは、シンボル広場の大空間に相応しく、300×600の大判のものを使用する。

階段部分の舗装も基本的に自然石（グレーの御影石）で行う。



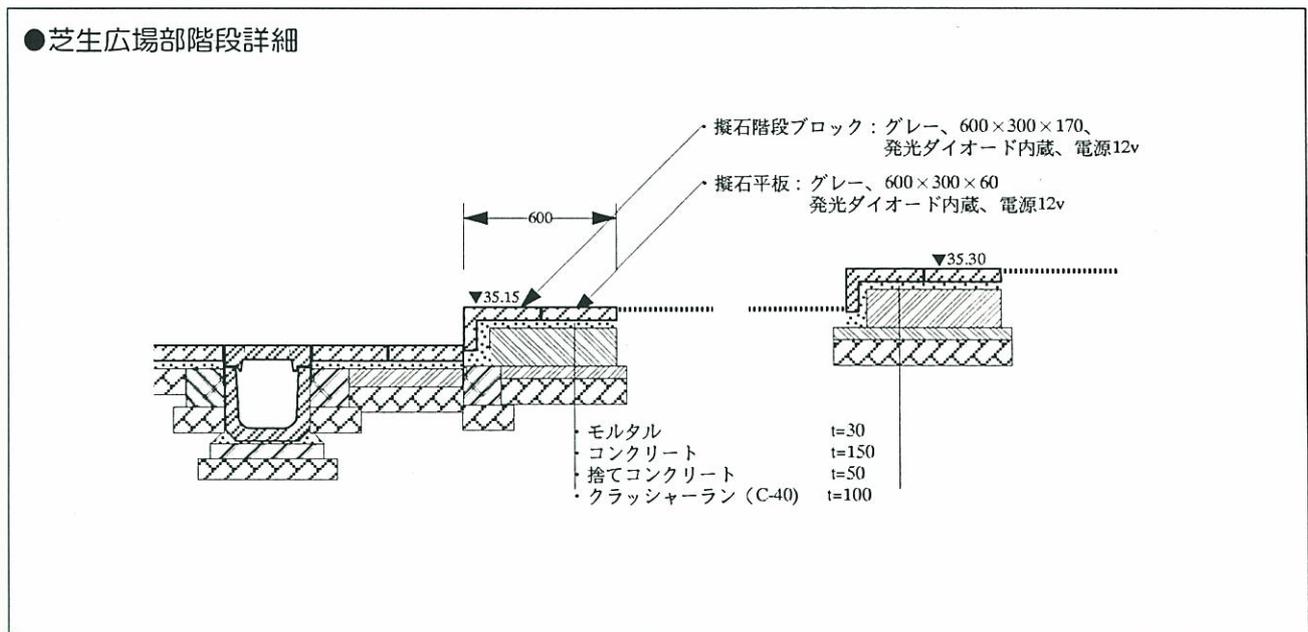
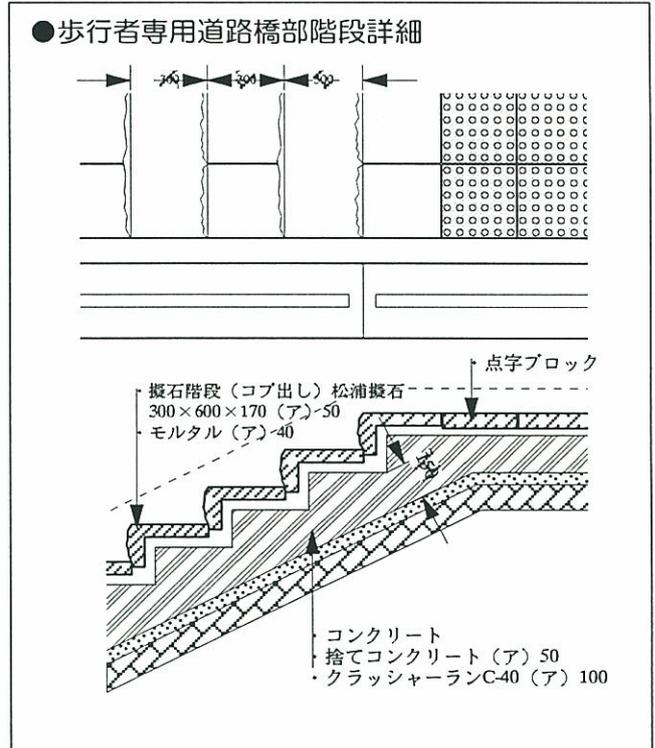
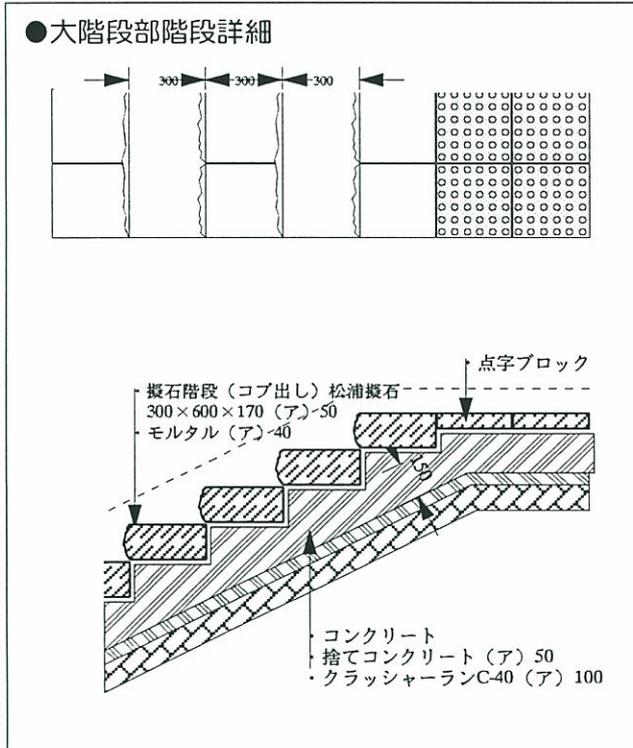
(2) 階段

シンボル広場の階段は、大階段、芝生広場外周部、歩行者専用道路橋橋詰の3箇所となっている。

大階段は、1/2勾配、1/4勾配共に、自然石を用いて、風格ある空間を創り出す。グレーの御影石を使用し、仕上げは踏み面を小叩き、蹴上げをコブ出しの仕上げとして、自然石の素材感を活かした仕上げとする。

芝生広場の階段は、発光ダイオードを内蔵した擬石コンクリート階段ブロックを使用する。発光ダイオードは、大水面の水中照明と連動して夜間のシンボル広場を演出する。

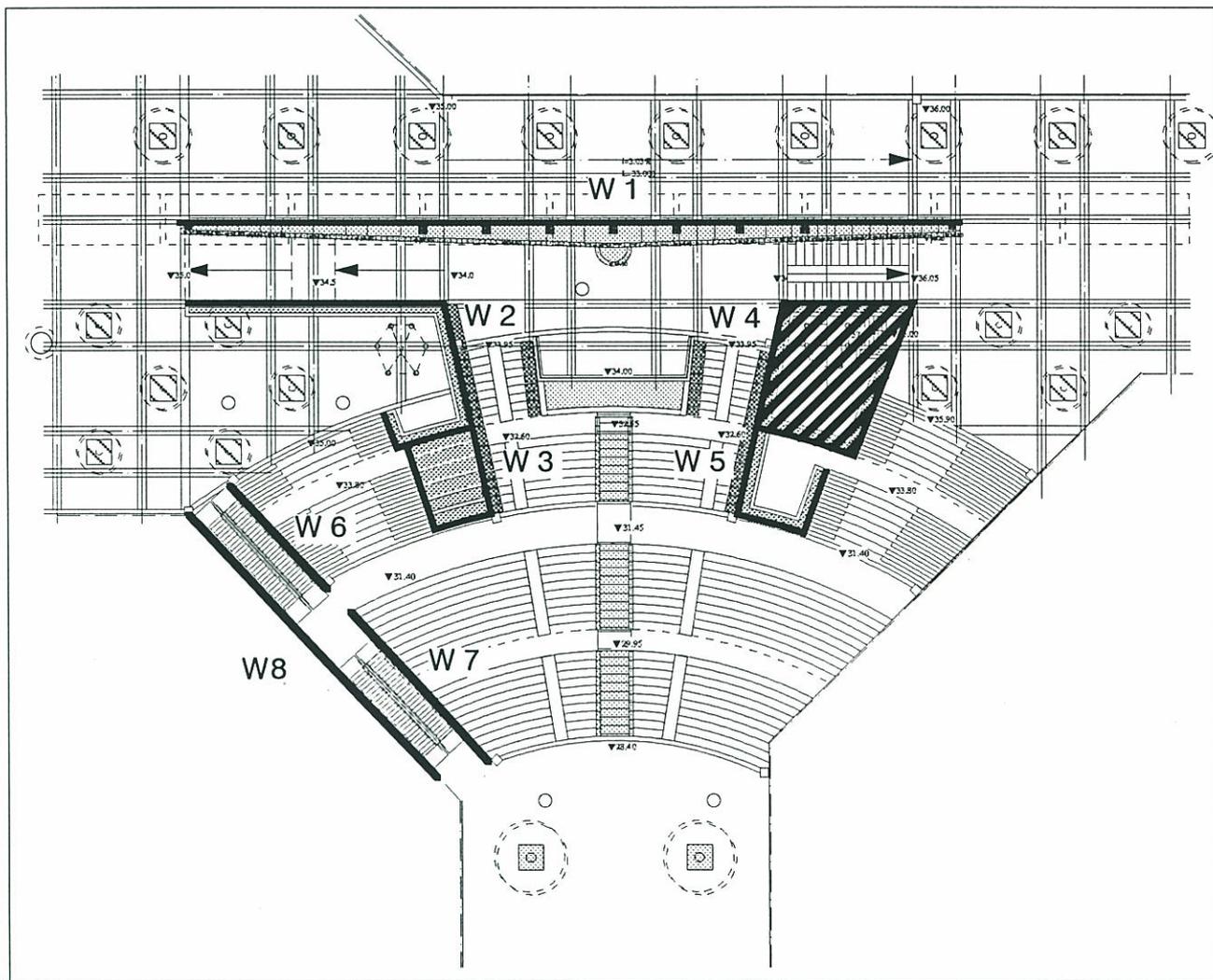
歩行者専用道路橋の階段は、擬石のコンクリート階段ブロックを用いる。



(3) 擁壁

シンボル広場の擁壁は、大階段周りのみとなっている。各擁壁の考え方について以下に整
 する。

- W1 : パーゴラの支柱 (φ600)、及び流れの構造体と一体的に造る擁壁。
 表面は厚30の自然石貼りとする。
- W2 : 上部に植栽帯が乗る直擁壁。表面は、縦リブの化粧型枠を使用した打ち放し仕
 上げとし、足元にツタ類を植えて表面に這わせる。
- W3 : 雑段上の植栽樹と一体になった擁壁。表面仕上げはW2と同様とする。
- W4 : 電気機械室と一体的に造る擁壁。上部中央にフォリー、上部外周に植栽帯が乗る。
 表面仕上げはW2と同様とする。
- W5 : 上部に植栽帯が乗る直擁壁。表面仕上げはW2と同様とする。
- W6 : エスカレーターと階段を分ける直擁壁。エスカレーターの整備が公共空間内でなけ
 れば不要。表面仕上げは打ち放しとする。
- W7 : W6と同等。
- W8 : エスカレーターと民間宅地を分ける直擁壁。W6 W7と同様にエスカレーターが公
 共空間内で整備しないならば必要ない。

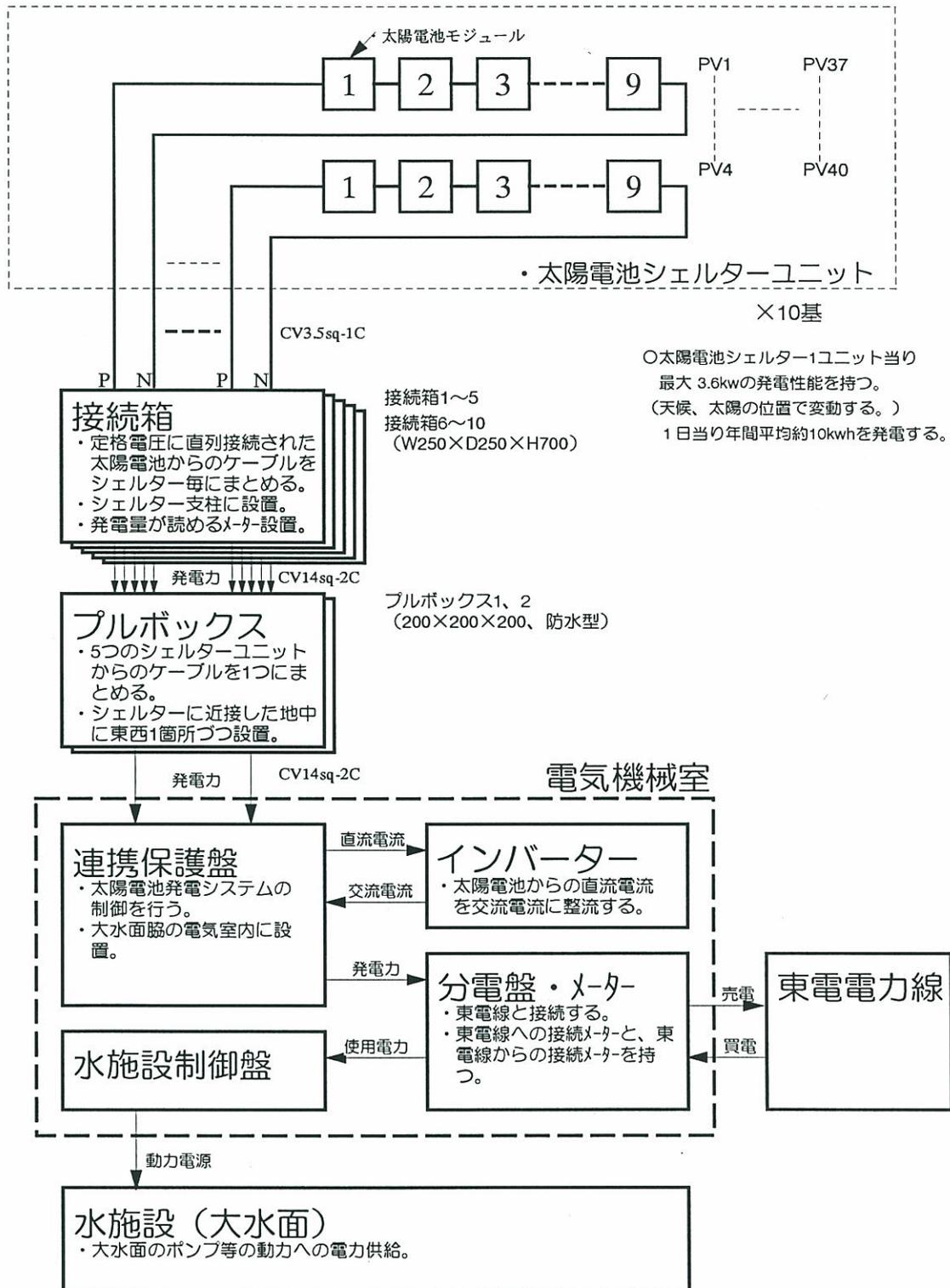


○太陽電池発電システムの考え方

太陽電池発電は、以下のような仕組みとなっている。

1. 太陽電池モジュールが太陽光を受けて電気が生じる。
2. モジュール当りの電圧が小さいため、規定電圧までモジュールを直列接続する。
3. 幾つかの直列回路を、シェルターユニット毎に接続箱で一つにまとめる。
4. さらに幾つかのユニットからのケーブルをプルボックスでまとめて、連携保護盤に接続する。
5. 連携保護盤は、太陽電池からの直列電流をインバーターを介して交流電流に変換して、水施設等への電力供給や、東電線との接続を行う。

○太陽電池発電システムの概略図

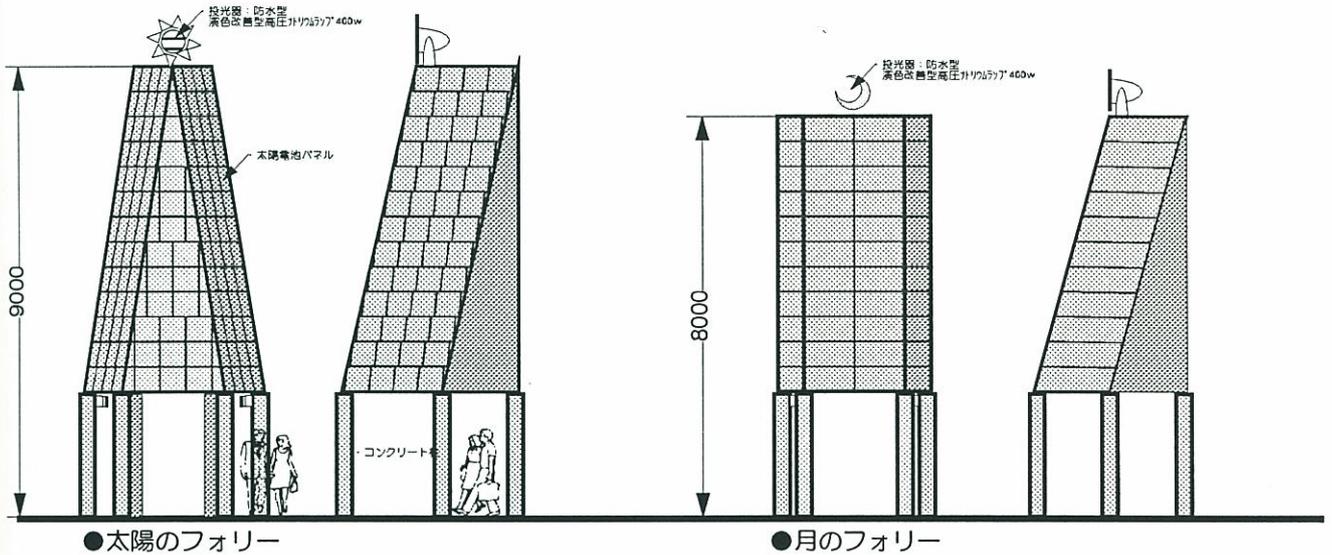


(2) フォリー

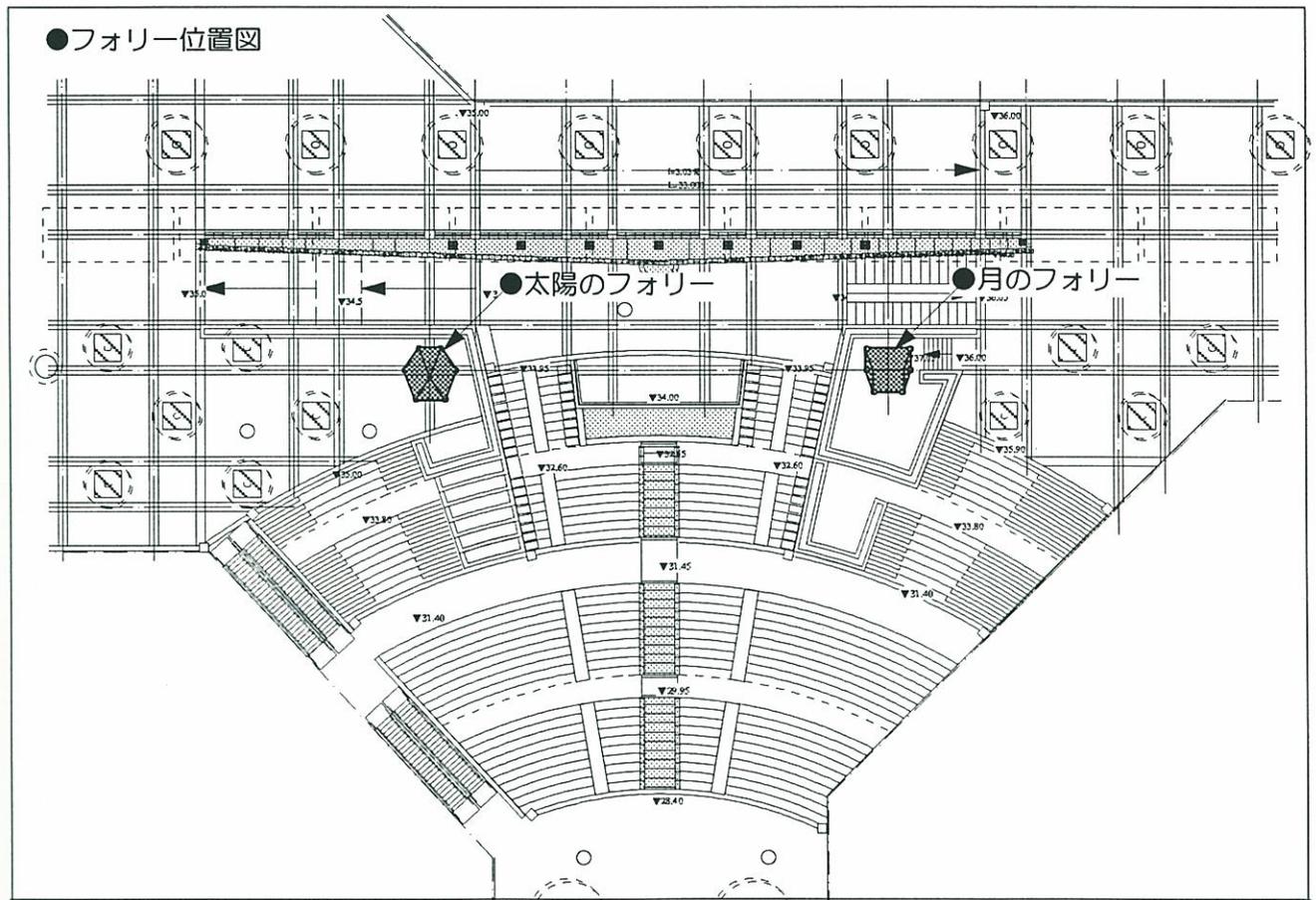
○フォリーの構造

フォリーは、大階段上部の左右に位置し、それぞれ太陽と月の対になっている。
 フォリーは6本のコンクリートの柱の上に鉄骨造の屋根が乗る構造となっている。
 フォリーの屋根は太陽電池パネルで覆われ、大階段の水施設のポンプ運転の電力源として機能している。

また、屋根の最上部には、それぞれ太陽と月のシンボルが付き、その中心にはスポットライトが設けられ、大階段を照らす。



●フォリー位置図

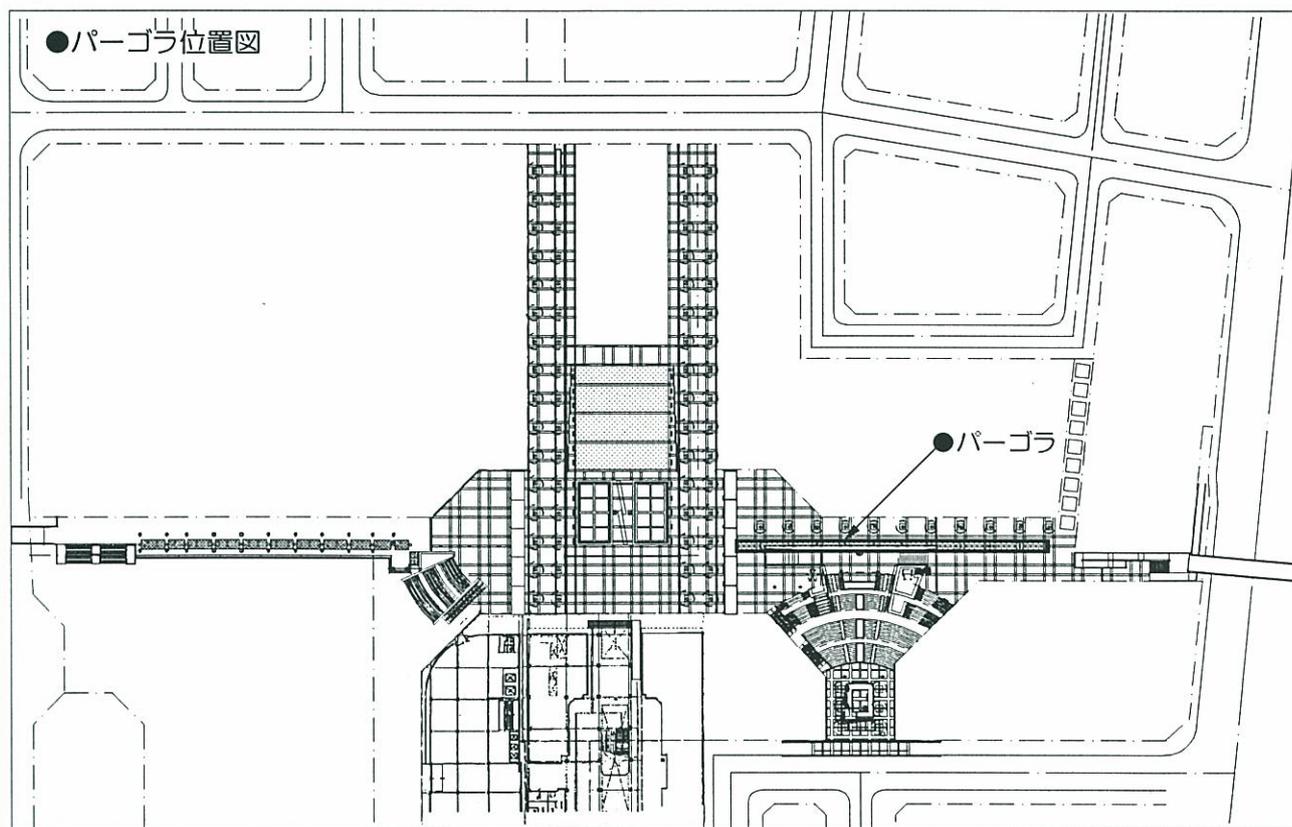
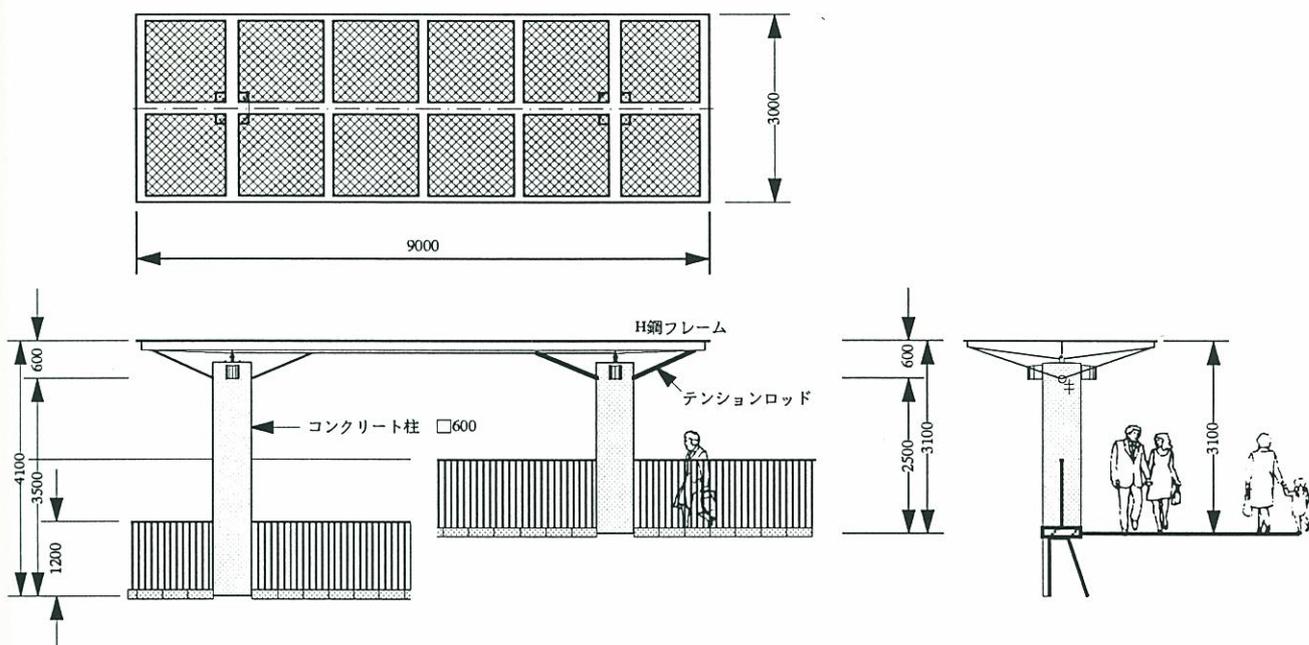


(3) パーゴラ

パーゴラは、コンクリート柱の上に鉄骨造のフレームを乗せ、テンション材でバランスを取る構造である。フレームの間にはツタを絡ませる溶接金網を斜めに溶接し、ブレースを兼ねる構造とする。

柱には歩道部分の照明のためのブラケット照明（高演色型ナトリウムランプ 70w）、及びツタを絡ませるためのガイドが取り付けられている。

柱の足元にはツタ類を植えるための植え柵も用意されている。



3. 水施設

(1) 水施設の系統

シンボル広場の水施設は、大きく2つの系統に分けて計画している。

ひとつは、北駅出入口の北側、シンボル広場の中央の都市緑地内に位置する大水面であり、もうひとつは大階段の流れであり、シンボル広場とシンボル道路Aとを結ぶ大階段（歩専道）の最上部から最下部へと流れ落ちる流れである。

○大水面（都市緑地内）

大水面は、都市緑地の南半分であり、芝生広場と駅舎前広場の間に位置する。

大水面は、東西に大きく3つの水面に分けられている。左右の水面は周辺広場のレベルから40cm高くなっており、4辺のエッジから水がこぼれる。中央の水面は周囲から2.5cm下がっており、その中央には雁行した八つ橋が架けられている。

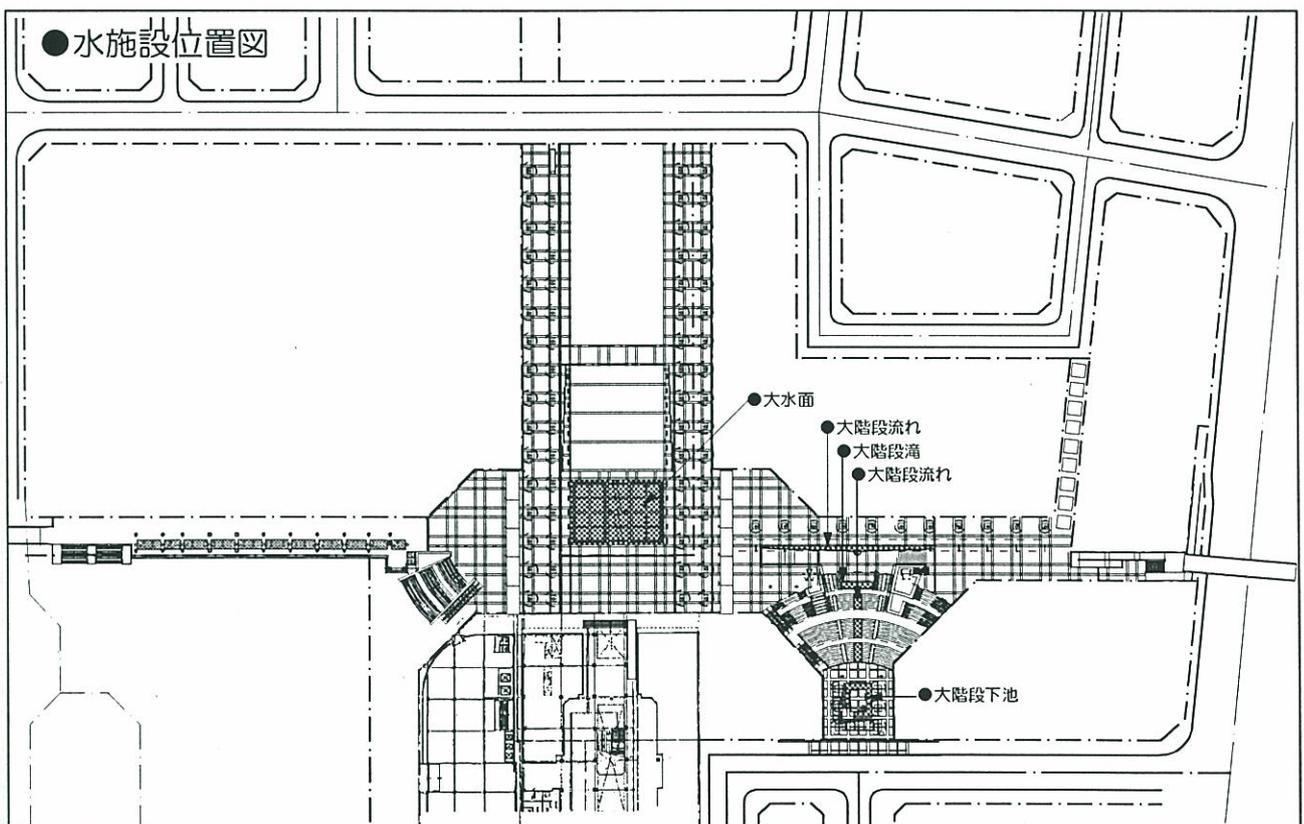
八つ橋はステンレスグレーチングで造られており、水底が透けて見える。またグレーチングのすき間からは霧が噴き出す。

○大階段水施設（歩専道用地内）

大階段の上部左右から水が流れ出て中央に集まり、見晴らし台の足元から滝となって流れ落ち、再び集まって1本の流れとなって大階段下広場の池まで流れる。

上部の流れに沿った擁壁の壁面に吐水口があり、太陽電池発電の発電量に合わせて吐き出す水の量が変化する仕掛けとなっている。

大階段の水施設は、同じ流れ落ちる水の動きに対して多様な動きを与え、水の様々な表情を楽しめるようになっている。



(2) 大水面水施設

○大水面の水演出の考え方

大水面の水の演出は、グリッド状に並んだあぶくの噴水と、

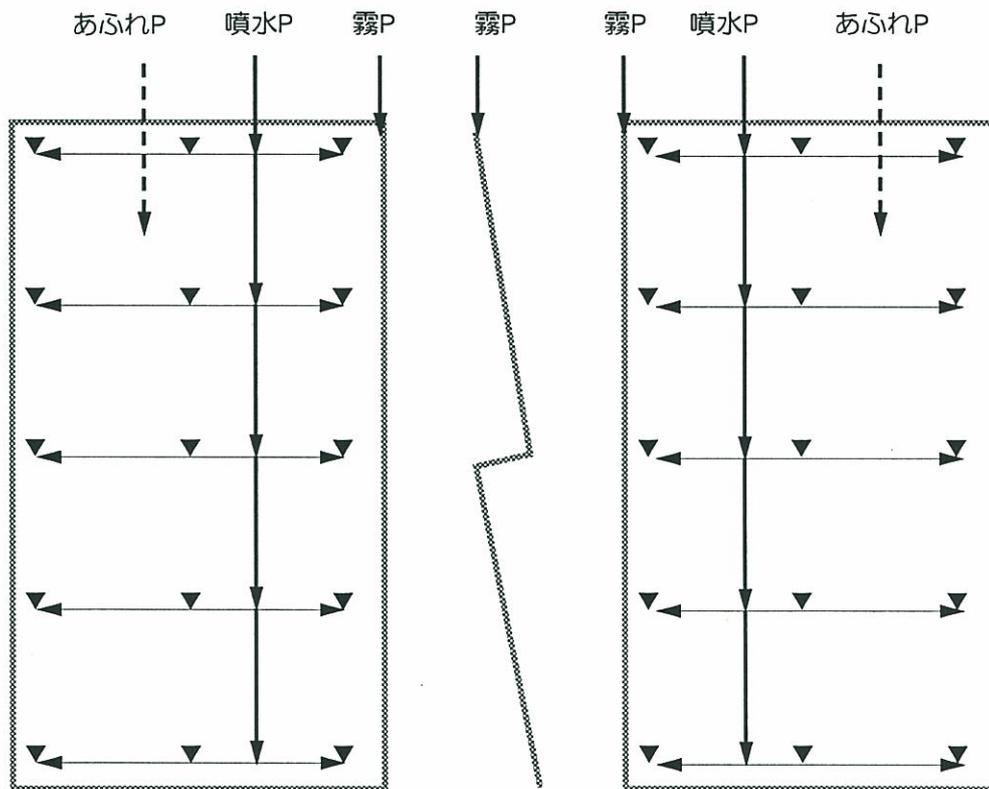
○水施設の系統

1つのポンプに接続されるノズルのグループを1系統とすると以下のように系統が組まれる。

- ・噴水——左右の水面毎に、計2系統
 - ・噴霧——左右の水面の縁取り各1系統
中央の八つ橋周り1系統 計3系統
 - ・池のあふれ——左右の水面毎に、計2系統
- ・大水面の系統合計——7系統 (=噴水系統+噴霧系統+あふれ系統)

これらの各系統の中でさらに細かい演出を行う場合には、電磁弁の開閉によってコントロールする。

水施設の系統例



P=ポンプ

○太陽電池発電システムと東電系統連係

大水面の水施設は、シェルターの屋根に設置された太陽電池による発電力を、補助エネルギーとして使用する。

噴水や噴霧による動きのある水表現するため、発電量と水施設の使用量にタイムラグやバランスのずれが生じるが、これは基本的に太陽電池による発電電力は東電に売電し、水施設に必要な電力は必要な時に必要な量だけ東電から買電するシステムとする。

これらのコントロールに必要な機器類は、大水面北の地下に設けた電気機械室に設置する。

○大水面の規模

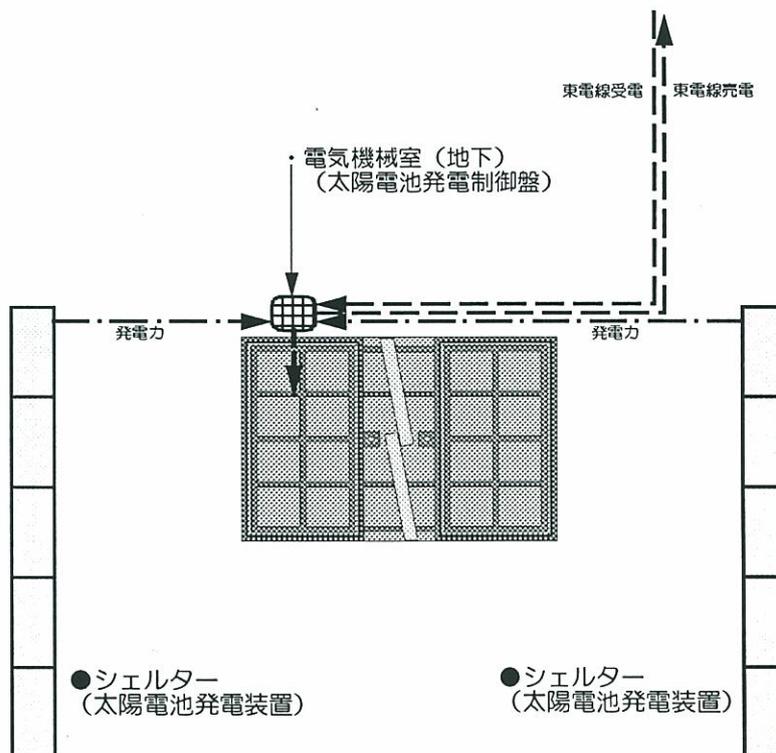
- ・保有水量-----約 180m³
- ・ポンプ電力容量-----約 50kw
- ・照明電力容量-----約 20kw

○太陽電池発電システムの性能

- ・最大発電能力-----約30kw
- ・1日当り平均発電量-----約100kwh

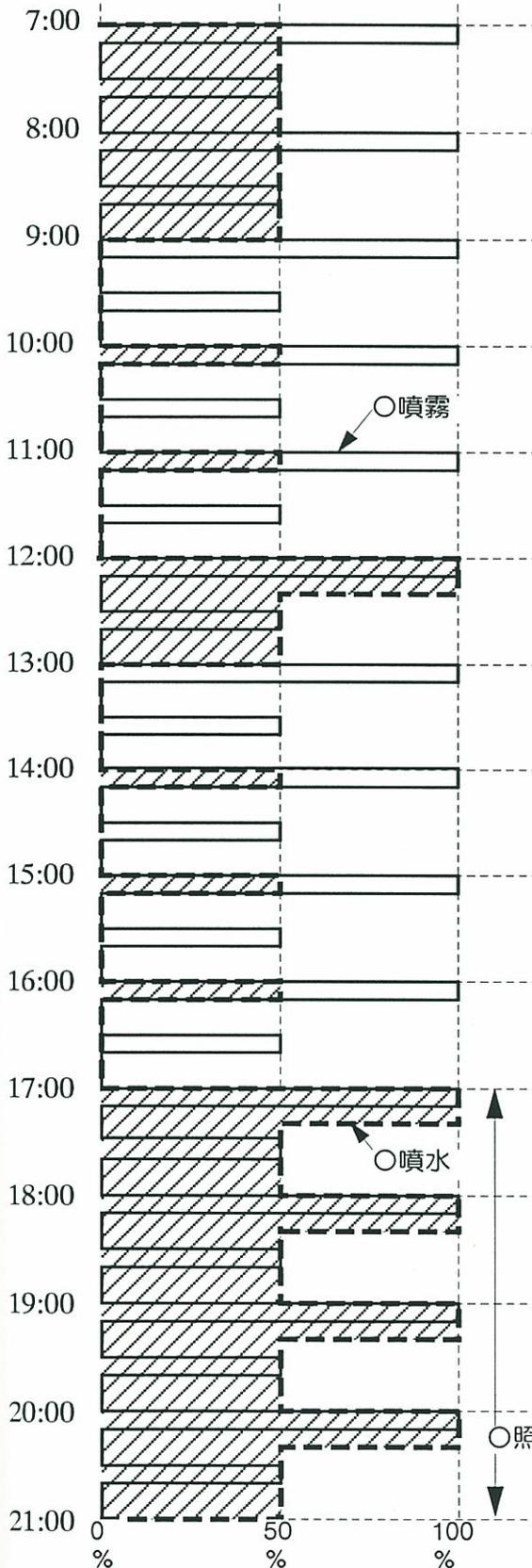
(関東では、年間を平均すると1日約3.3時間の平均日照が得られる。)

●大水面水施設と太陽電池発電システムの系統



●大水面水施設と太陽電池発電システムの運転シミュレーション

大水面の水施設の運転スケジュールを左図のように設定し1日当りに消費する電力量と太陽電池での発電力との関係を算する。



○運転のモデルの考え方

・噴水---噴水は、毎時0分から10分間定期的に運転を行う。に朝・昼・晩の人通りの多い時間帯は50%の継続運転を行い、シンボル広場の賑わいを演出する。

運転時間中の噴水の細かな制御はコンピューターの電磁弁開閉コントロールにより行う。

・噴霧---霧は、毎時0分から5分間にフル運転、30分から5間に50%運転の定期運転を行う。

○設備の電気容量

- ・噴水----3.7kwポンプ 4基 =14.8kw
- 2.2kwポンプ 2基 = 4.4kw /19.2kw
- ・噴霧----5.5kwポンプ 3基 =16.5kw
- ・水の濾過・殺藻----7.5kwポンプ 1基
- ・照明----噴水用 0.15kw×60基 =9.0kw
- 霧用 0.15kw×20基 =3.0kw
- 八つ橋 0.15kw×10基 =1.5kw /13.5kw

○1日当り消費電力

- ・噴水-----19.2kw×4.75h = 91.2kwh
- ・噴霧-----16.5kw× 3.5h = 57.8kwh
- ・濾化----- 7.5kw× 8.0h = 60.0kwh
- ・照明-----13.5kw×2.67h = 36.0kwh / 245kwh

○太陽電池システムの1日当り発電量

- ・システムの容量----- 36kw
- ・1日当り平均有効日照時間-----3h (年間平均)
- ・システムの1日当り発電電力量-----
- 36kw×3h =108kwh

○水施設消費電力に占める太陽電池発電の割合

上記の結果から水施設の消費電力に占める太陽電池発電による発生電力量の割合は下記ようになる。

・108kwh/245kwh = 44%

●大水面の運転シミュレーション・モデル

(3) 大階段水水施設

○流れの規模

- ・ 保有水量-----約160m³
- ・ ポンプ用電力量-----約20kw
- ・ 照明用電力量-----約5kw
- ・ 水の出口--- 1) 流れ最上部- 2箇所
2) 擁壁側面吐水口- 7箇所

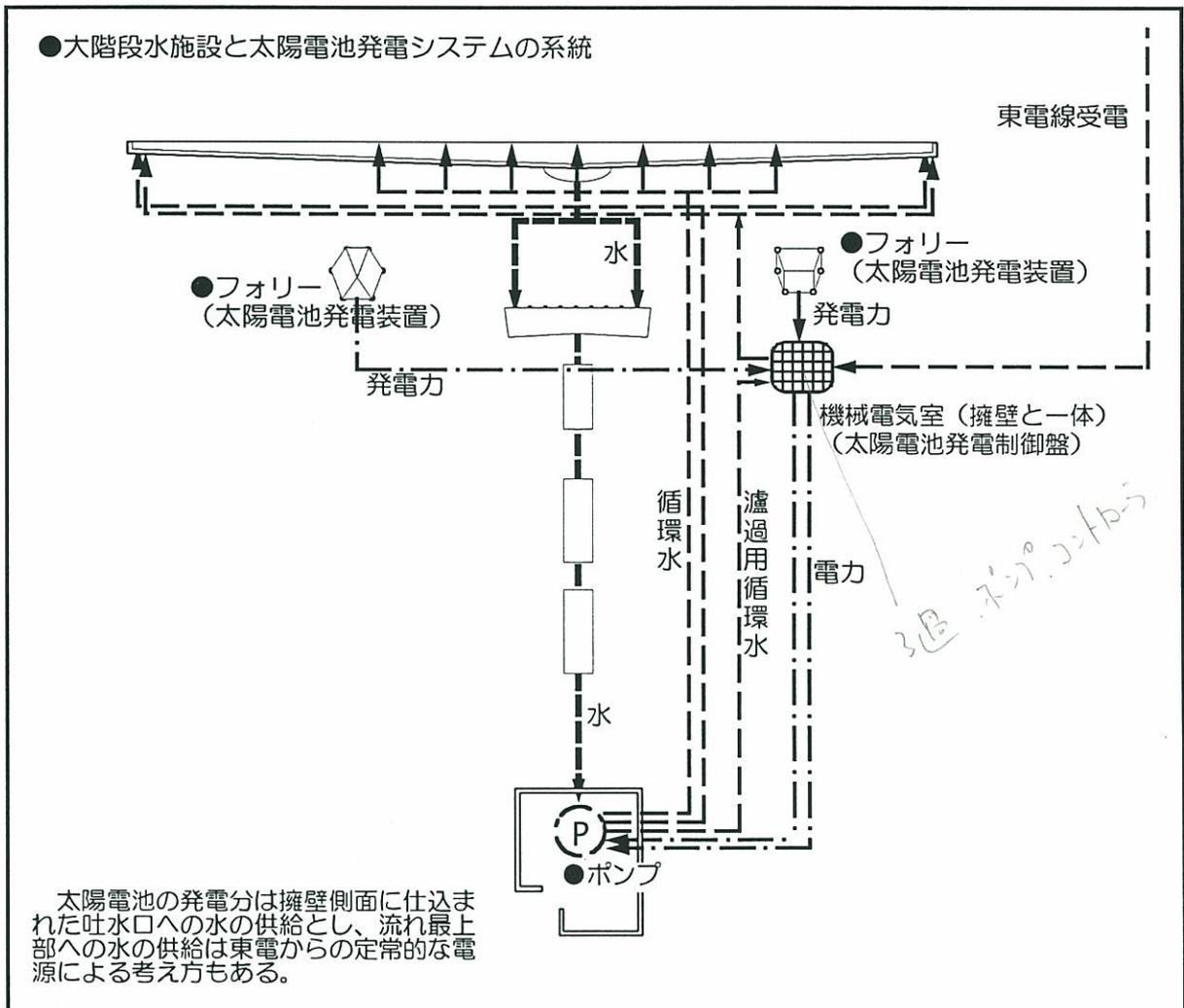
○大階段水施設と太陽電池発電システムの関係

大階段の水施設は基本的に、階段上部にあるフォリーの屋根に設置された太陽電池による電力で水の循環を行う。太陽電池とポンプをダイレクトにつなぐことで、日射量の変化に合わせて流れる水量が変化するようにする。夜間や雨天時に行う運転、及び水の濾過・殺菌に必要な電力は東電からの受電によって行う。(タイマー等により時間をコントロールする)

これらのコントロールに必要な機器類は、東側のフォリーの地下に設けた電気機械室に設置する。

○太陽電池発電システムの性能

- ・ 1日当りの発電能力-----約10kwh (両フォリーの合計)



(4) 設備の維持管理コスト

○太陽電池発電システム

- i. 系統連係システム (シェルター)
 - 1) 耐用年数
 - ・太陽電池----- 20年以上
 - ・インバーター----- 15年以上
 - ・系統連係制御盤----- 15年以上
 - ・接続箱----- 15年以上
 - 2) 保守、管理
 - ・年2回以上法定点検実施 (10kw以上100kw未満)
 - ・1回5万円~10万円
 - ・年間10~20万円
- ii. ポンプ直結システム (大階段)
 - 1) 耐用年数
 - ・太陽電池----- 20年以上
 - ・制御盤 (インバータ含む) ----- 15年以上
 - ・接続箱----- 15年以上
 - ・ポンプ----- 8~10年
 - 2) 保守、管理
 - ・4年1回以上法定点検実施 (10kw未満)
 - ・1回1.2万円程度
 - ・別途年1回10万円程度のメンテナンス
 - ・年間11万円

○水施設

- i. 大水面
 - 1) 電気代 (1kwh=30円)

P24のシミュレーションによる消費電力積算データによる
 $(245\text{kwh}-108\text{kwh}) \times 30\text{円} = 4,100\text{円/日}$
 - 2) 水道代 (水の紛補給) (1 m³=600円)

$180\text{m}^3 \times 10\% \times 600\text{円} = 10,800\text{円/日}$
 - 3) メンテナンスコスト (年間)
 - 濾過材交換-----170万円
 - 殺藻カートリッジ交換-----85万円
 - 機器点検-----70万円
 - ・年間 約325万円
 - (4) 年間総合計

約875万円
- ii. 大階段流れ
 - 1) 電気代 (1kwh=30円)

水の濾過、殺藻用ポンプ
 $2.2\text{kw} \times 8\text{h} \times 30\text{円} = 528\text{円/日}$

夜間運転用
 $4.4\text{kw} \times 4\text{h} \times 30\text{円} = 528\text{円/日}$

1日当り 1,056円/日
 ・年間 約40万円
 - 2) 水道代 (水の紛補給) (1 m³=600円)

$160\text{m}^3 \times 10\% \times 600\text{円} = 9,600\text{円/日}$

・年間 約350万円
 - 3) メンテナンスコスト (年間)
 - 濾過材交換-----120万円
 - 殺藻カートリッジ交換-----65万円
 - 機器点検-----50万円
 - ・年間 約235万円
 - (4) 年間総合計

約625万円

4. 照明電気設備計画

(1) 照明計画の考え方

このシンボル広場の空間構成の特徴は、整然とデザインされたスクエアな広場を中心に明確な軸線を持つことである。照明デザインもこの空間的特徴を活かすように計画する。

○南北軸：フロウォッシャーライト＋樹木のライトアップ

広場の北側からアプローチする2本の緑の南北軸には、フロアウォッシュ型の低照明を配置し、光のじゅうたんを創り出す。同時に樹木のライトアップを行うことにより南北軸を強調する。

○東西軸：ブラケット照明

広場の東西軸は、様々な空間形態、空間機能を持つゾーンと、それに結びつく幾つかの南北軸や幾つかの構造物を結んでいる。これらの構造物に付属する形で照明を配置し、軸線の照明と構造物のライトアップを行う。

○芝生広場

2本の緑の南北軸に挟まれた芝生広場は、両側に立てられた柱の頂部側面に埋込まれたスポット照明によって明るさを確保する。

階段には発光ダイオードを内蔵した階段ブロックを用い、光が波のようにうごめくような光の仕掛けを行う。

○大水面：噴水・噴霧のライトアップと光柱

大水面の照明は、噴水のノズル脇にライトアップ用の水中照明を配置し、噴水の運転や周辺環境に対応して点滅する。

池の周辺部と八つ橋の噴霧ノズルにもライトアップ用の照明を設置する。

八つ橋の両側に立つ2本の柱の中には2kwのキセノンランプを内蔵させ、夜に強力な光の柱を創り出す。この象徴的な光は南北2つの街を視覚的に結び付けるための大切な要素となる。特にこの光の柱は遠方からもタウンセンターの位置を示すものとなる。

○その他広場空間の照明：ポール照明

駅舎の北側、共同化義務街区の南東角などの広場空間は、建物側の1、2階部分の照明の効果を活かすように、シンプルな低ポール照明とし、目立たないように照明する。

大階段はシンボル道路を受けるように計画されている。階段は下のステージを中心に計画されており照明もステージを中心とした配光とする。

(2) 電気設備計画の考え方

第一地区シンボル広場は、一般的な照明だけではなく、都市空間における豊かなアメニティを創り出すため大規模な水施設2箇所を擁している。その運転のために多くの電力を必要とするが、ランニングコストの負担を軽減するために太陽電池発電システムを導入し、管理者の負担に寄らず都市のアメニティ施設を維持出来るようにしている。

○全体配電システム

シンボル広場に必要電力はパットマウントに一括受電し、シンボル広場を大きく2つのエリアに分け、大水面北側と大階段上部東側の電気機械室に分電する。

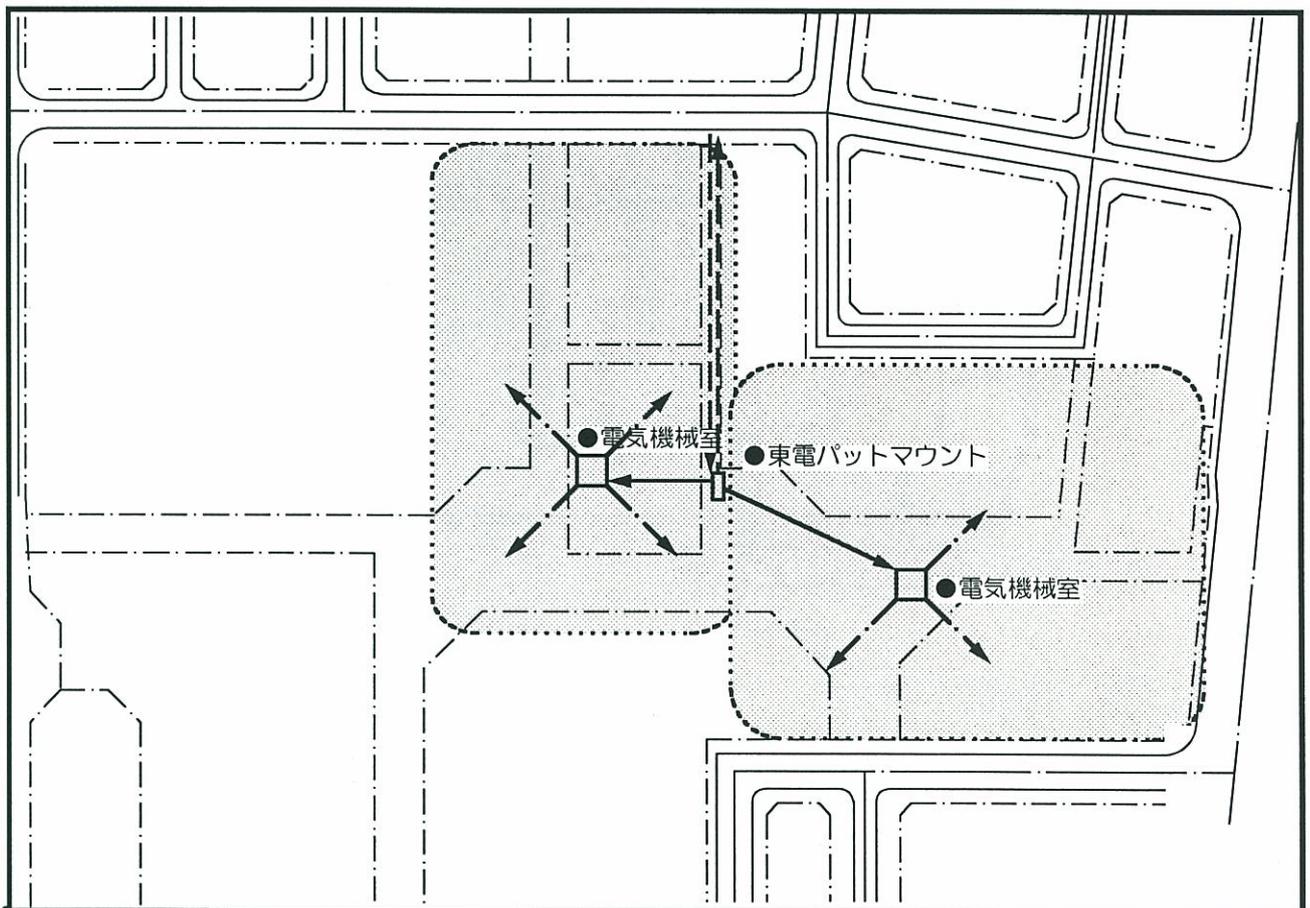
それぞれの電気機械室からエリア内の照明、水施設等への電力供給を行う。個別の分電盤も、それぞれの電気機械室に配置し、地上には置かないようにする。

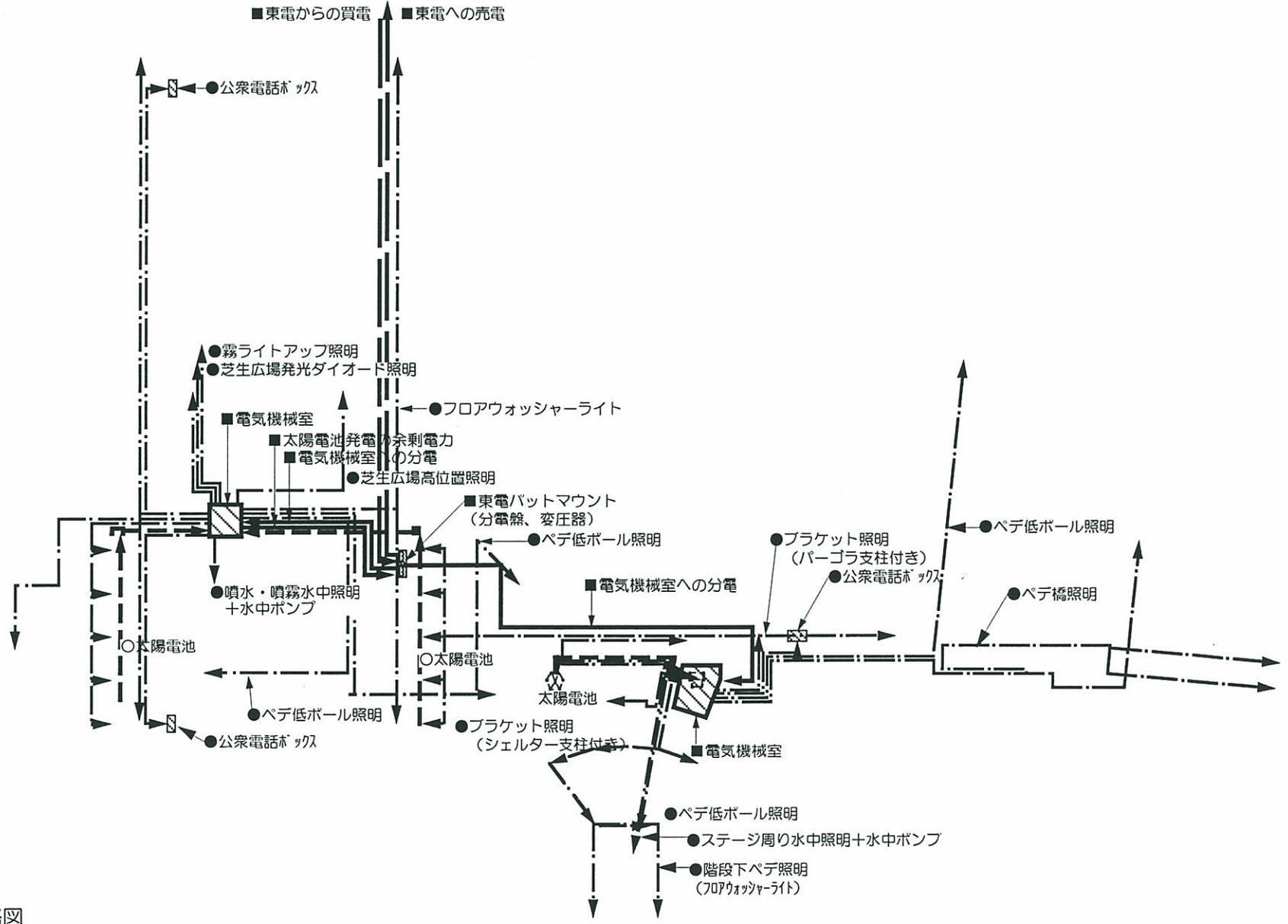
○太陽電池発電システム

太陽電池は年々技術開発が進み、信頼性の向上とコストダウンが進んでいる。また、これまで問題となっていた余剰電力の蓄積も、法制度の緩和により東電線との接続が可能となり、東電への売電も可能となった。

このような社会状況を考慮し、さらにシンボル広場のデザインテーマのひとつであるエコ・システムのシンボルとして太陽電池発電システムを実現したい。

●シンボル広場の電気配電の考え方





●配線系統概略図

5. 植栽計画

第一地区シンボル広場は、第二地区とは対照的にスクエアな形態を持った広場である。第一地区では港北に昔からある樹種を用いて幾何学的な構成を採用することで空間のシンボル性を演出している。

○イチョウの2列植栽：南北軸

シンボル広場は、幅60m、奥行き170mの長方形の大空間である。

この奥行き感を強調すると同時に、広場内の南北軸である歩行者動線を示す軸として、広場の両側にイチョウを2列に配置する。

○シンボル広場の中央に置かれた緑のじゅうたん（芝生広場）

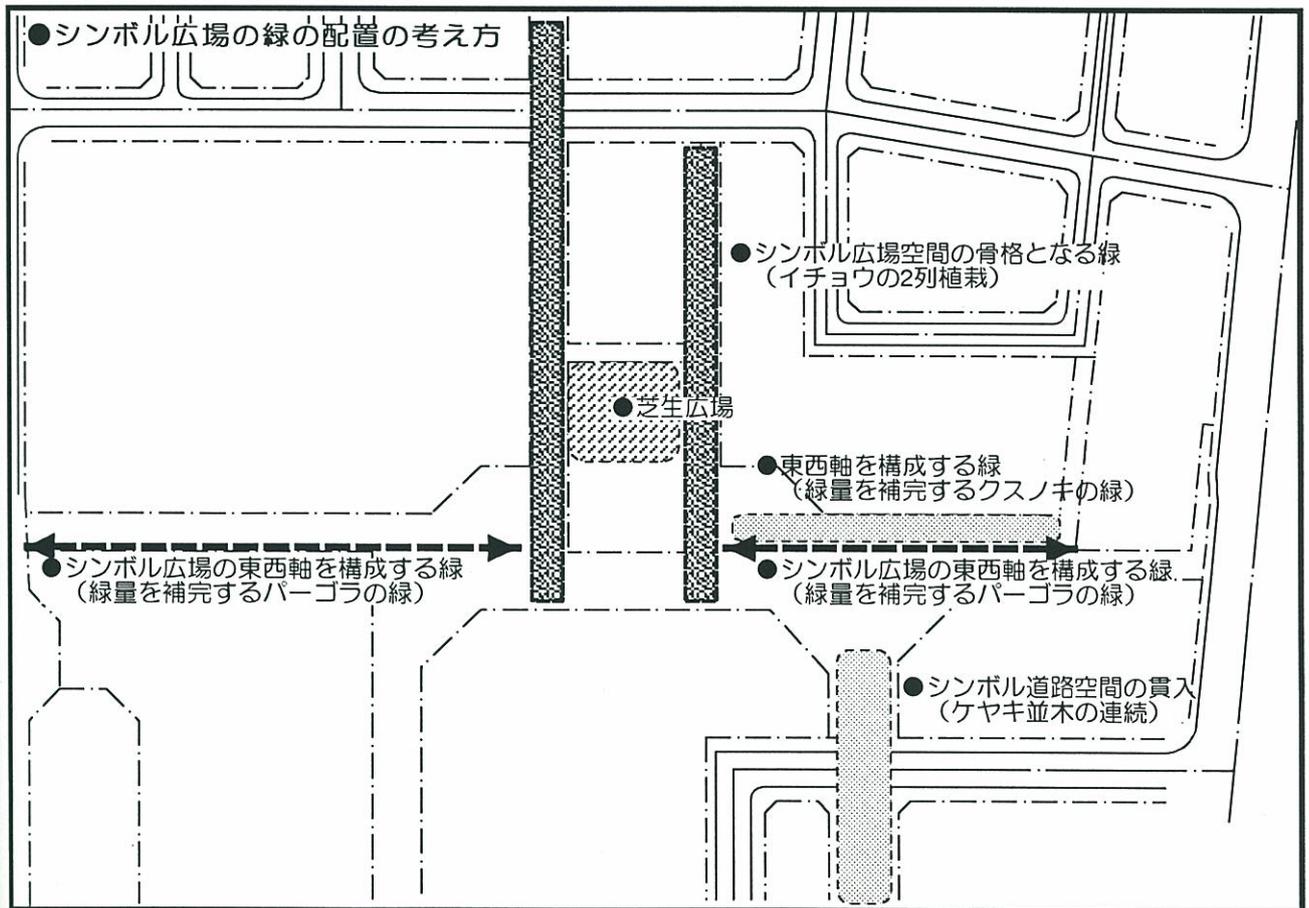
イチョウの並木に挟まれた大水面の北側は、4段の難段上の芝生の広場である。日常は街の中に置かれた緑のじゅうたんとして、イベント時には様々な装置が並び場となる。

○東西軸を構成する緑：東西軸

東のG橋と西のC橋を結ぶ動線はシンボル広場の東西軸である。西側は駅前広場のデッキとなるが、パーゴラの足元に灌木植栽を行い、出来るだけ緑の量を増やしたい。東側はパーゴラだけでなく、高木（クスノキ）の植栽を行う。

○シンボル道路空間の貫入

大階段下はシンボル道路空間が広場に貫入して来る空間であるので、シンボル道路と同じケヤキ植栽を行う。



6. 整備費概算

第一地区シンボル広場の概算工事費は概ね下記ようになる。
(この中に擁壁の整備費用は含まれない。)

○歩行者専用道路部

| | |
|---------------------|-------------------------|
| 工事費 | 1,236,550,000円 |
| m ² 当り単価 | 102,789円/m ² |

○都市緑地部

| | |
|---------------------|-------------------------|
| 工事費 | 632,080,000円 |
| m ² 当り単価 | 250,825円/m ² |

○合計

| | |
|---------------------|-------------------------|
| 工事費 | 1,868,630,000円 |
| m ² 当り単価 | 128,428円/m ² |

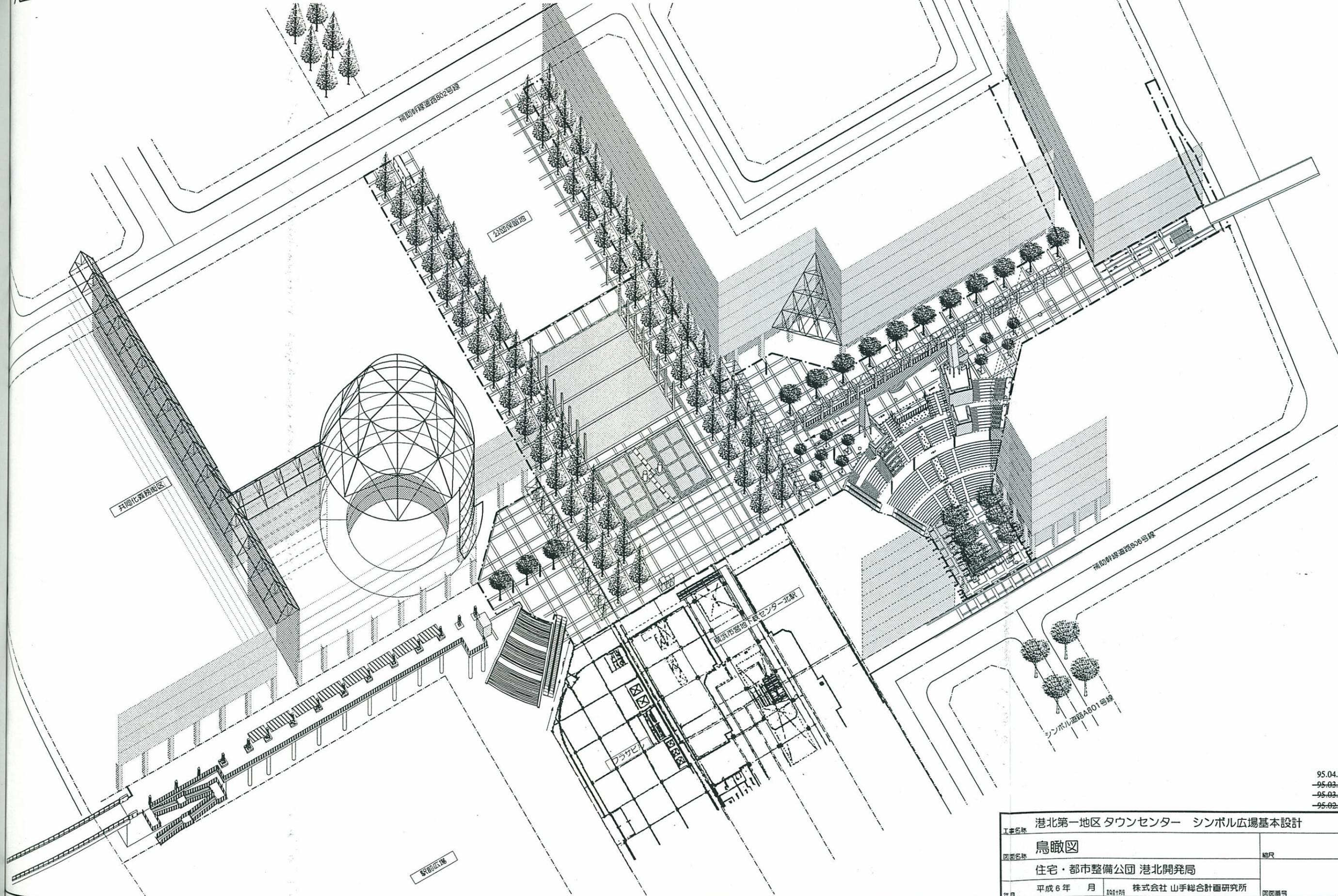
○歩行者専用道路部概算工事費

| | 項目 | 仕様 | 数量 | 単位 | 単価 | 金額 | 備考 |
|-----|---------------------|------------------------|-------|----------------|-------------|---------------|-------------|
| 舗装 | 舗装A | 自然石（御影石グレー） | 7,300 | m ² | 30,000 | 219,000,000 | |
| | 舗装B | 自然石（御影石桜） | 2,450 | m ² | 30,000 | 73,500,000 | |
| | 大階段（1/2） | 自然石（御影石グレー） | 360 | m ² | 150,000 | 54,000,000 | |
| | 大階段（1/4） | 自然石（御影石グレー） | 760 | m ² | 100,000 | 76,000,000 | |
| | 排水スリット側溝 | SUS, 自然石化粧 | 1,000 | m | 90,000 | 90,000,000 | 宅地境界自然石縁石含む |
| | 排水スリット側溝柵 | SUS, 自然石化粧 | 100 | 基 | 120,000 | 12,000,000 | |
| 植栽 | 高木植栽イチョウ | （H=6.0、0.45） | 56 | 本 | 800,000 | 44,800,000 | 植え手間、支柱込み |
| | 高木植栽クスノキ | （H=4.0、0.40）ツリサークル込み | 11 | 本 | 800,000 | 8,800,000 | 植え手間、支柱込み |
| | 高木植栽ケヤキ | （H=6.0、0.45） | 6 | 本 | 350,000 | 2,100,000 | 植え手間、支柱込み |
| | 高木植栽ハナミズキ | （H=4.0、0.40）ツリサークル込み | 10 | 本 | 500,000 | 5,000,000 | 植え手間、支柱込み |
| | 灌木 | | 100 | m ² | 10,000 | 1,000,000 | 植え手間込み |
| | ツタ類 | | 50 | m ² | 5,000 | 250,000 | 植え手間込み |
| | | | | | | | |
| 水施設 | 大階段流れ | 施設（機械室含む） | 200 | m ² | 250,000 | 50,000,000 | |
| | 大階段流れ | 設備（水施設+照明） | 1 | 式 | 50,000,000 | 50,000,000 | |
| 照明 | フロアスポットライト | 高演色ナリウムランプ° 70W | 76 | 基 | 600,000 | 45,600,000 | |
| | ブラケット照明 | 高演色ナリウムランプ° 70W | 32 | 基 | 500,000 | 16,000,000 | |
| | ポール灯 | H=3.5m、高演色ナリウムランプ° 70W | 19 | 基 | 1,500,000 | 28,500,000 | |
| | 配線 | | 500 | m | 10,000 | 5,000,000 | |
| 施設 | 太陽電池シェルター | 施設 | 10 | 基 | 14,000,000 | 140,000,000 | |
| | 太陽電池シェルター | 設備（太陽電池） | 1 | 式 | 110,000,000 | 110,000,000 | |
| | フォリー（太陽） | 施設 | 1 | 基 | 30,000,000 | 30,000,000 | |
| | フォリー（月） | 施設 | 1 | 基 | 25,000,000 | 25,000,000 | |
| | フォリー | 設備（太陽電池） | 2 | 基 | 20,000,000 | 40,000,000 | |
| | パーゴラ | | 11 | 基 | 10,000,000 | 110,000,000 | |
| | | | | | | | |
| | 歩行者専用道路小計 | | | | | 1,236,550,000 | ・・・（1） |
| | m ² 当り単価 | | | | | 102,789 | |

○都市緑地部概算工事費

| | 項目 | 仕様 | 数量 | 単位 | 単価 | 金額 | 備考 |
|-----|---------------------|----------------------|-----|----------------|-------------|---------------|--------------|
| 舗装 | 舗装A | 自然石（御影石グレー） | 640 | m ² | 30,000 | 19,200,000 | |
| | 舗装A | 自然石（御影石桜） | 215 | m ² | 30,000 | 6,450,000 | |
| | 階段 | 自然石（御影石グレー） | 120 | m ² | 150,000 | 18,000,000 | |
| 植栽 | 高木植栽イチョウ | (H=6.0、0.45) 手間込み | 7 | 本 | 800,000 | 5,600,000 | 植え手間、支柱込み |
| | 芝生広場 | | 865 | m ² | 2,000 | 1,730,000 | |
| | トレリス | | 6 | 基 | 3,000,000 | 18,000,000 | 植栽込み |
| 水施設 | 大水面 | 施設（機械室含む） | 650 | m ² | 250,000 | 162,500,000 | |
| | 大水面 | 設備（水施設+照明） | 1 | 式 | 200,000,000 | 200,000,000 | |
| 照明 | 柱上部照明 | | 16 | 基 | 500,000 | 8,000,000 | |
| | 芝生広場霧照明 | メタルライトランプ°150W防水型 | 28 | 基 | 200,000 | 5,600,000 | |
| | 光柱 | キノンランプ°2kw,キャストガラス積み | 2 | 基 | 10,000,000 | 20,000,000 | |
| 施設 | 柱 | H=8m,フック等含む | 16 | 基 | 5,000,000 | 80,000,000 | |
| | 柱噴霧装置 | ノズル、配管、コントローラー | 1 | 式 | 30,000,000 | 30,000,000 | |
| | 芝生広場階段噴霧装置 | ノズル、配管、コントローラー | 1 | 式 | 50,000,000 | 50,000,000 | |
| | ベンチ | | 14 | 基 | 500,000 | 7,000,000 | |
| | | | | | | | |
| | 都市緑地小計 | | | | | 632,080,000 | ・・・(2) |
| | m ² 当り単価 | | | | | 250,825 | |
| | | | | | | | |
| | シンボル広場直接工事費合計 | | | | | 1,868,630,000 | ・・・(1) + (2) |
| | m ² 当り単価 | | | | | 128,428 | |

港北第一地区タウンセンター シンボル広場基本設計

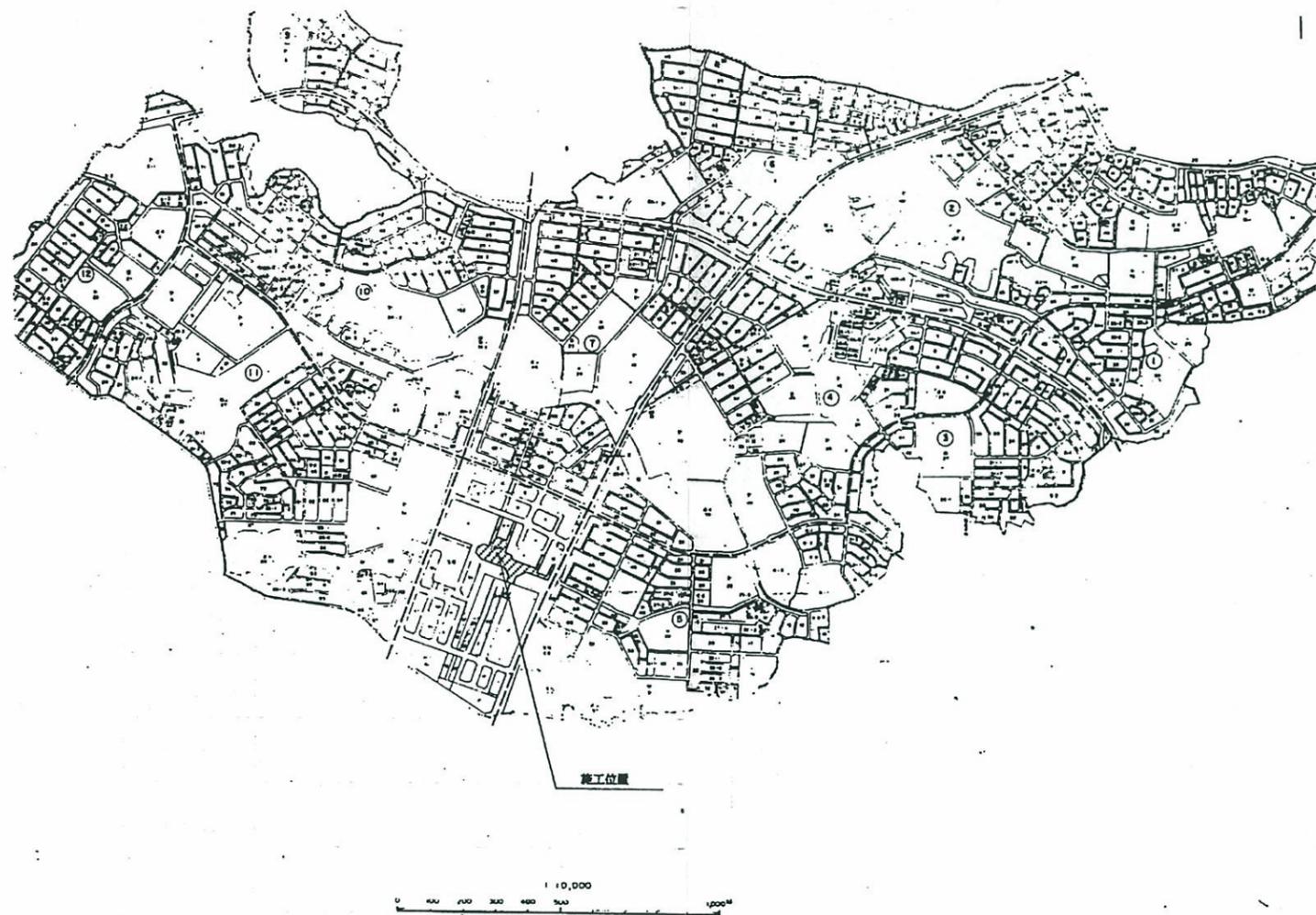


95.04.21
 95.03.20
 95.03.01
 95.02.27

| | | | |
|------|--------------------------|--------------------|------|
| 工事名称 | 港北第一地区タウンセンター シンボル広場基本設計 | | 縮尺 |
| 図面名称 | 鳥瞰図 | | |
| 年月 | 平成6年 月 | 設計所 株式会社 山手総合計画研究所 | 図面番号 |

| 図面番号 | 図面名称 | 縮尺 |
|------|--------------------|---------|
| 1 | 目次・案内図 | |
| 2 | 計画コンセプト | |
| 3 | 総合計画図 | s=1/500 |
| 4 | 断面図1 (大水面) | s=1/200 |
| 5 | 断面図2 (大階段) | s=1/200 |
| 6 | 舗装計画図 | s=1/500 |
| 7 | 施設配置計画図 | s=1/500 |
| 8 | 植栽計画図 | s=1/500 |
| 9 | 照明計画図 | s=1/500 |
| 10 | 電気設備計画図 | s=1/500 |
| 11 | 給排水計画平面図 | s=1/500 |
| 12 | 詳細図 (芝生広場) | 図示 |
| 13 | 詳細図 (大水面) | 図示 |
| 14 | 詳細図 (大階段) | 図示 |
| 15 | 詳細図 (大階段擁壁) | 図示 |
| 16 | 詳細図 (東西水路) | 図示 |
| 17 | 詳細図 (滝、流れ) | 図示 |
| 18 | 詳細図 (大階段下広場) | 図示 |
| 19 | 詳細図 (太陽電池シェルター) | 図示 |
| 20 | 詳細図 (パーゴラ) | 図示 |
| 21 | 詳細図 (フォリー、共同溝等出入口) | 図示 |
| 22 | 詳細図 (舗装等) | 図示 |

案内図



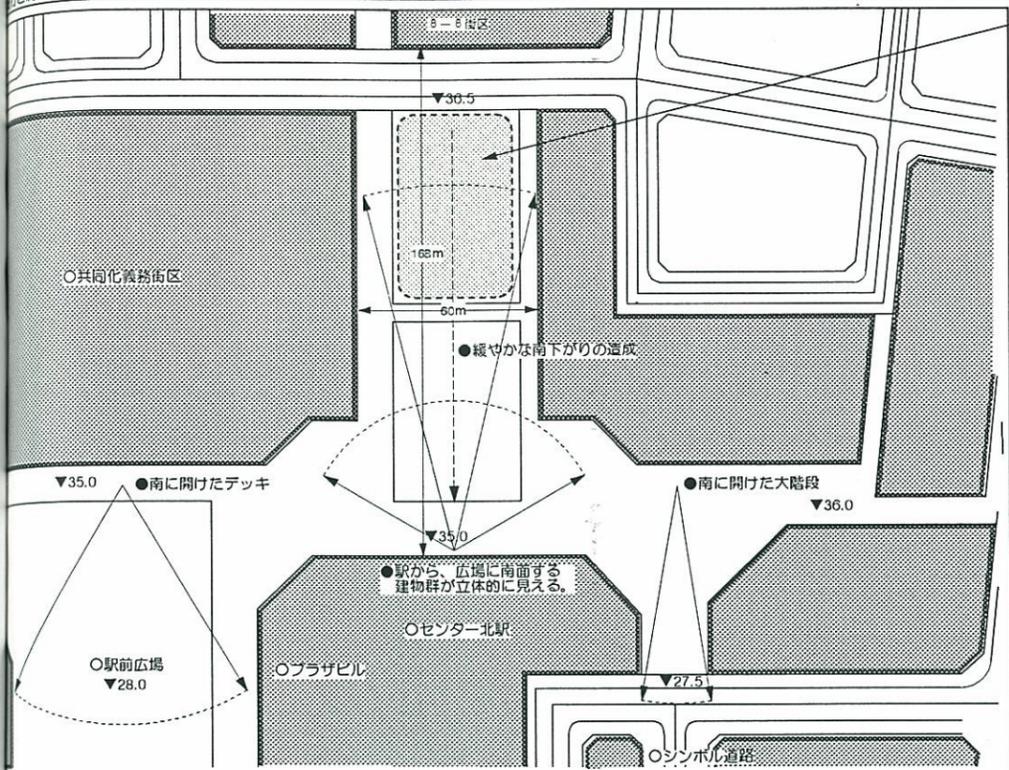
シンボル広場の地相-----静かで整った地相

地相造成
中心部のシンボル広場は、センター北駅の北側に緩やかな南
北に造成されたほぼ平坦な南北に長い空間が中心となってい

静かな広場空間
中心となる空間は、隣接宅地の敷地形状により、幅60
m長さ約170mの矩型の大空間となっている。

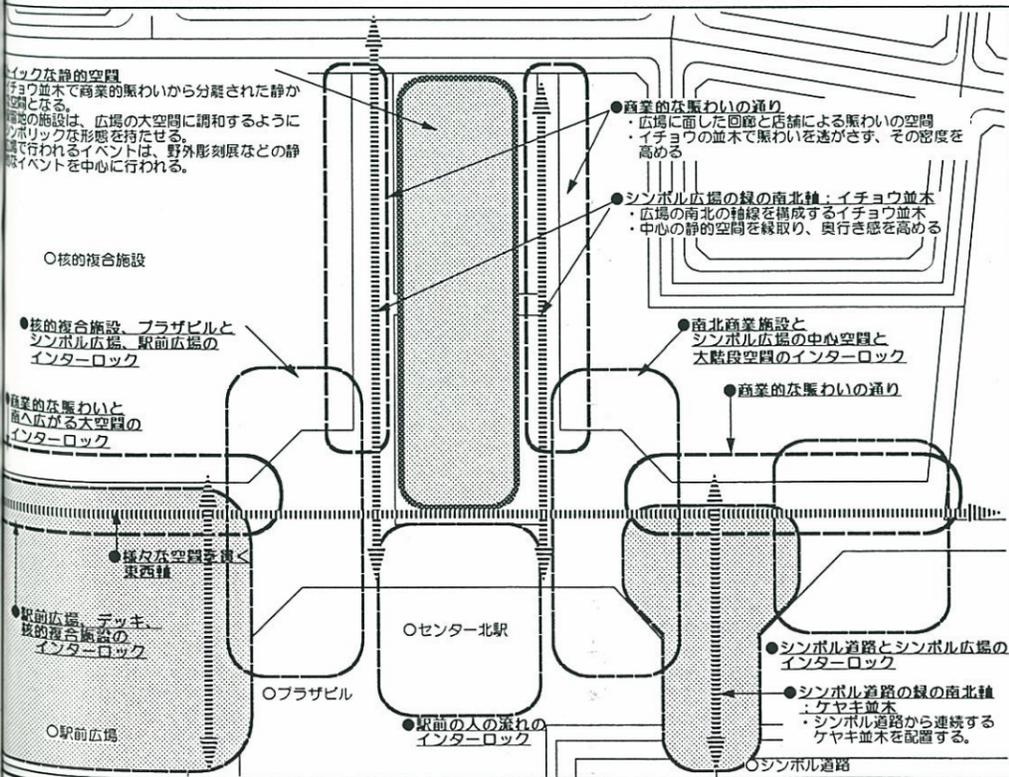
●南へ開き、北に奥深い空間
中心に矩型の空間は駅前から北に奥行きのある空間が広が
り、その東西には約7mの高低差で南に下がる立体的な広がり
を持った空間が連続し、それぞれダウンタウンへとつなが
っている。さらにその東西には、隣接住宅へとつながるベ
テ橋が位置する。

●広場空間の中のパビリオンとしての文化施設
公園保留地に建設される建物は、8-8街区の建物の壁面
までの奥行き感を隠さないよう留意して計画する。
広場と一体となったシンボル性を持った形態と、一体と
なった利用が可能な施設としたい。



シンボル広場の空間構成-----南北に奥行き深いストイックな空間を中心に捉えて、
東西に立体的な広場を控える

●様々な様相を持った空間
南北の人の動きは均質な空間内で行われる。それぞれの動きの
軸はずれており、連続する1本にはなっていない。
この動きの軸を吸収し、アッパータウンとダウンタウンのレ
ベルの違う空間を、お互いに平面的にも立体的にも噛み合わせる
(インターロックさせる)空間を設ける。



●空間の相互貫入と分節化の仕掛け-----それぞれの空間を東西・南北の明確な軸で相互貫入し、
それぞれの場を分節化する。

●多様な空間を貫く軸
東西の軸は、様々な形態・機能を持った空間・軸を貫き、多様
な空間体験を引き起こす軸となる。

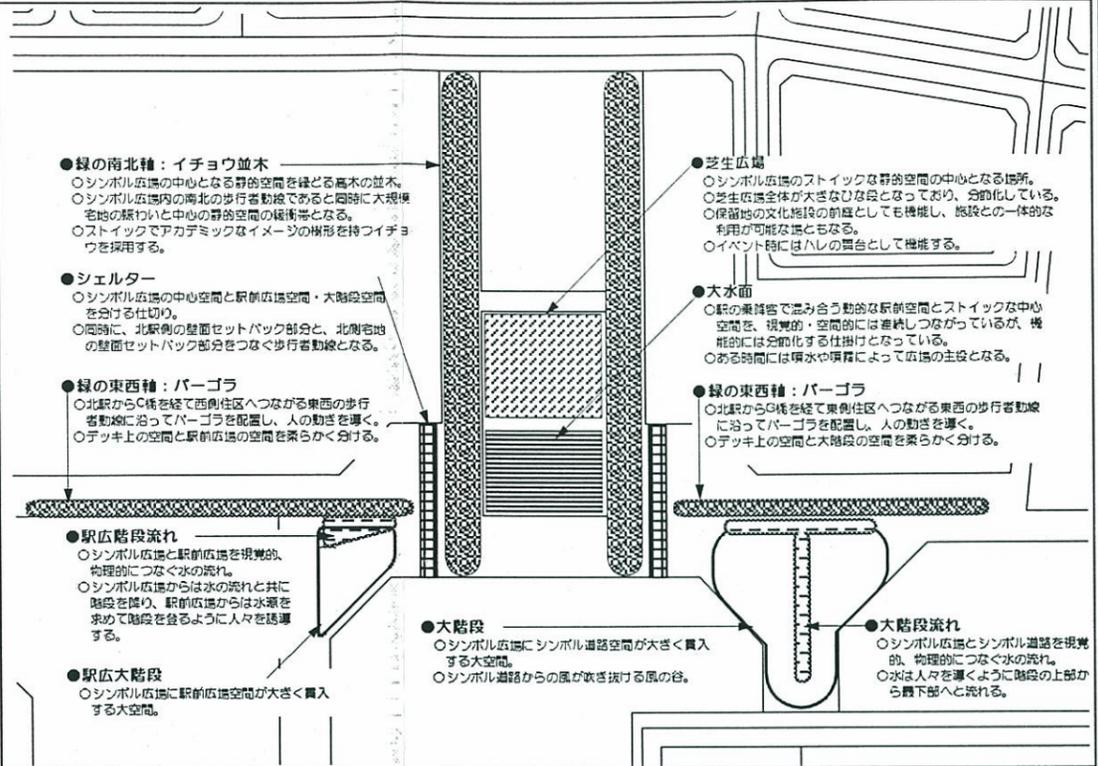
●エコロジカルな仕掛け
空間の相互貫入と分節の仕掛けにエコロジカルな機能を盛り
込ませる。

●公園保留地の施設形態イメージ

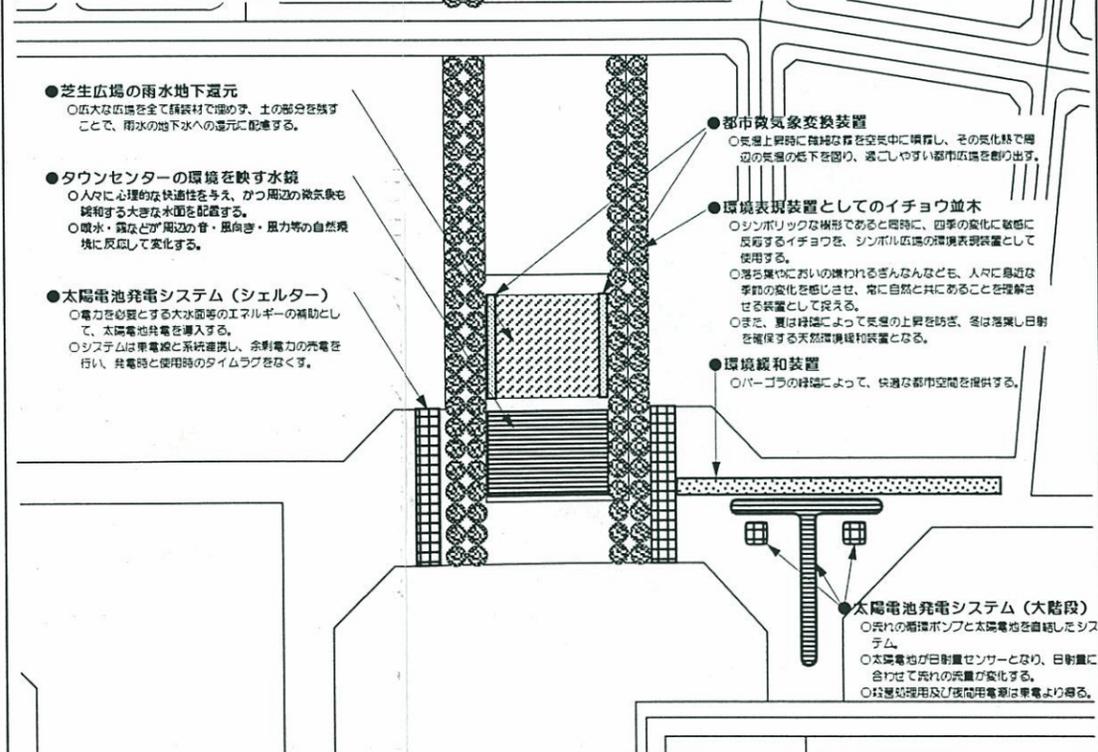


●シンボル広場の計画コンセプト：
"知"の広場

- ストイックな空間づくりとシンプルな形
- エコシステムを導入して、自然と人間の親密な交流を感じさせる。
- 入り構造物の空間が作りだす、貫入しあう広場
- 人間の知識、理性、感覚を象徴する広場



●シンボル広場の計画テーマ-----水と緑、エコロジーとエネルギー



| | | | |
|---------|---------------------------|-----|----------------|
| 工事名称 | 港北第一地区 タウンセンター シンボル広場基本設計 | | |
| 計画コンセプト | 住宅・都市整備公園 港北開発局 | | |
| 図面名称 | 平成 6 年 月 | 設計所 | 株式会社 山手総合計画研究所 |
| 図面番号 | 2/22 | | |

補助幹線道路802号線

保留地

共同化義務街区

今回計画範囲

駅前広場

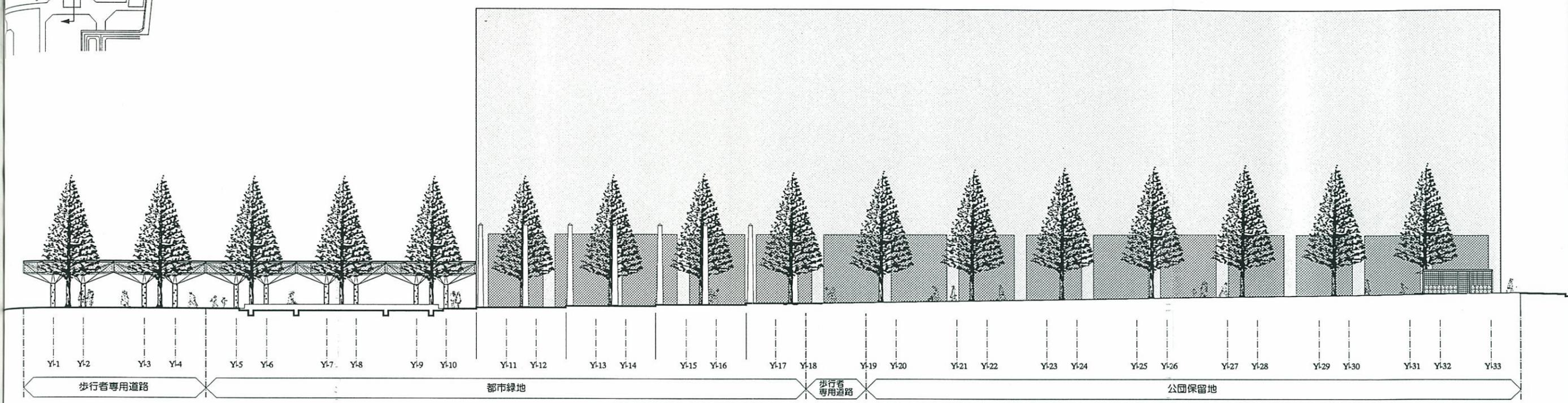
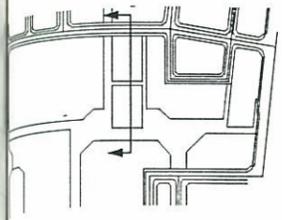
横浜市営地下鉄センター北駅

プラザビル

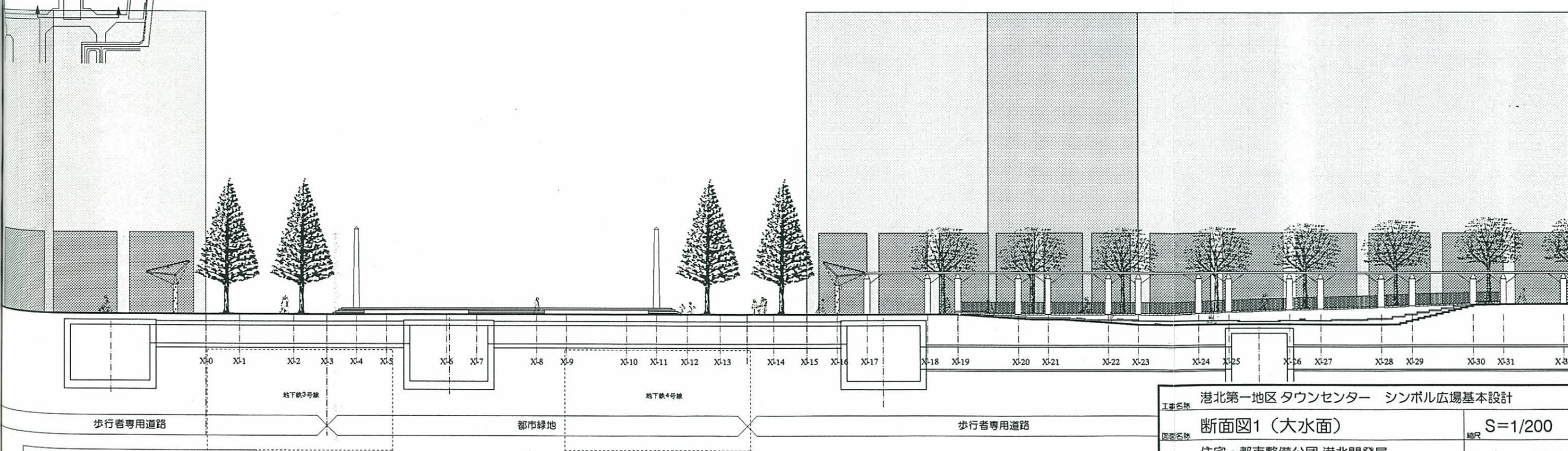
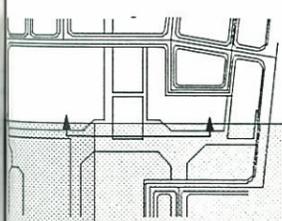
補助幹線道路806号線

シンボル道路A801号線

| | | | | |
|------|--------------------------|---|------|----------------|
| 工事名称 | 港北第一地区タウンセンター シンボル広場基本設計 | | 縮尺 | S=1/500 |
| 図面名称 | 総合計画図 | | 図面番号 | 3/22 |
| 年月 | 平成6年 | 月 | 設計所 | 株式会社 山手総合計画研究所 |

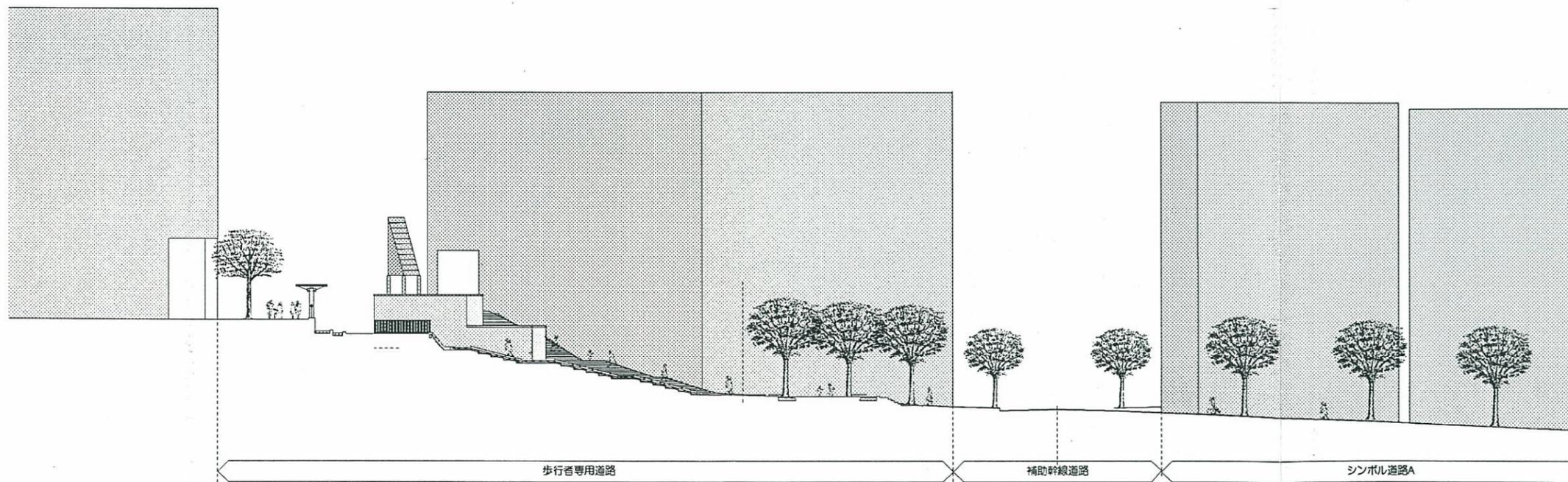
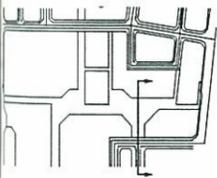
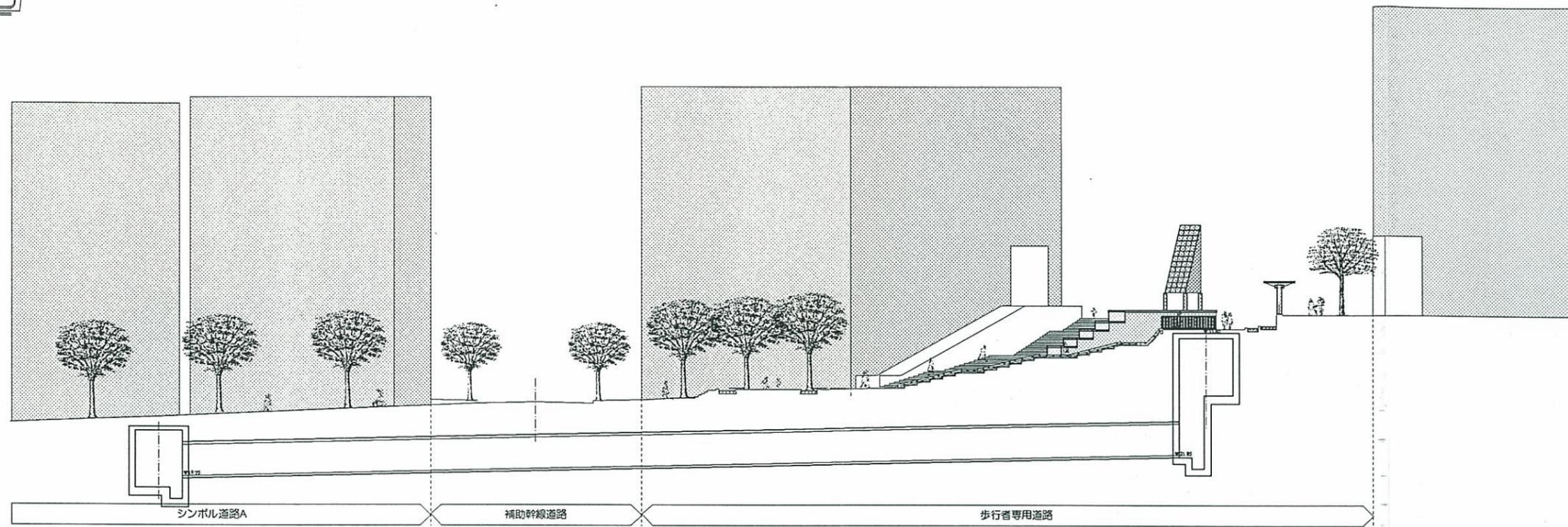
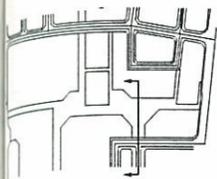


シンボル広場南北断面図 S=1/200



シンボル広場東西断面図 S=1/200

| | | |
|------|--------------------------|--------------------|
| 工事名称 | 港北第一地区タウンセンター シンボル広場基本設計 | |
| 断面名称 | 断面図1 (大水面) | 縮尺 S=1/200 |
| 年月 | 平成6年 月 | 設計者 株式会社 山手総合計画研究所 |
| 図面番号 | 4/22 | 図面番号 |



| | | |
|-------------------------------|--------------------|------------|
| 工事名称 港北第一地区タウンセンター シンボル広場基本設計 | | 縮尺 S=1/200 |
| 断面名称 断面図2 (大階段) | | 5/22 |
| 住宅・都市整備公団 港北開発局 | | |
| 年月 平成6年 月 | 設計所 株式会社 山手総合計画研究所 | 図面番号 |

補助幹線道路802号線

共同化義務街区

保留地

駅前広場

横浜市営地下鉄センター北駅

プラザビル

補助幹線道路806号線

シンボル道路A801号線

凡例

| | |
|---|-------------------|
|  | 御影石 (グレー、ピシャン仕上げ) |
|  | 御影石 (桜、ピシャン仕上げ) |
|  | 御影石 (グレー、バーナー仕上げ) |
|  | 擬石平板 (松浦擬石) |

港北第一地区タウンセンター シンボル広場基本設計

工事名称

舗装計画図

図面名称

住宅・都市整備公団 港北開発局

年月

平成6年 月

設計所

株式会社 山手総合計画研究所

縮尺 S=1/500

6/22

図面番号

●大水面水施設（太陽電池系統連系システム）

●太陽電池発電システムと東電系統連系

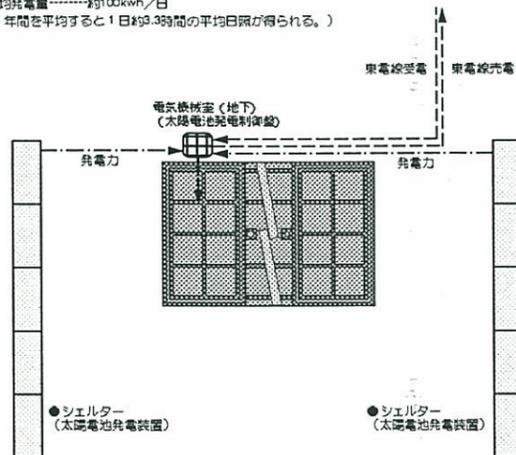
大水面の水施設は、シェルターの屋根に設置された太陽電池による発電電力を、送電エネルギーの一部として使用する。
噴水や噴霧による動きのある水を表現するため、発電量と水施設の使用量にタイムラグやバランスのずれが生じるが、基本的に太陽電池による発電電力は直接水施設に接続せず、東電に売電し、水施設に必要な電力は必要な時に必要な量だけ東電から買電するシステムとし、トータルでのエネルギーバランスを考慮する。
これらのコントロールに必要な機器類は、大水面北の地下に設けた電気機械室に設置する。

●大水面の規模

- 保有水量……………約130m³
- ポンプ電力容量……………約57kw
- 照明電力容量……………約20kw

●太陽電池発電システムの性能

- 最大発電能力……………約30kw/h
- 1日当り平均発電量……………約100kwh/日
(関東では、年間を平均すると1日約3.3時間の平均日照が得られる。)



●大階段水施設（太陽電池独立システム）

●流れの規模

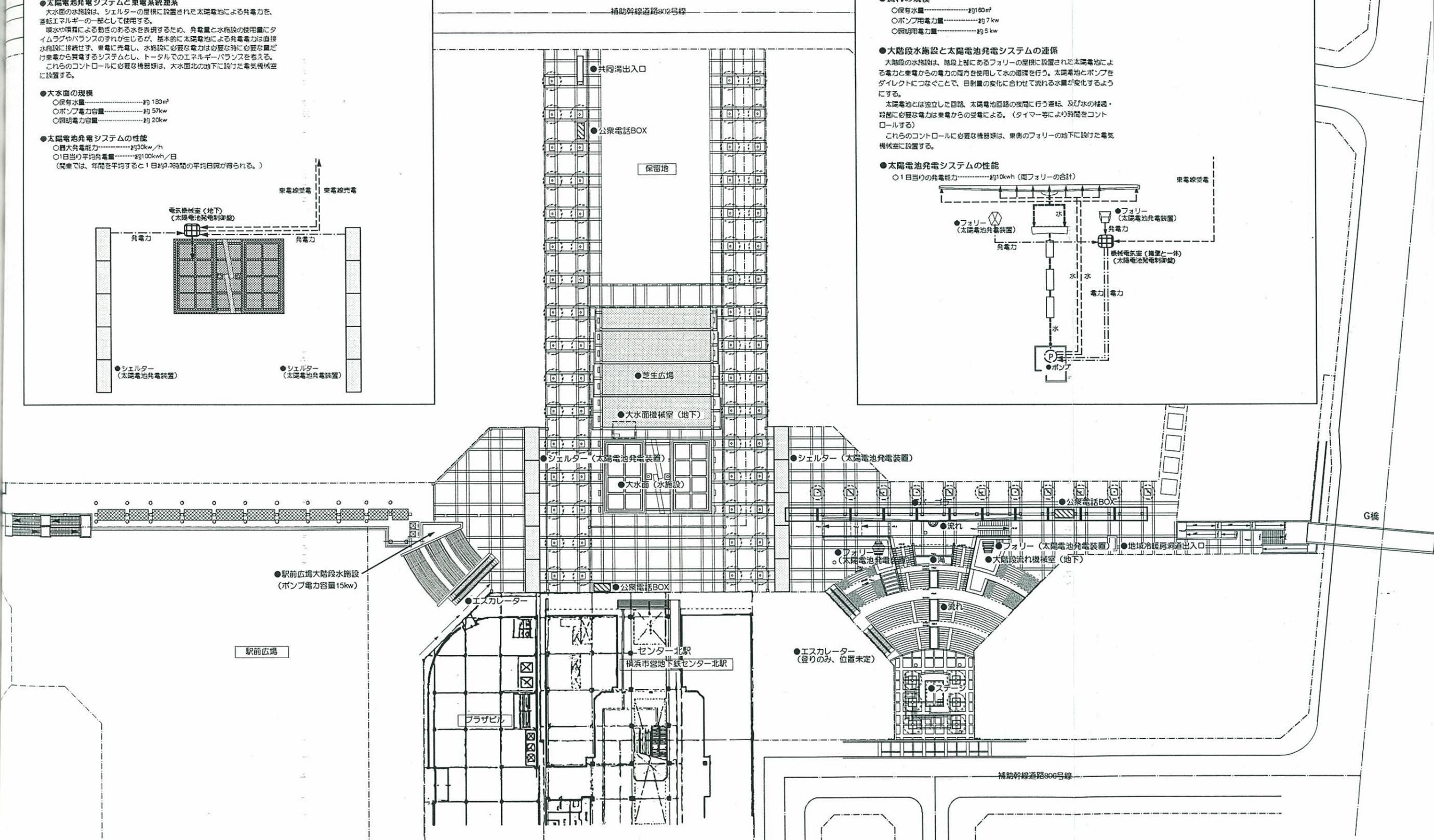
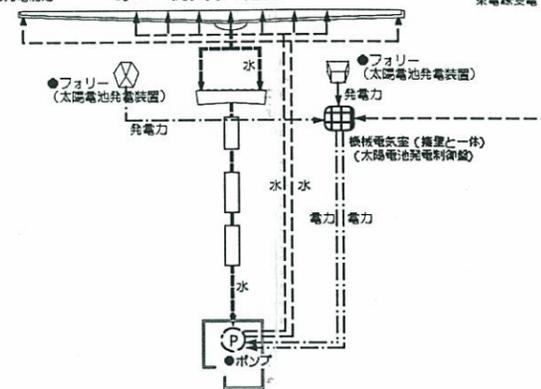
- 保有水量……………約160m³
- ポンプ電力容量……………約7kw
- 照明電力容量……………約5kw

●大階段水施設と太陽電池発電システムの連係

大階段の水施設は、階段上部にあるフォリーの屋根に設置された太陽電池による電力と東電からの電力の両方を使用して水の循環を行う。太陽電池とポンプをダイレクトにつなぐことで、日照量の変化に合わせて流れる水量が変化するようにする。
太陽電池とは独立した回路、太陽電池回路の夜間に行う運転、及び水の循環・殺菌に必要な電力は東電からの受電による。(タイマー等により時間をコントロールする)
これらのコントロールに必要な機器類は、東側のフォリーの地下に設けた電気機械室に設置する。

●太陽電池発電システムの性能

- 1日当りの発電能力……………約10kwh(両フォリーの合計)



| | | | |
|------|--------------------------|-----|----------------|
| 工事名称 | 港北第一地区タウンセンター シンボル広場基本設計 | | |
| 図面名称 | 施設配置計画図 | 縮尺 | S=1/500 |
| 年月 | 平成6年 月 | 設計所 | 株式会社 山手総合計画研究所 |
| 図面番号 | 7/22 | | |

シンボル広場植栽の考え方

第一地区シンボル広場は、第二地区とは対照的にスクエアな形態を持った広場である。広場の要素はその形態を活かしてグリッドパターンを採用し、南北軸と東西軸に沿った面によって構成されている。

シンボル広場における緑の役割は、1、2地区共に港北の地域性を象徴的にデザインすることにある。第二地区では港北ニュータウン内にある谷戸の緑生地の取って再現することで港北ニュータウンにおける緑のシンボル性を創り出しているのに対し、第一地区では港北に昔からある樹種を用いて幾何学的な緑を採用することで空間のシンボル性を演出している。

イチョウの2列植栽

シンボル広場はセンター北駅からみて公園保留地も含めると、幅90m、奥行190m（補助幹線道路の北側の建物の壁面までは170m）の長方形の空間である。この奥行感を強調すると同時に、広場内の南北軸である歩行者動線を示す軸として、広場の両側にイチョウを2列に配置する。歩行者はイチョウのトンネルの下を歩く。西側のイチョウ並木はペデストル橋につながり、北側住区から歩行者動線を受けている。

シンボル広場の中央に置かれた緑のじゅうたん（芝生広場）

イチョウの並木に挟まれた空間には駅前広場、石、水、緑、の9つの面を置き、これらは自然を構成する要素の象徴である。そのうちの緑の面は、一面の芝生の広場である。日常は成の中に置かれた緑のじゅうたんとして、イベント時には様々な出し物が並ぶ広場となる。

東西軸を構成する緑

東のC棟と西のC棟を結ぶ動線はシンボル広場の東西軸である。西側は駅前広場のデッキとなるが、パーゴラの足元に灌木植栽を行い、出来るだけ緑の量を創りたい。東側はパーゴラだけでなく、高木の植栽を行う。

シンボル道路空間の貫入

大規模なシンボル道路空間が広場に貫入して来る空間であるので、シンボル道路と同じケヤキ植栽を行う。

共同化義務街区

補助幹線道路802号線

保留地

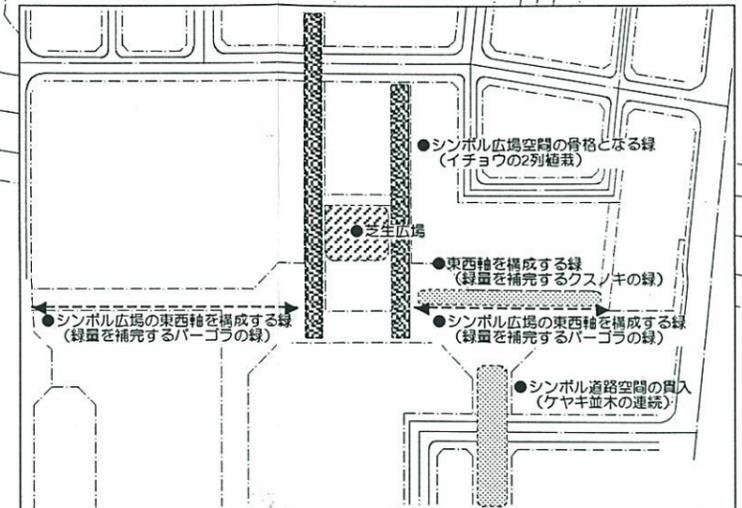
横浜市営地下鉄センター北駅

プラザビル

補助幹線道路806号線

シンボル道路A601号線

●シンボル広場の緑の配置の考え方



凡例

| | | |
|--|---------------|-------------------|
| | イチョウ+地被類 | 63本 |
| | クスノキ+ツリーサークル | 11本 |
| | ケヤキ+地被類 | 6本 |
| | ハナミズキ+ツリーサークル | 10本 |
| | 芝生 | 864m ² |
| | ツタ類 | |
| | 灌木 | |
| | パーゴラ+ツタ類 | |

駅前広場

| | | | | |
|------|--------------------------|--|------|---------|
| 工事名称 | 港北第一地区タウンセンター シンボル広場基本設計 | | 縮尺 | S=1/500 |
| 図面名称 | 植栽計画図 | | 年月 | 平成6年 月 |
| 設計所 | 株式会社 山手総合計画研究所 | | 図面番号 | 8/22 |

シンボル広場照明の考え方

シンボル広場は、タウンセンター地区はもとより、新しく生まれる街並北
タウンの全体のアイデンティティを表現すべき性格を強く持つもの
である。照明計画も、単に新しい照明デザインというだけでなく、港
タウン全体に関する光のコンセプトや、照明手法上のルールを反映
させる必要がある。シンボル広場をタウンセンターの活性化の第一
歩として捉え、ストーリーを感じさせる光のデザインを目指すために、以下の
照明デザインの基本姿勢を立案した。

人間尺度を大切に光のデザイン
これまでの都市照明は、車社会のための道路照明の延長でしかなかった。
歩道を歩きたくなるような景色を創るために、光のデザインは、もう一度
人間尺度に立ち戻る必要がある。
●フライトアップ光
(歩かなくとも目に優しい照明。)
●歩道の見える街
(歩いている速度を基準とした照明)
●歩道でも明るく感じる街並み
(立面輝度をつくる照明)
●低い位置を大切に光
(遠慮にリズムミカルな照明)

豊かな自然が感じられる光のデザイン
北タウンに咲く豊かな緑や水や風などを、光のデザインによ
って豊かに伝える。また、日中の太陽光が、斜射と変化し、時の移ろ
いを感じるように、夜間にも計画された光の変化は幾つもの表情を創り
出す。

街のストラクチャーを創る光のデザイン
都市計画は夜に象徴的な光のルールとして視覚化される。境界を整え
(市民の一体化)、道路のヒールキーに合った光、人の動線の光など
を創るルールが必要である。

個性を表現するための光のデザイン
北タウンの地形や敷地計画の特徴を最大に活かし、強調するため
に計画された光のデザインが不可欠である。2つの地区が、光によって個性化
される。

地球に優しい光のデザイン
北タウンでは、特にエコロジカルな照明手法やシステムに強く配
慮している。効率の良いエネルギーの利用は適正光源の選択や洗練された調
光システムによって、従来の使用電力を画期的に減少させる。

シンボル広場の光環境のあり方

- ◆ 輝度分布計画
 1. 歩道を歩く人々の通常の視野内に、不快なグレアを出さないことが大切である。歩道や車道
のベースライトをとるようなボール灯はカットオフタイプのものを使用する。
 2. 広場などの広い空間では、シンボル的なモニュメントや大型商業施設の1~3階のファサードに
輝度を与えることが大切である。これは空間の視覚的な明るさ感に人々を与える。

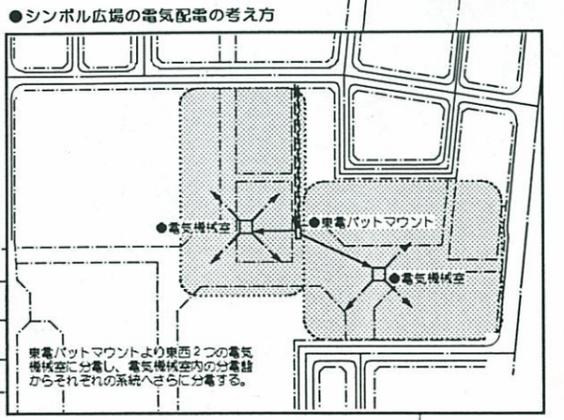
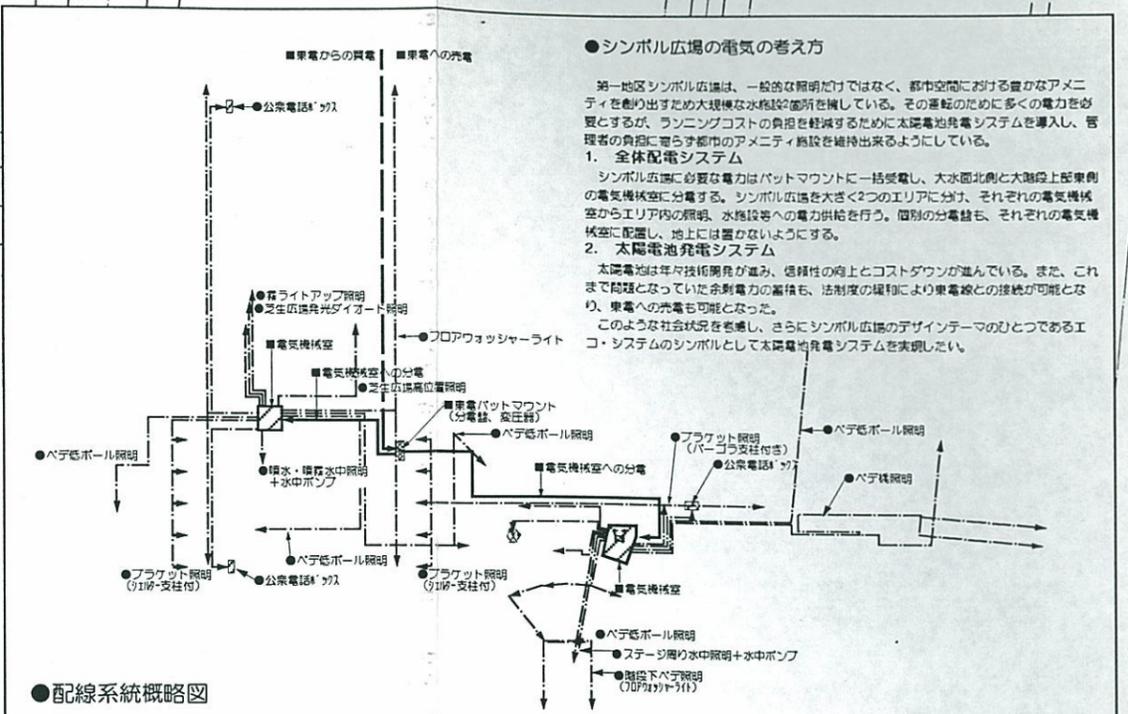
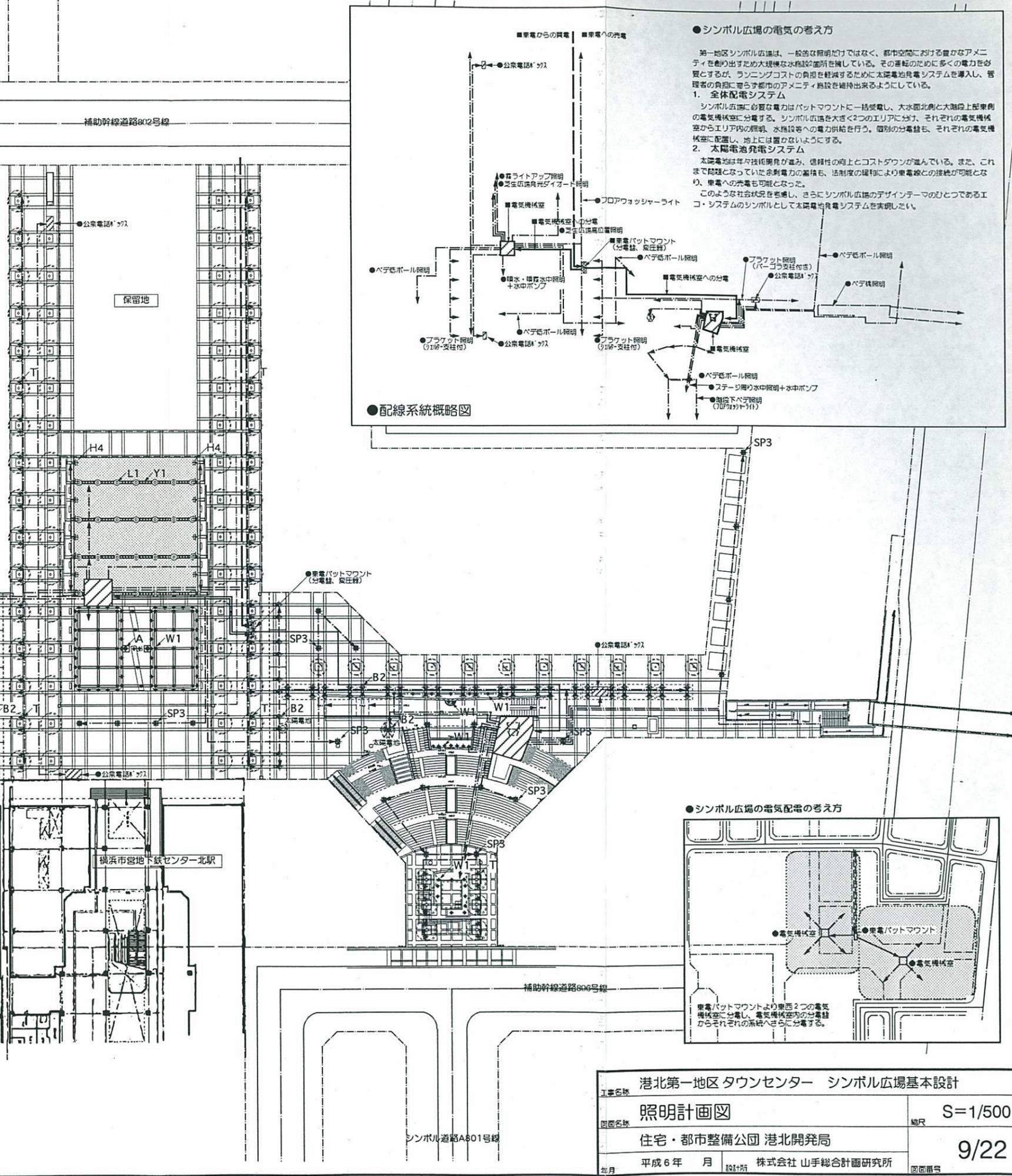
- ◆ 色温度分布計画
 - 色温度計画は、空間の印象を決定する上で最も大切なポイントである。空間が心理的に温かく快
い雰囲気になるのか、または冷たく無表情となるかは色温度の決定に関わってくる。
 - シンボル広場は人が接する空間であり、お互いの顔が自然な表情で見えること、衣服やアクセ
サリーの色が美しく見えることが、この空間の環境の質を決定する。色温度を低くすること、表色
性を高くすることを原則とする。但し樹木照明や空間の演出を要する限られた場所には、意図的に
高い色温度の光源を使用する。

- ◆ 照度分布計画
 - 照度設定にはそれぞれの空間での光の量に関する指標となるばかりでなく、電気エネルギー
の量にも関係する重要なポイントである。現在のように、エコロジーや省エネルギーが叫ばれて
いる現状での照度設定には大きな問題がある。
 - タウンセンターでは、必要な場所には最低限の照度を確保し、給水面や広場を化粧部分の照度
分布をデザインすること、今までの明るさ感と与える計画とする。
 - シンボル広場では、人々の行く先々に、また階段や段差の場所に照度を与える。

シンボル広場の照明計画

このシンボル広場空間構成の特徴は整然とデザインされたスクエアな広場を中心に明確な軸線
を持つことである。照明デザインもこの空間的特徴を活かすように計画する。

- 東西軸
 - 広場の東西軸は、様々な空間形態、空間機能を持つゾーンと、それに結びつく南北軸や
幾つかの構造物を通っている。これらの構造物に付随する形で照明を配置し、軸線の照明と構造物
のライトアップを行う。
- 南北軸
 - 広場の北側からアプローチする2本の緑の南北軸には、フロアウォッシャー型の照明を配置し光
のじょうたんを創り出す。同時に樹木のライトアップを行うことにより南北軸を強調する。
- 芝生広場
 - 2本の緑の南北軸に挟まれた芝生広場は、垂直に立てられた柱の頂部に仕込まれたライトによ
って全面が照らされる。広場内の階段部分には、発光ダイオードの埋込まれた階段ブロックと、噴霧
装置とその霧を照らす照明のセットが仕込まれ、大水面の演出と連動する。
- 大水面
 - 芝生広場の南の大水面は中央から2本の光の柱が立ち上がる。この象徴的な光は南北2つの街を
結び付けるための大切な要素となる。特にこの光の柱は遠方からもタウンセンターの位置を示すも
のとなる。
- 大階段
 - 大階段はシンボル道路を受けるように計画されている。階段は下のステージを中心に計画されて
おり照明もステージを中心とした配光とする。
- 階段前広場
 - 駅舎の北側、共同化業務街の南東角などの広場空間は、建物側の1、2階部分の照明の効果を
活かすように、シンボル的なボール照明とし、目立たないように照明する。



凡例

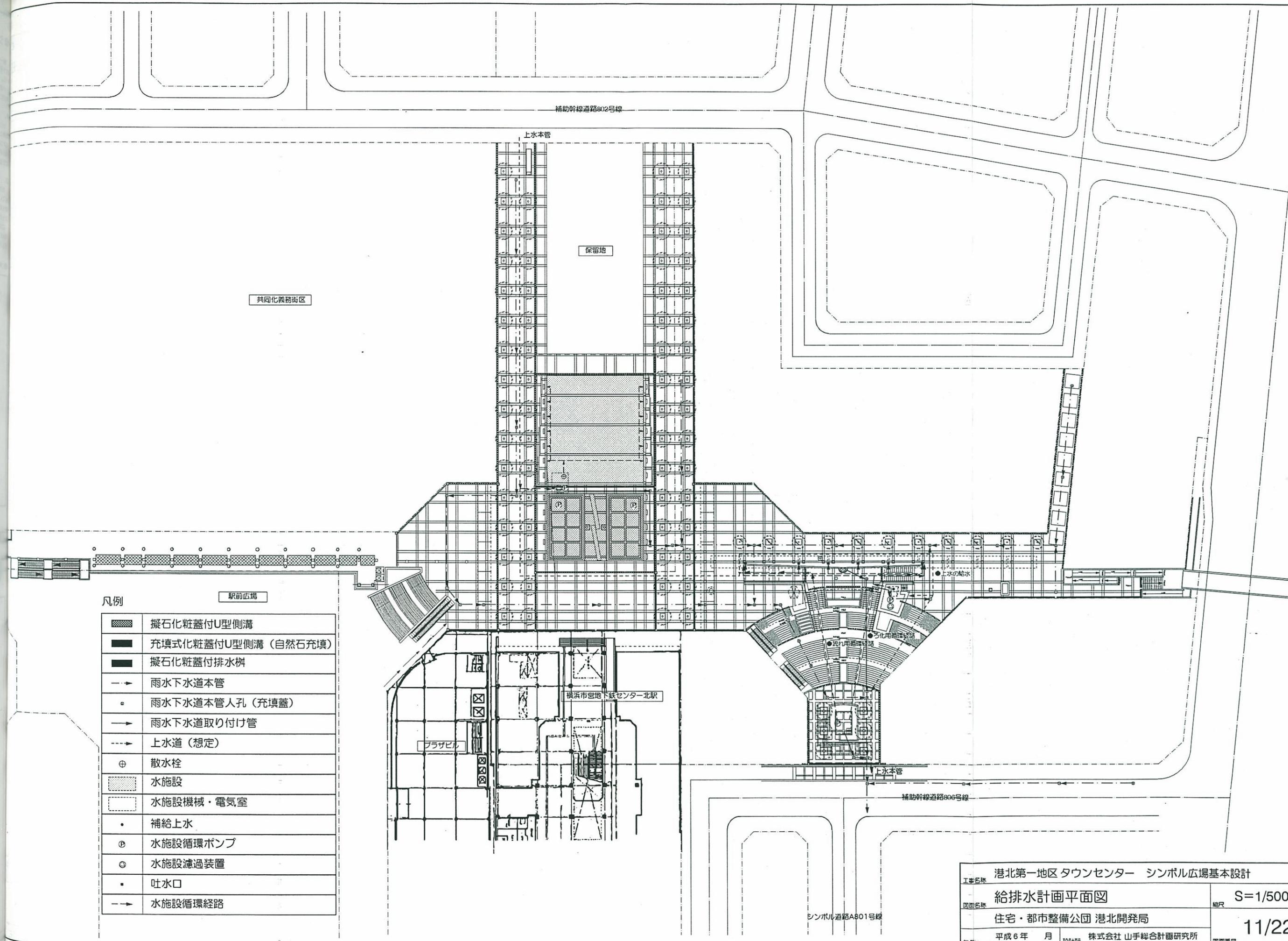
| | | |
|-----|----------------------|-----------------------------------|
| SP3 | デザインボール灯 | 高演色形高圧ナトリウムランプ (T型) 70W |
| T | フロアウォッシャーライト (低位面照明) | 高演色形高圧ナトリウムランプ (T型) 70W |
| B2 | プラケット | 高演色形高圧ナトリウムランプ (T型) 70W |
| W1 | 水中照明 | シールドビームランプ 12V50W |
| H4 | 芝生広場高位照明 | 高演色形高圧ナトリウムランプ (T型) 150W |
| Y1 | 芝生広場階段照明 | 発光ダイオード (平板等に内蔵 12V電源 (太陽電池の使用可)) |
| L1 | 芝生広場ライトアップ照明 | メタルハライドランプ 150W, 地中埋込み型 |
| A | 光柱 | キセノンランプ2kw |

港北第一地区タウンセンター シンボル広場基本設計

照明計画図 S=1/500

住宅・都市整備公団 港北開発局

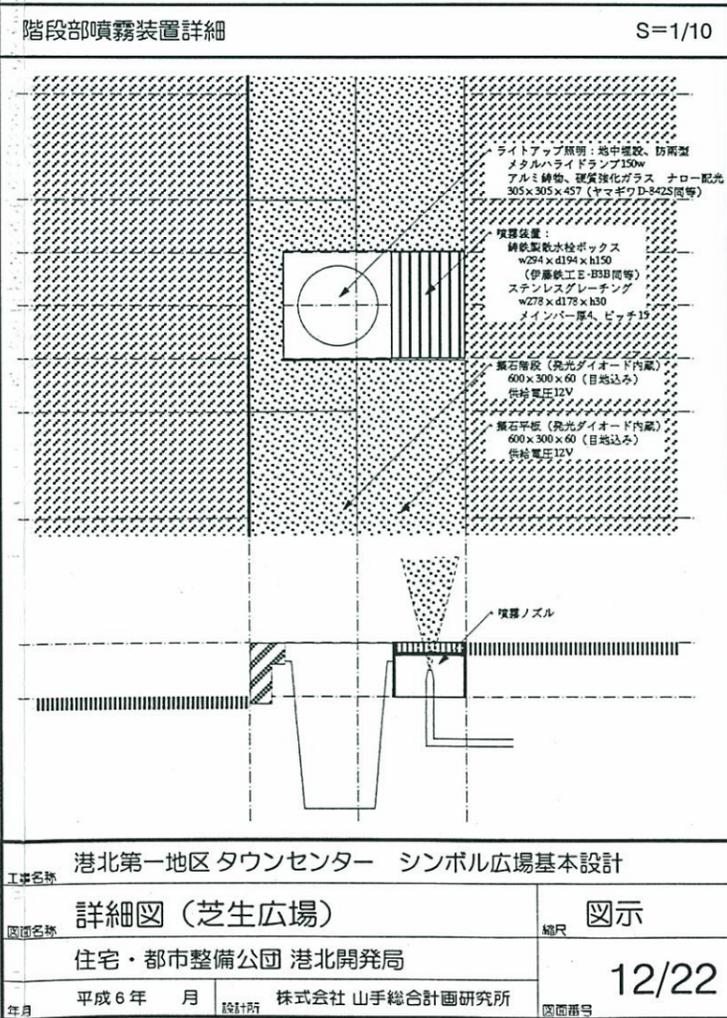
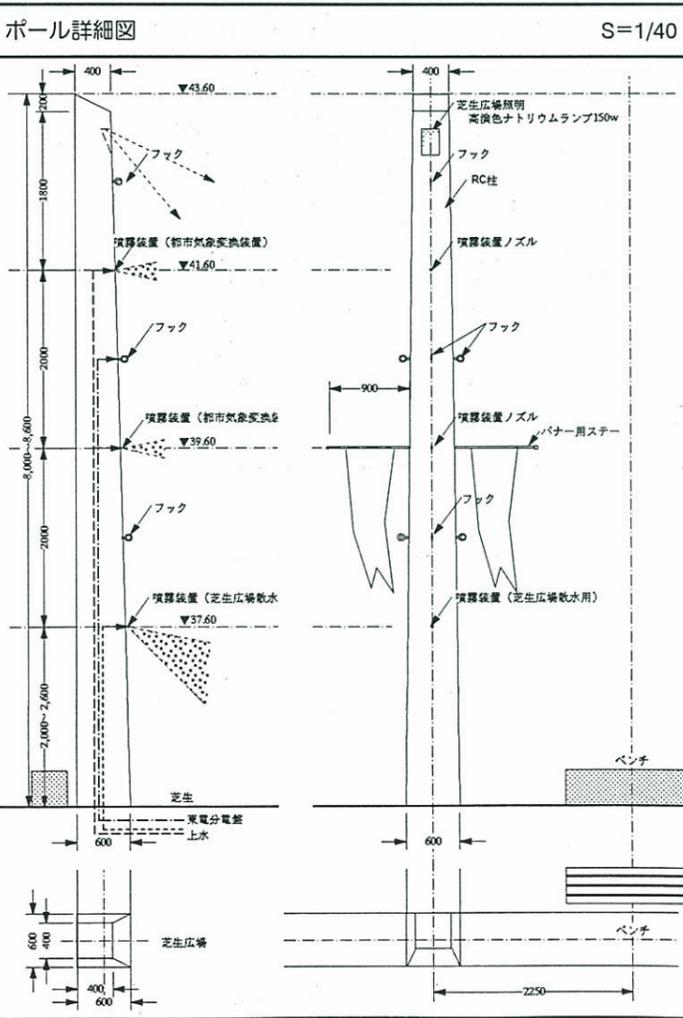
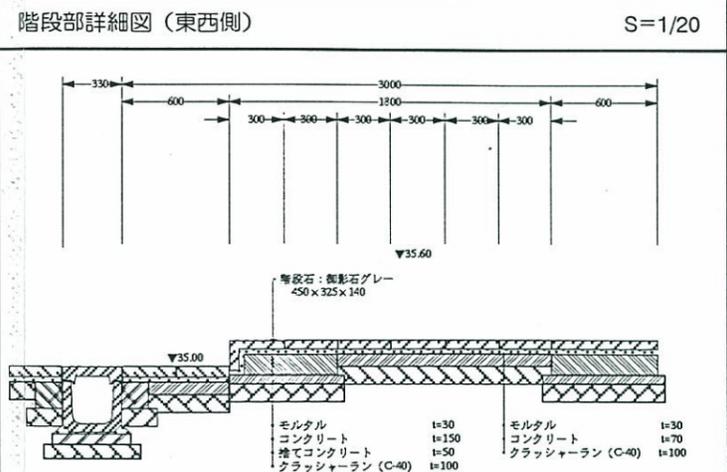
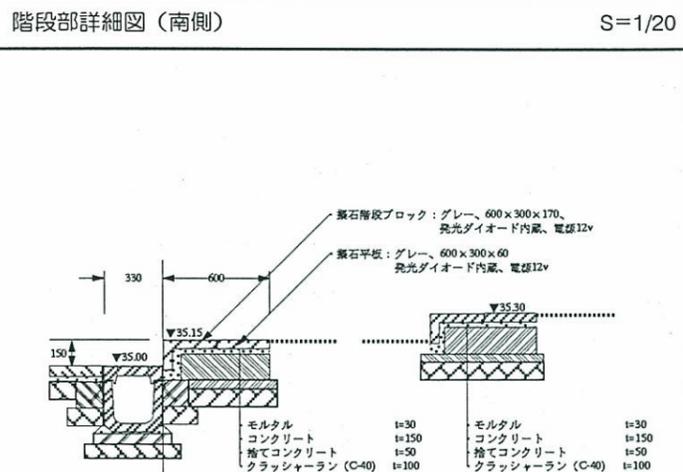
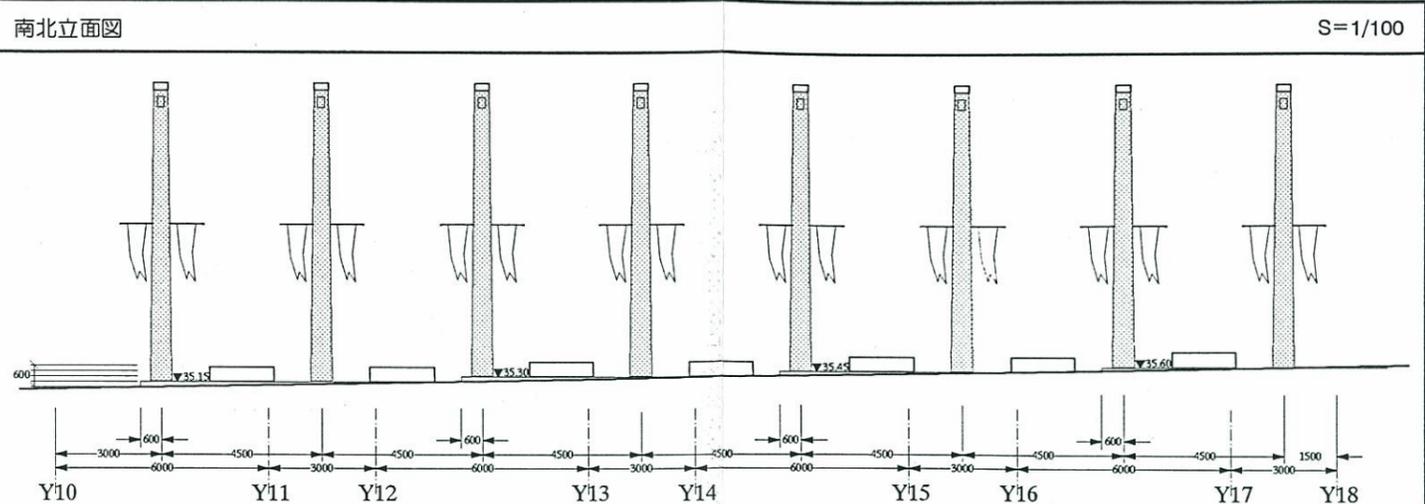
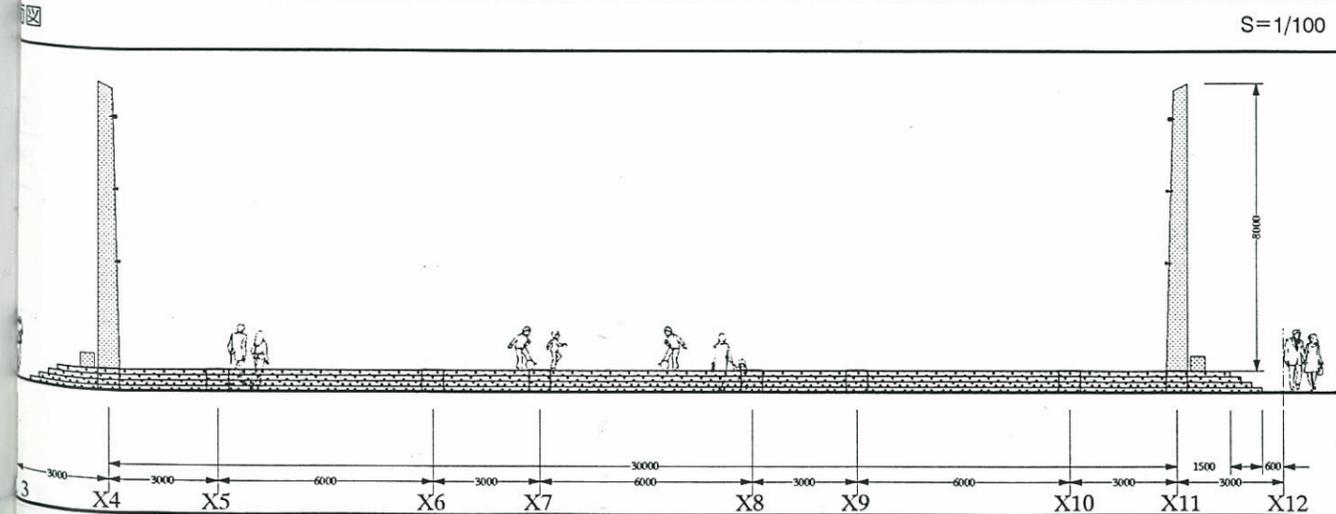
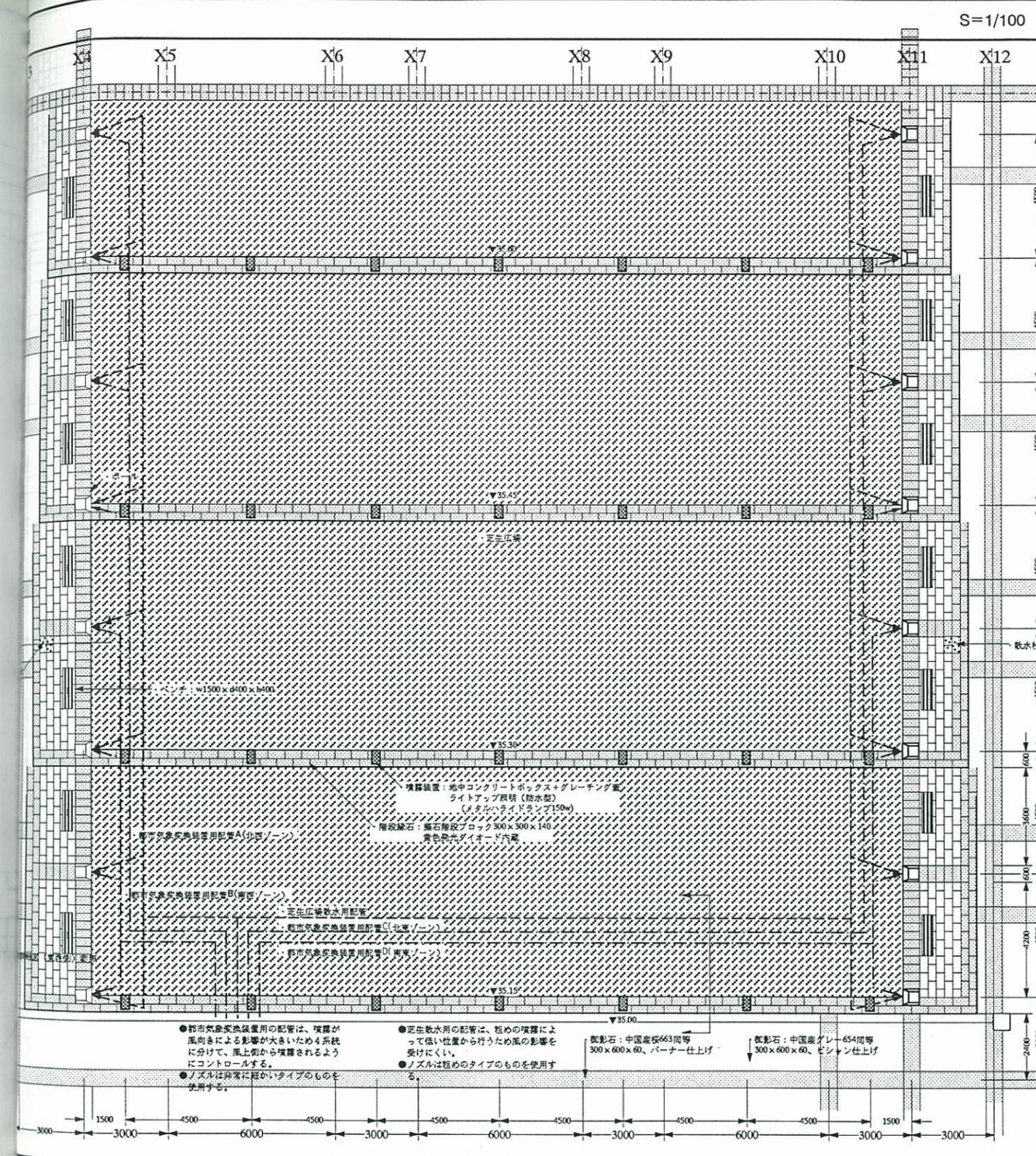
平成6年 月 日 株式会社 山手総合計画研究所



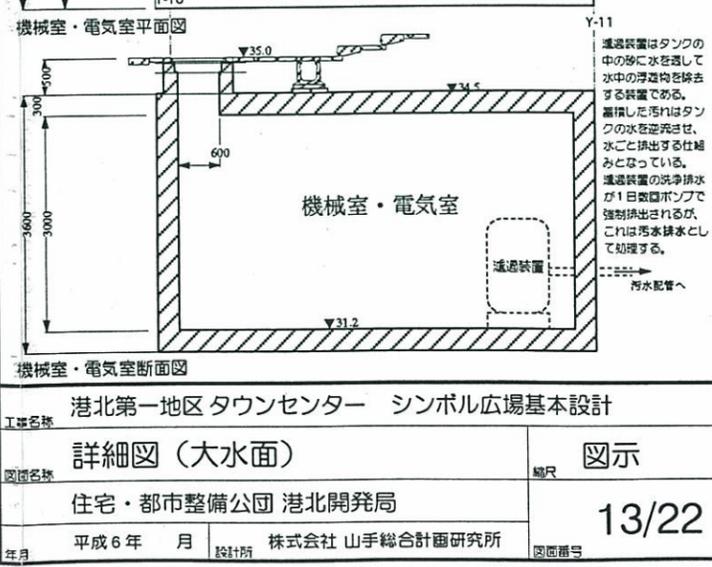
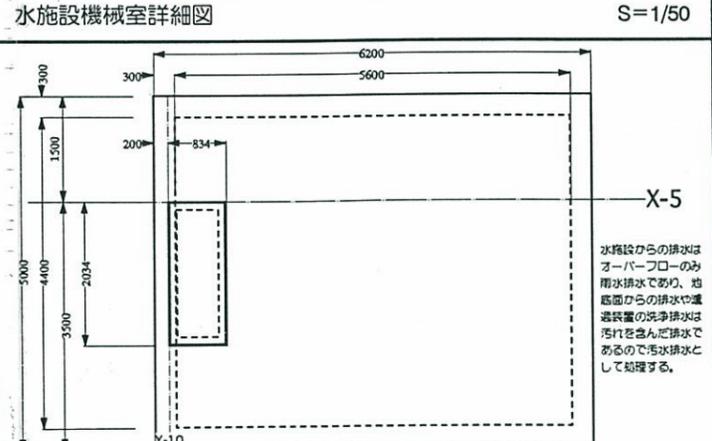
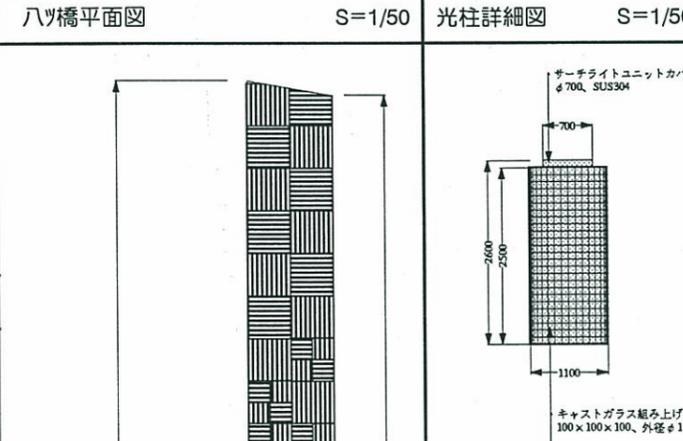
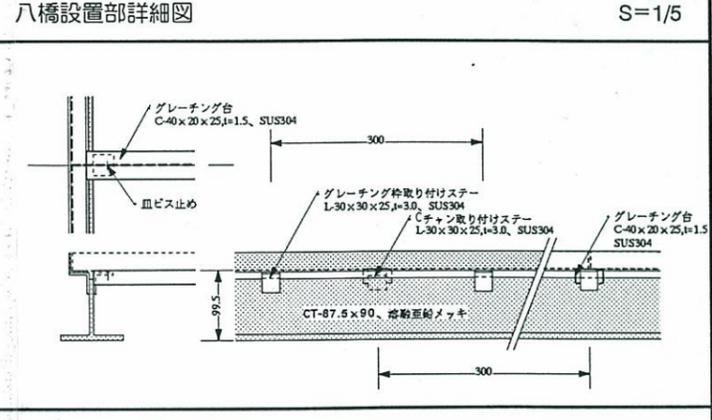
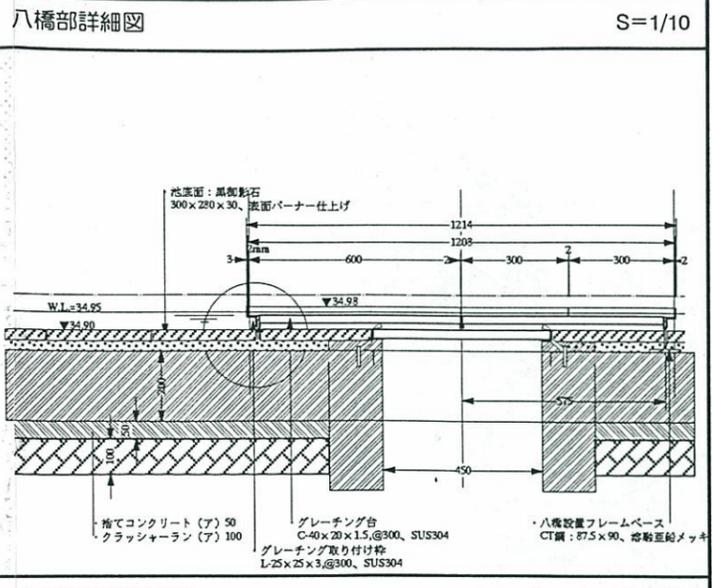
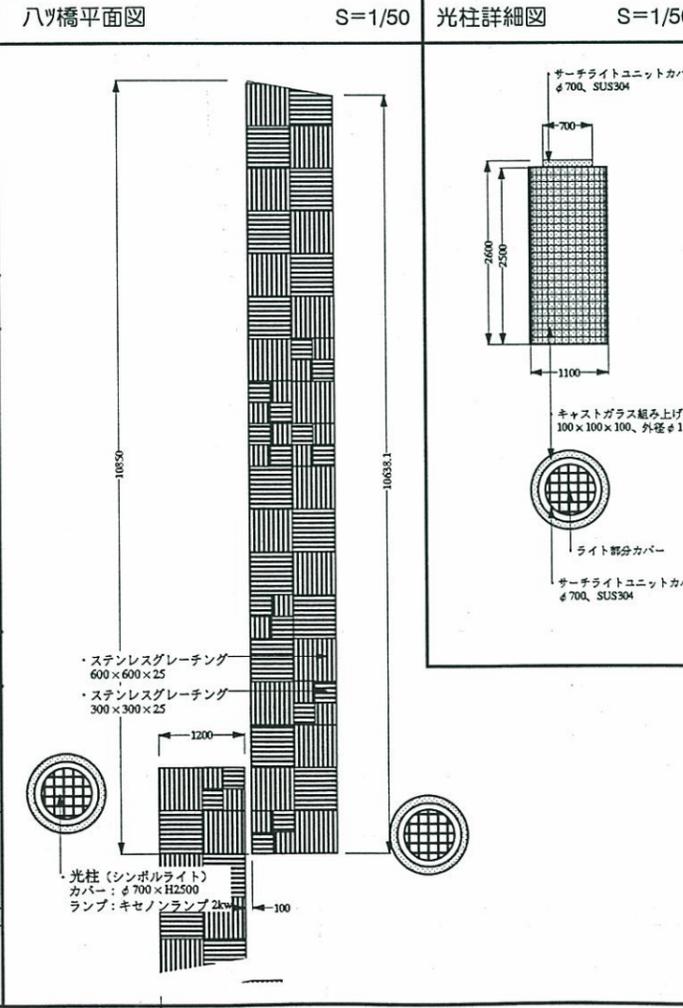
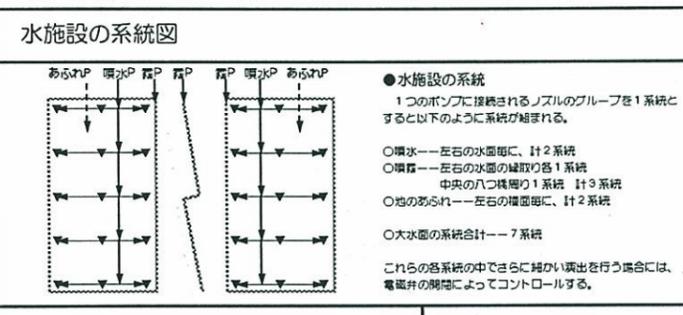
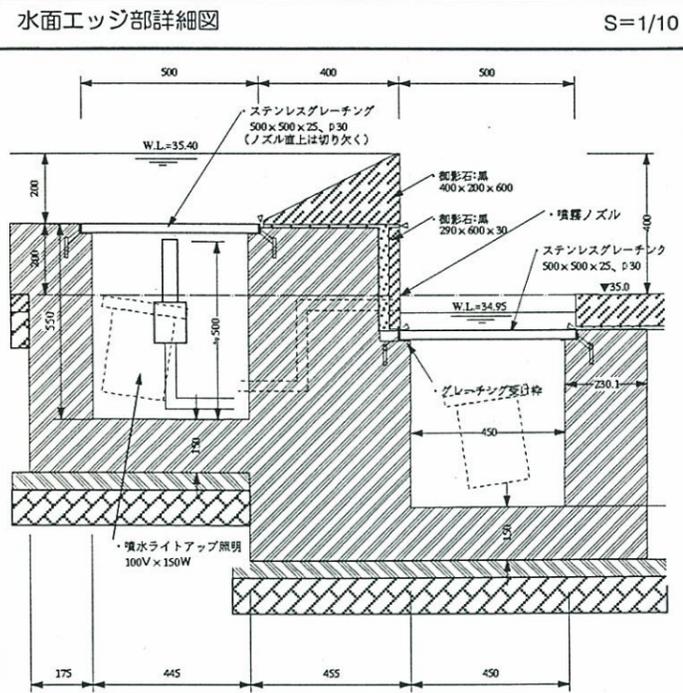
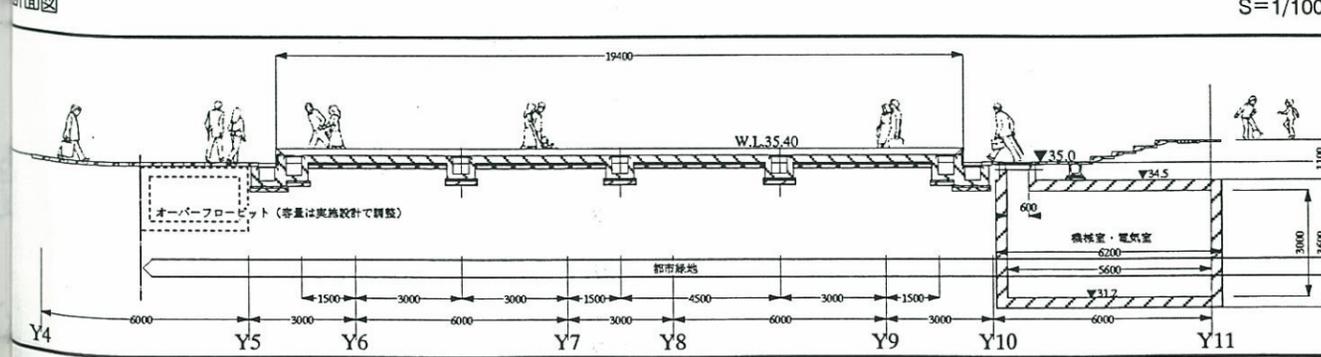
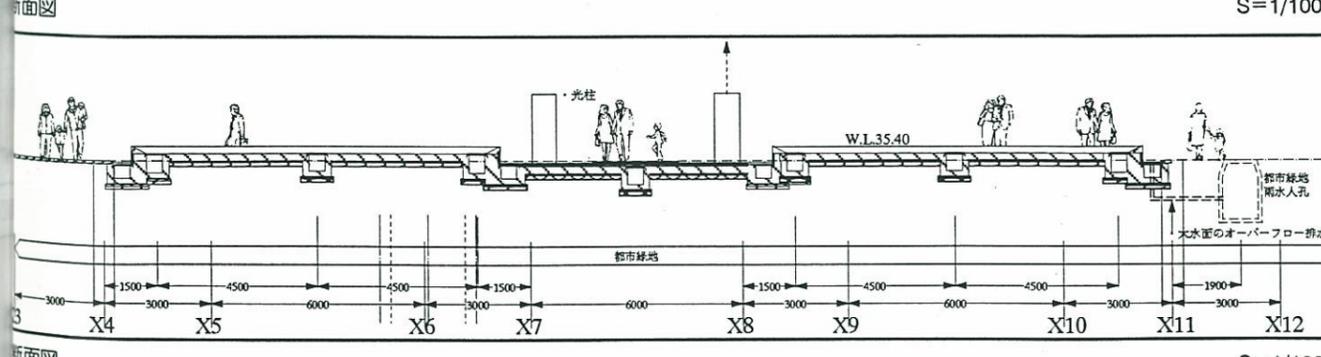
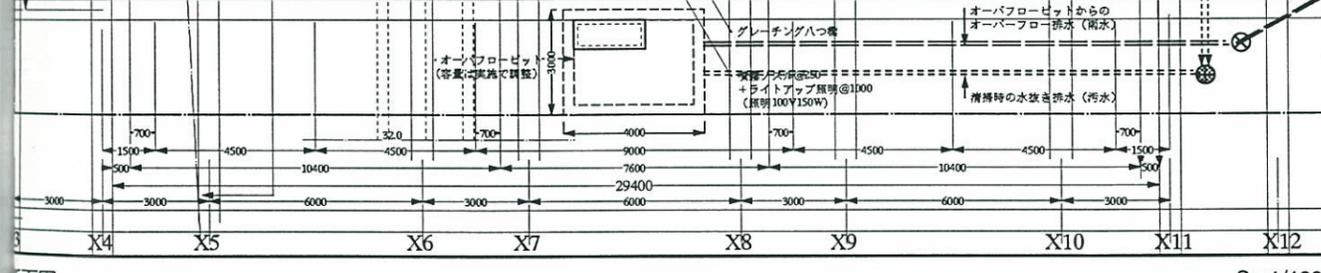
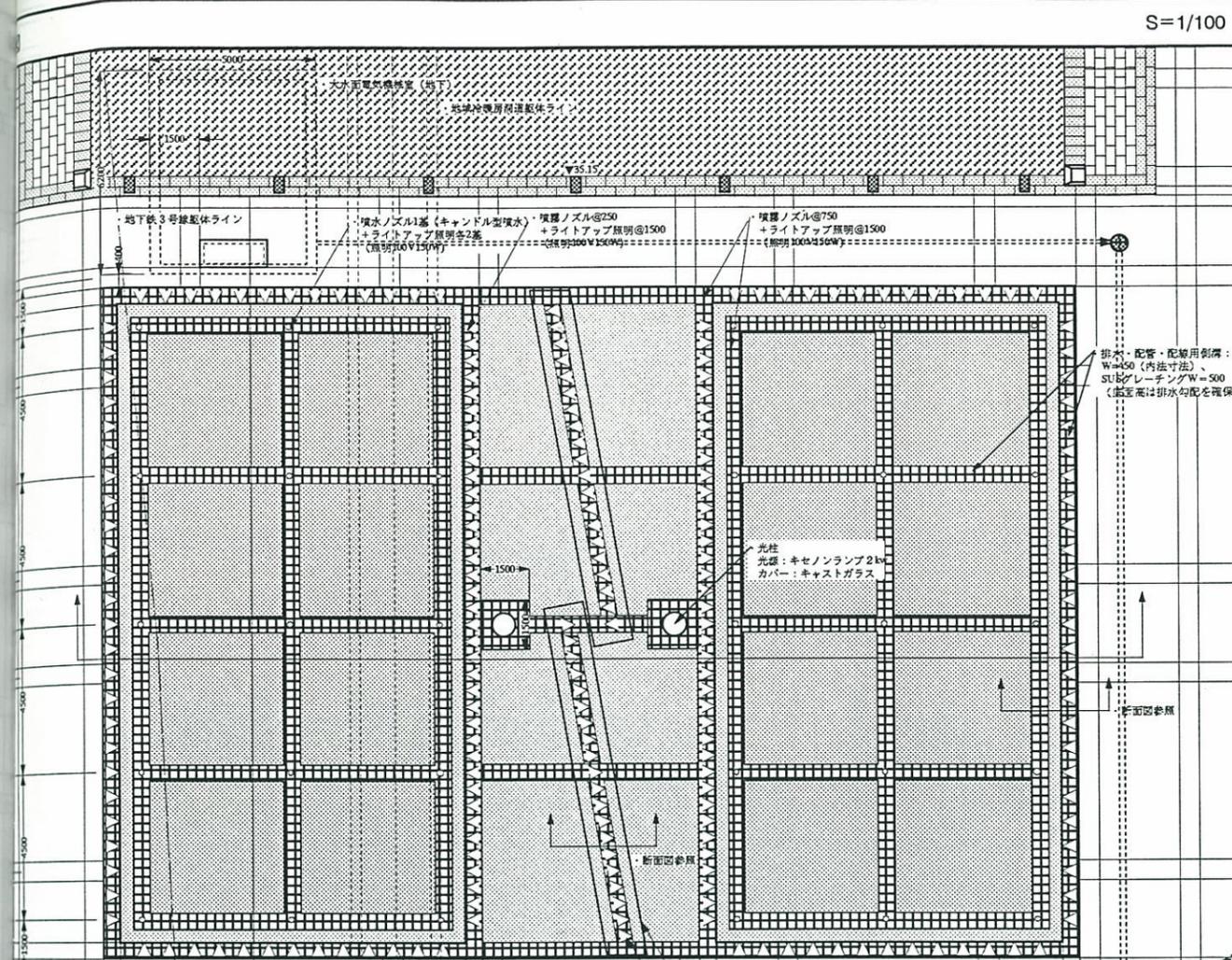
凡例

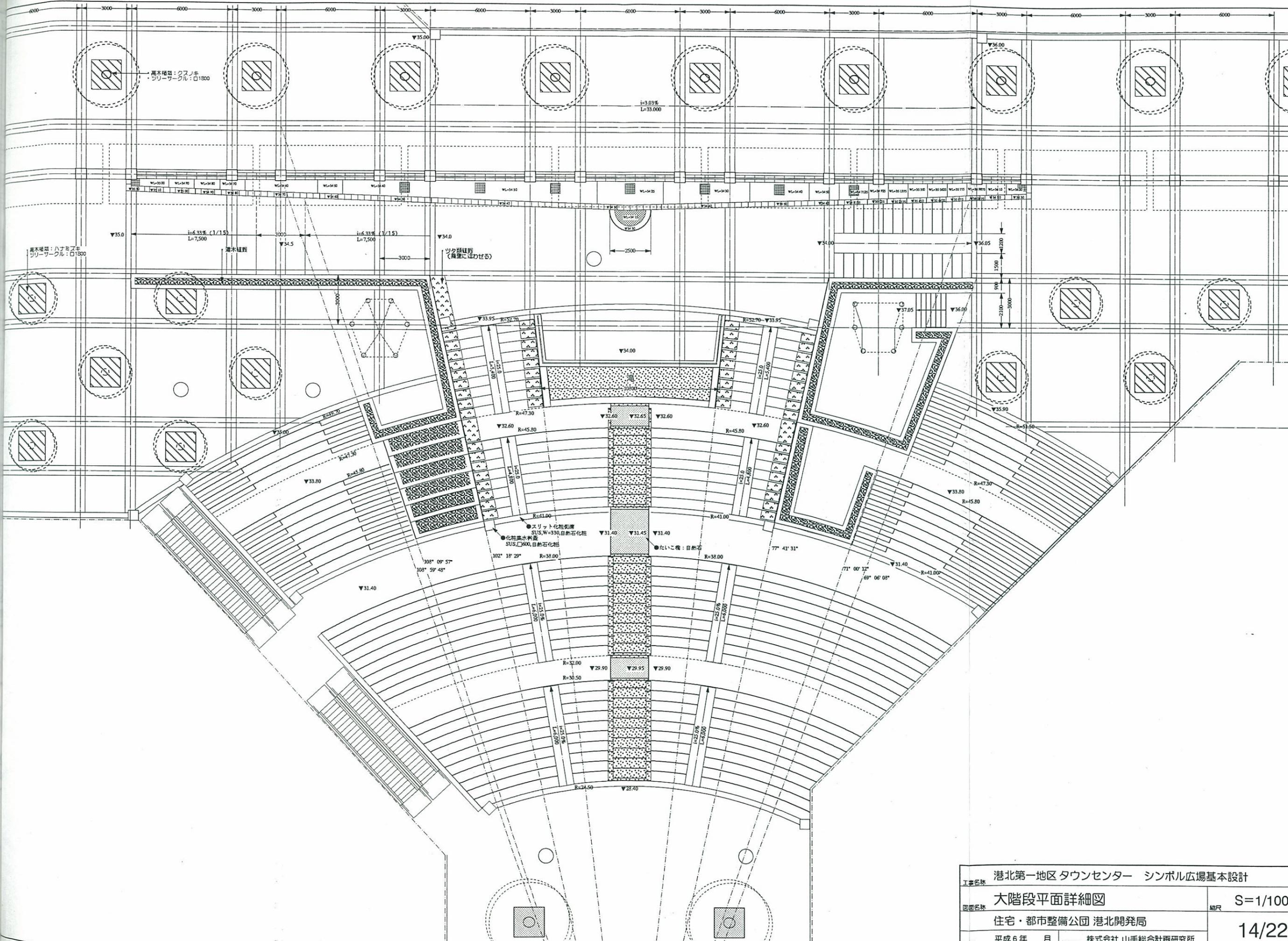
| | |
|--|---------------------|
| | 擬石化粧蓋付U型側溝 |
| | 充填式化粧蓋付U型側溝 (自然石充填) |
| | 擬石化粧蓋付排水柵 |
| | 雨水下水道本管 |
| | 雨水下水道本管人孔 (充填蓋) |
| | 雨水下水道取り付け管 |
| | 上水道 (想定) |
| | 散水栓 |
| | 水施設 |
| | 水施設機械・電気室 |
| | 補給上水 |
| | 水施設循環ポンプ |
| | 水施設濾過装置 |
| | 吐水口 |
| | 水施設循環経路 |

| | |
|--------------------------|-----------------|
| 港北第一地区タウンセンター シンボル広場基本設計 | |
| 工事名称 | 給排水計画平面図 |
| 図面名称 | 住宅・都市整備公団 港北開発局 |
| 年月 | 平成6年 月 |
| 設計所 | 株式会社 山手総合計画研究所 |
| 縮尺 | S=1/500 |
| 図面番号 | 11/22 |



港北第一地区タウンセンター シンボル広場基本設計
 工事名称
 詳細図(芝生広場)
 図面名称
 住宅・都市整備公団 港北開発局
 図面番号
 12/22
 平成6年 月 日
 設計所 株式会社 山手総合計画研究所





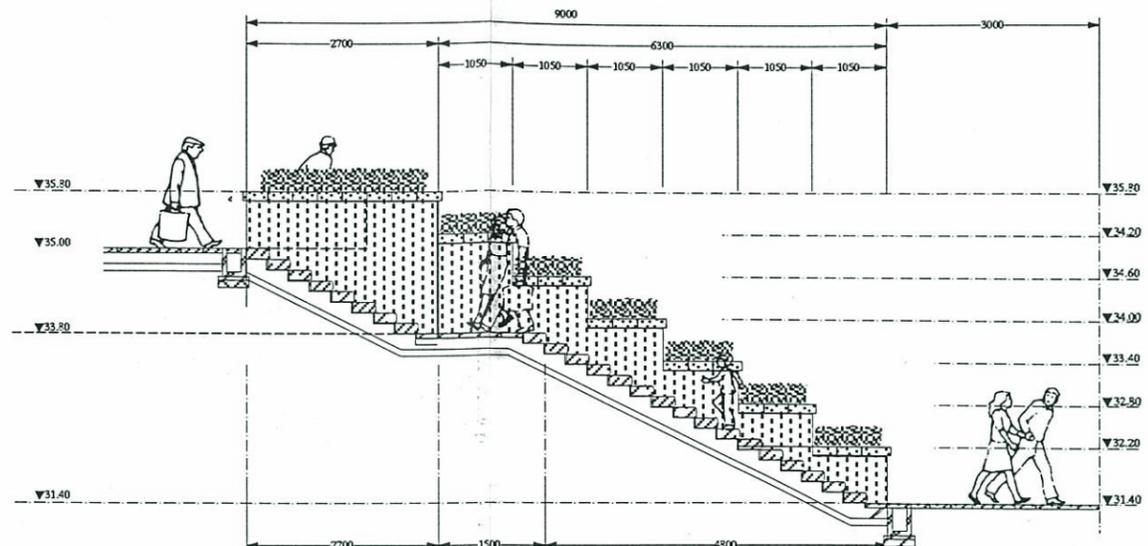
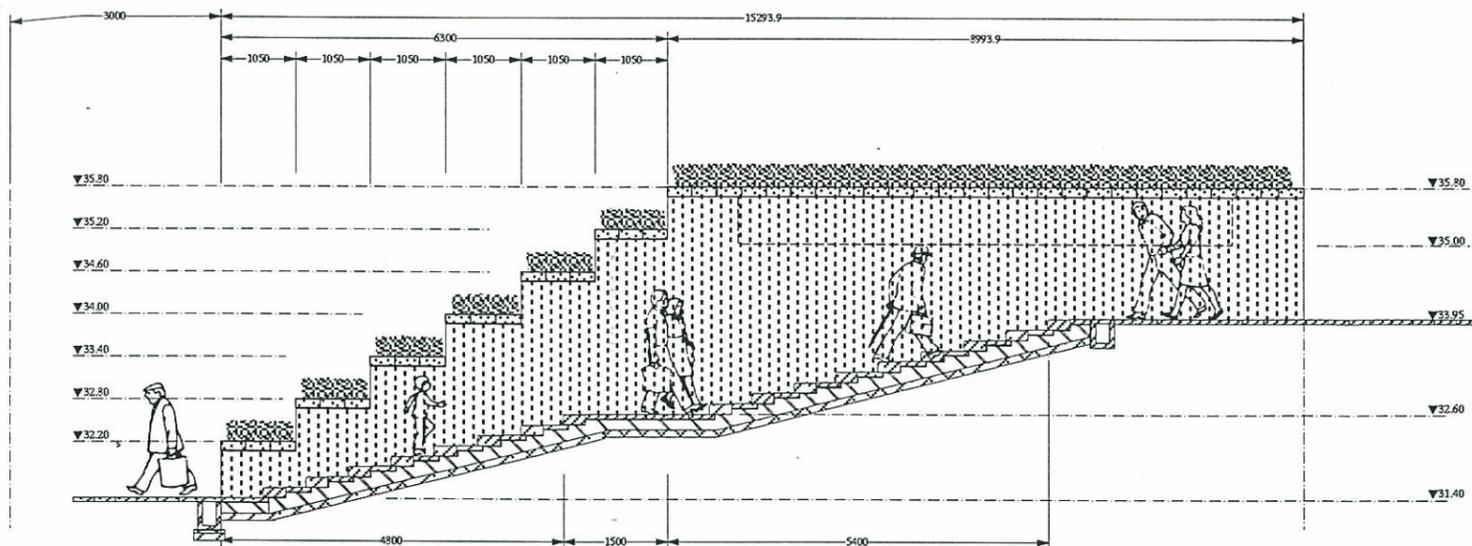
| | | |
|------|--------------------------|--------------------|
| 工事名称 | 港北第一地区タウンセンター シンボル広場基本設計 | |
| 図面名称 | 大階段平面詳細図 | 縮尺 S=1/100 |
| 年月 | 平成6年 月 | 設計所 株式会社 山手総合計画研究所 |
| 図面番号 | 14/22 | |

擁壁立面図 (太陽のフォリー東側、A-A断面)

S=1/50

擁壁立面図 (太陽のフォリー西側、B-B断面)

S=1/50

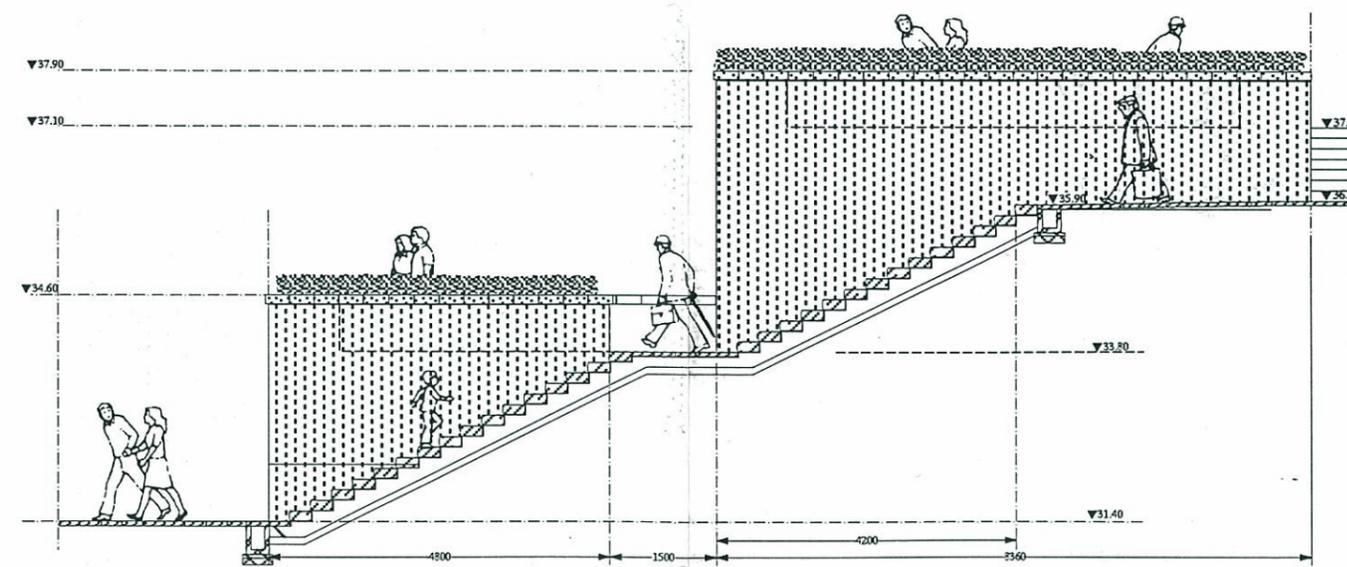
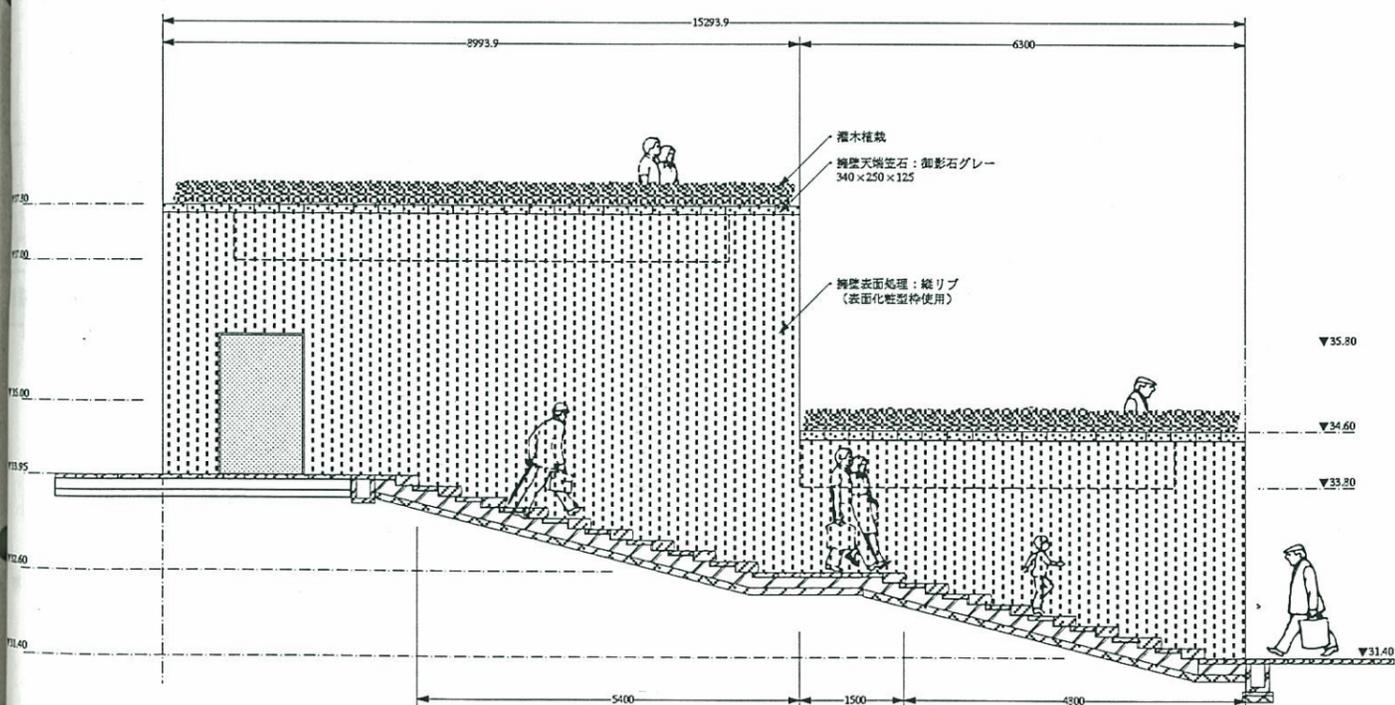


擁壁立面図 (月のフォリー西側、C-C断面)

S=1/50

擁壁立面図 (月のフォリー東側、D-D断面)

S=1/50



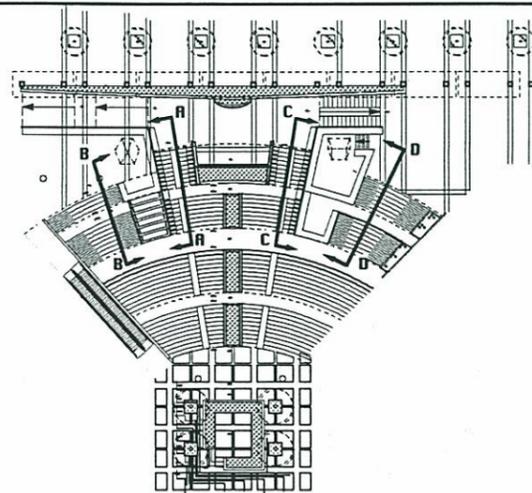
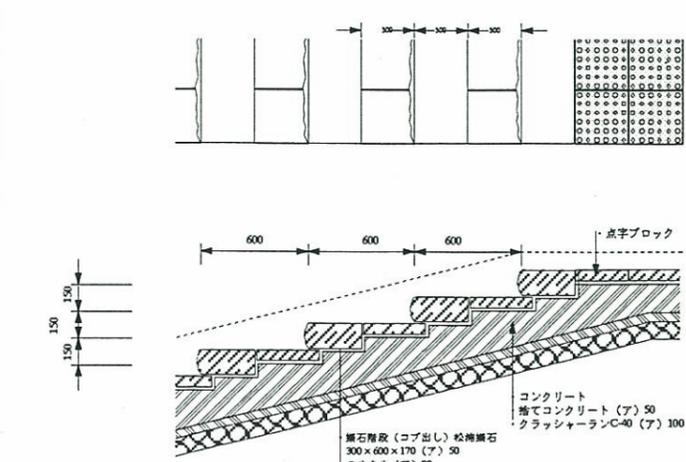
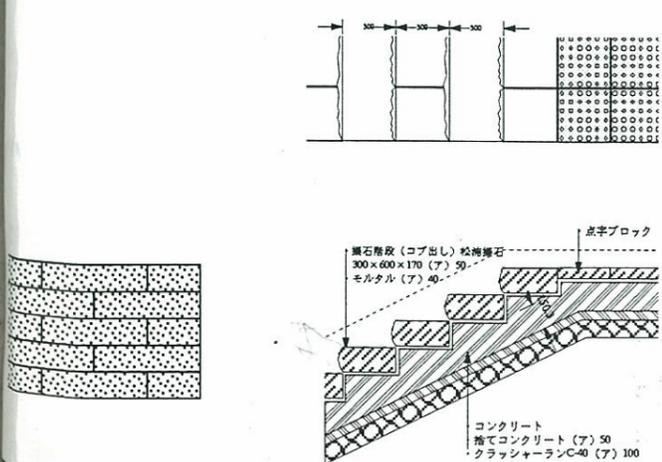
階段詳細

S=1/20

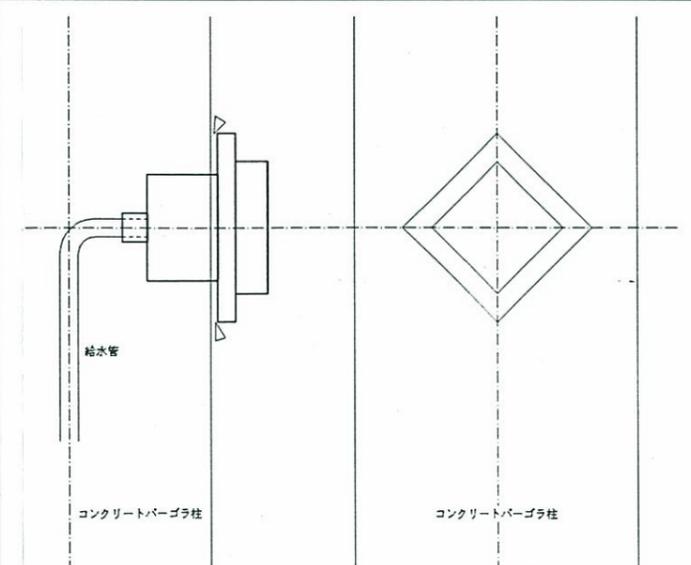
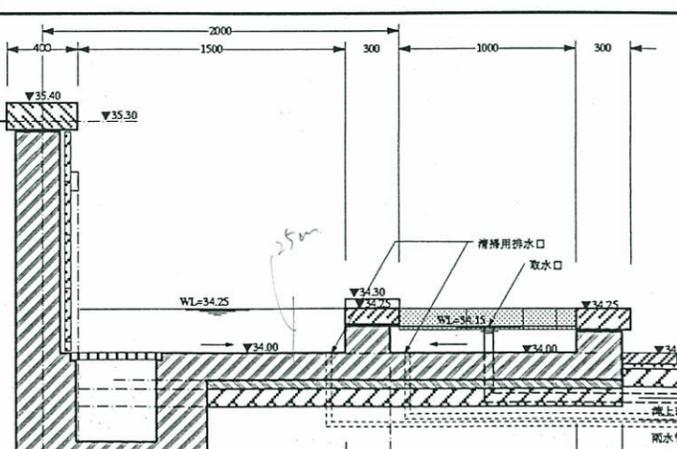
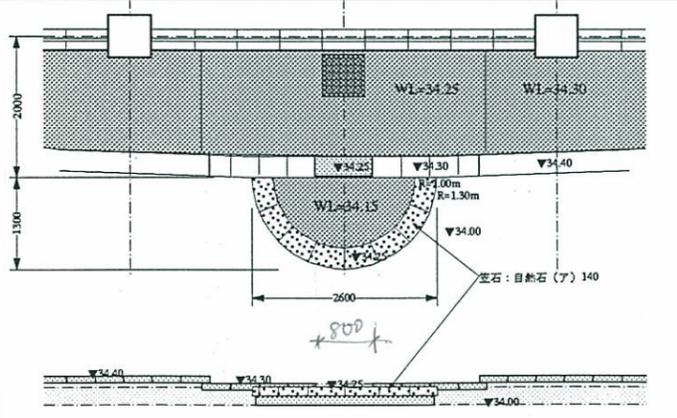
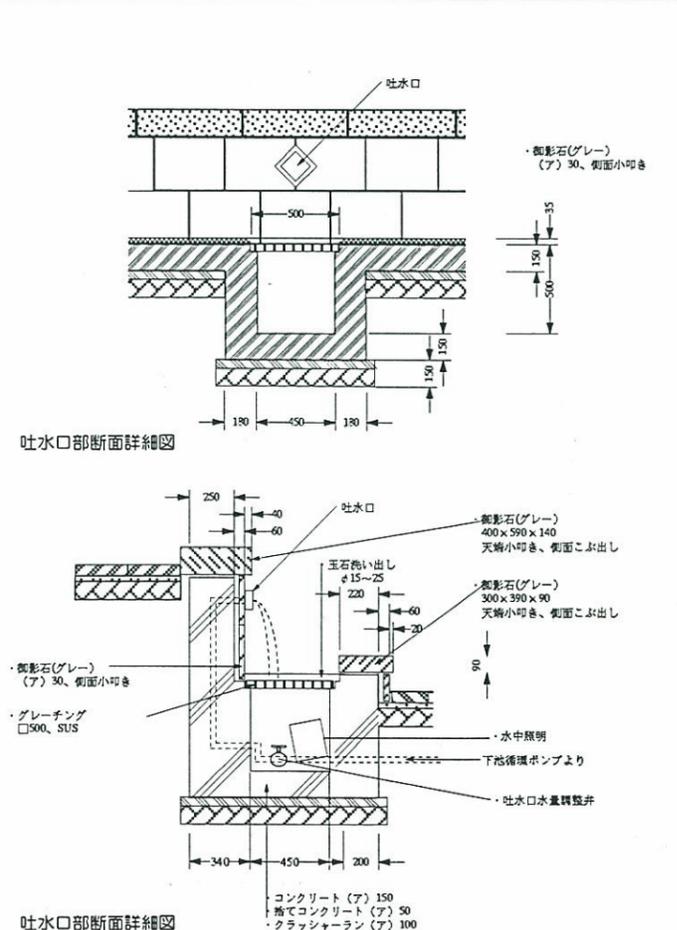
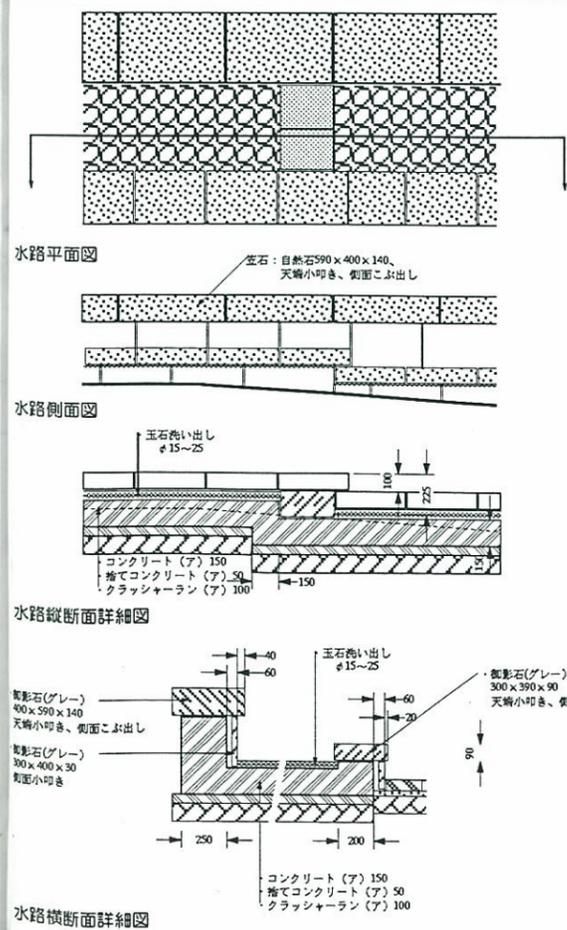
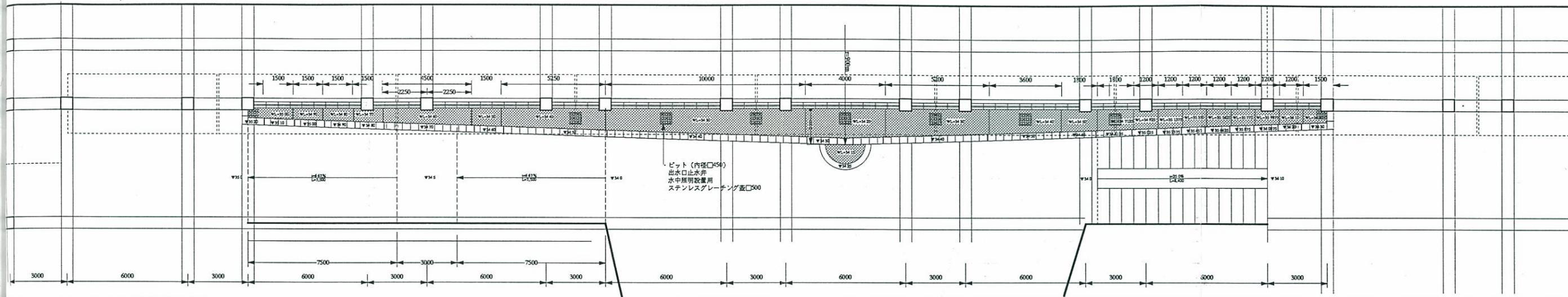
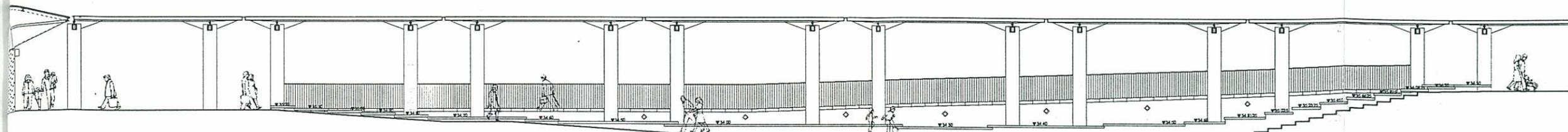
1/4階段詳細

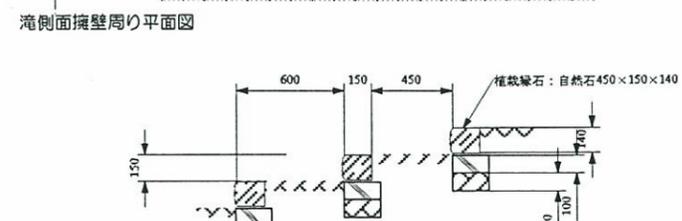
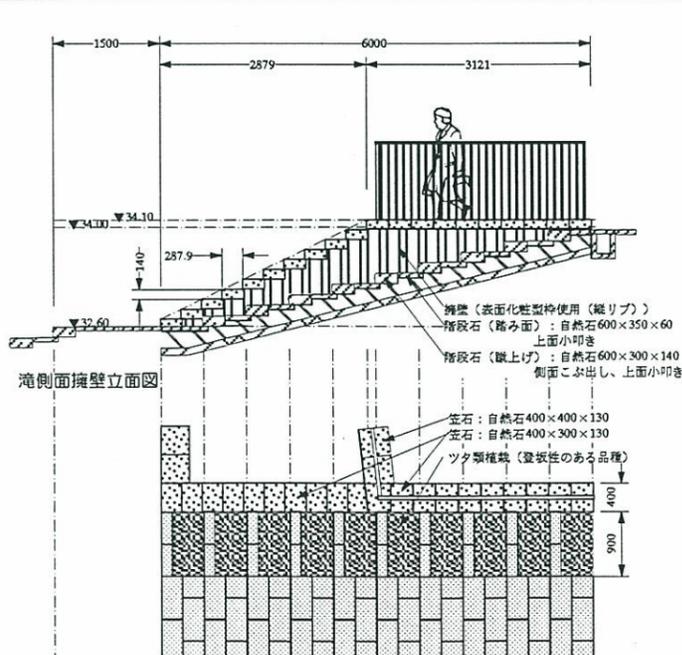
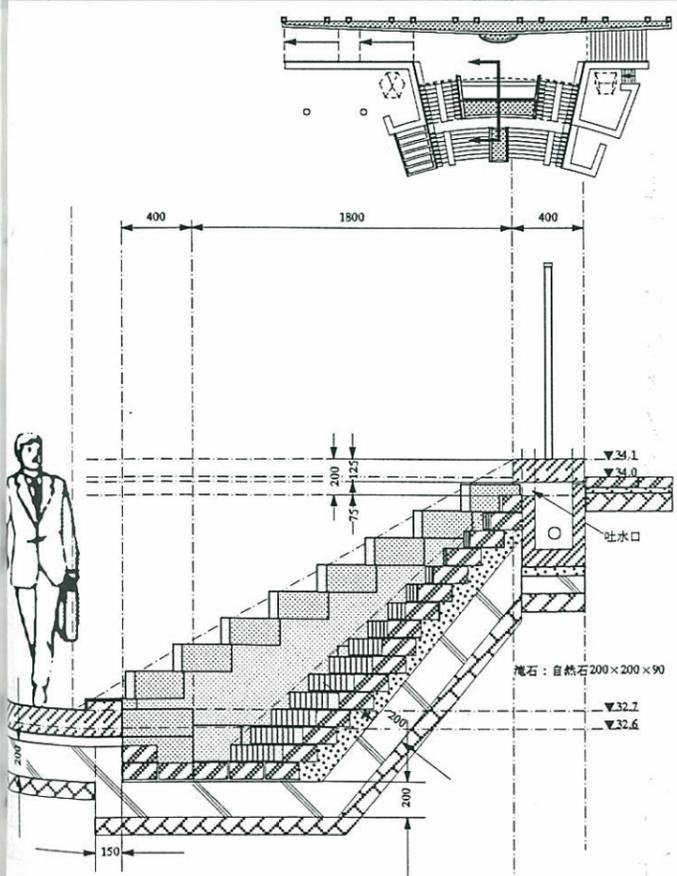
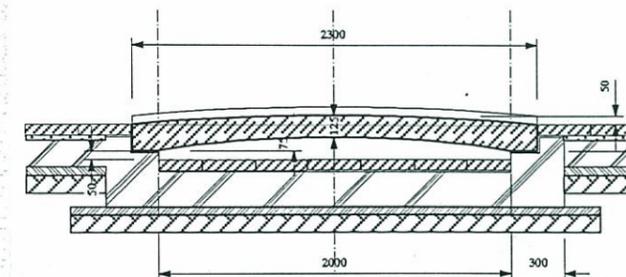
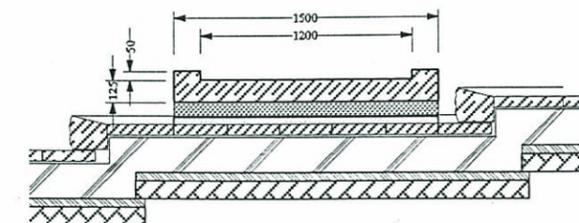
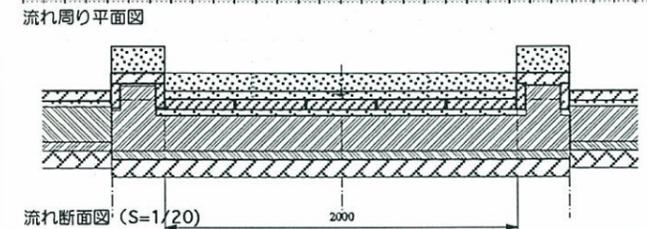
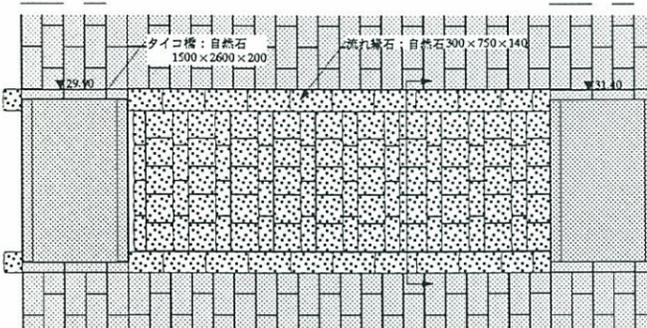
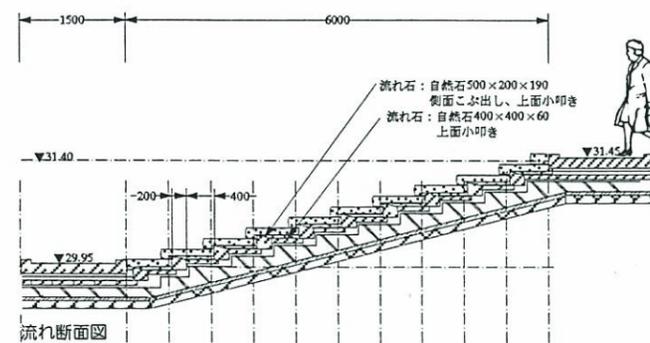
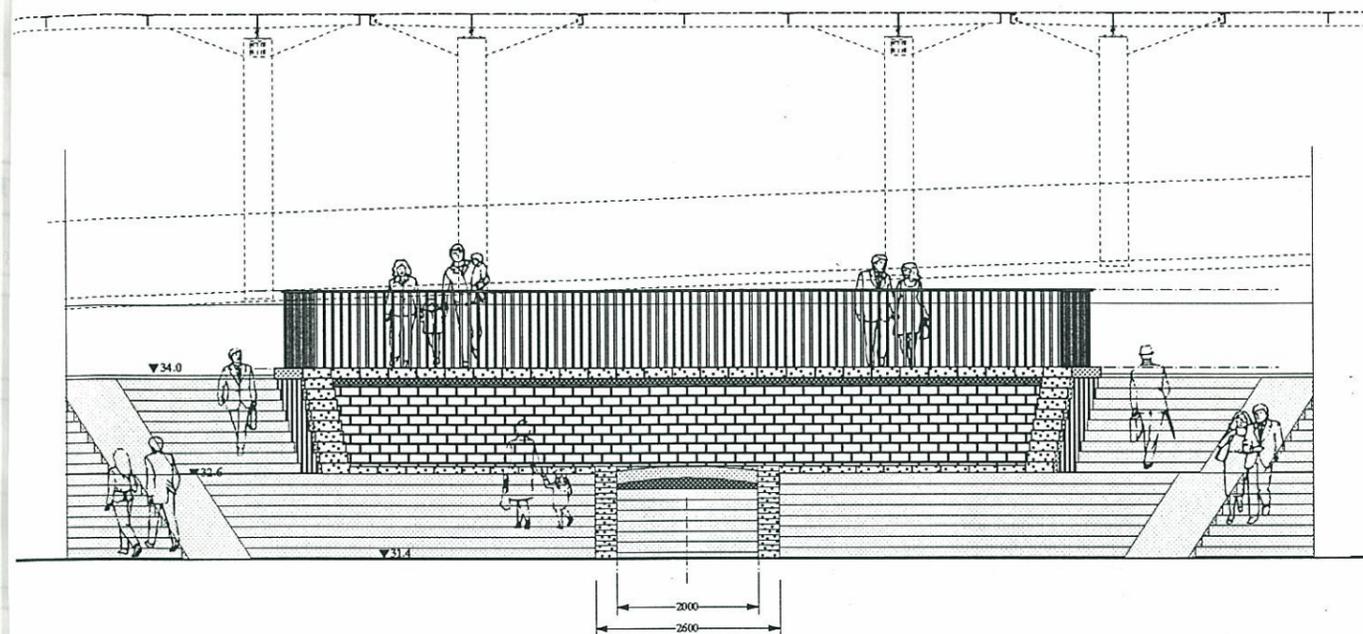
S=1/20

擁壁立面図案内図

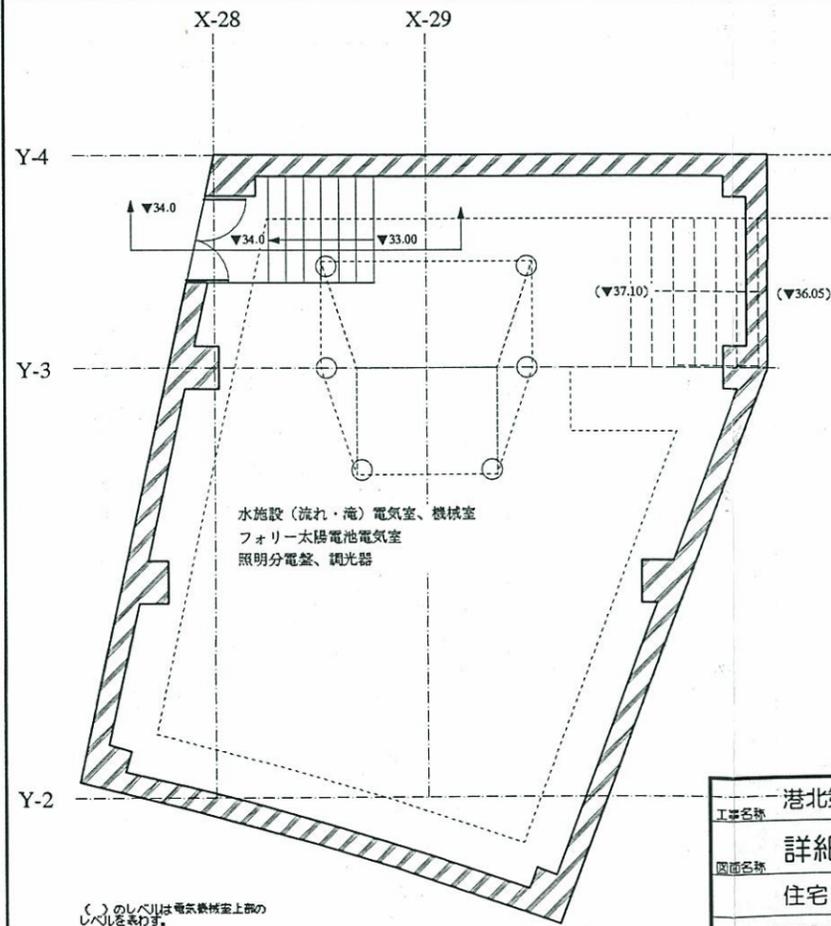


港北第一地区タウンセンター シンボル広場基本設計
 工業名称
 詳細図 (大階段擁壁)
 図面名称
 住宅・都市整備公団 港北開発局
 年月
 平成6年 月 日
 設計所
 株式会社 山手総合計画研究所
 縮尺
 図示
 15/22
 図面番号

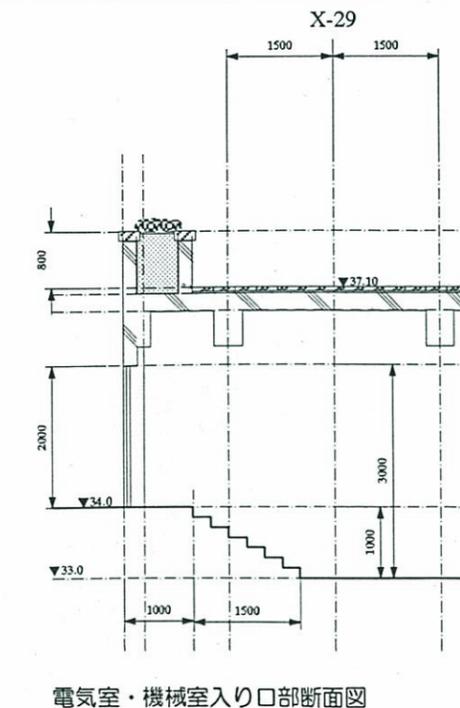


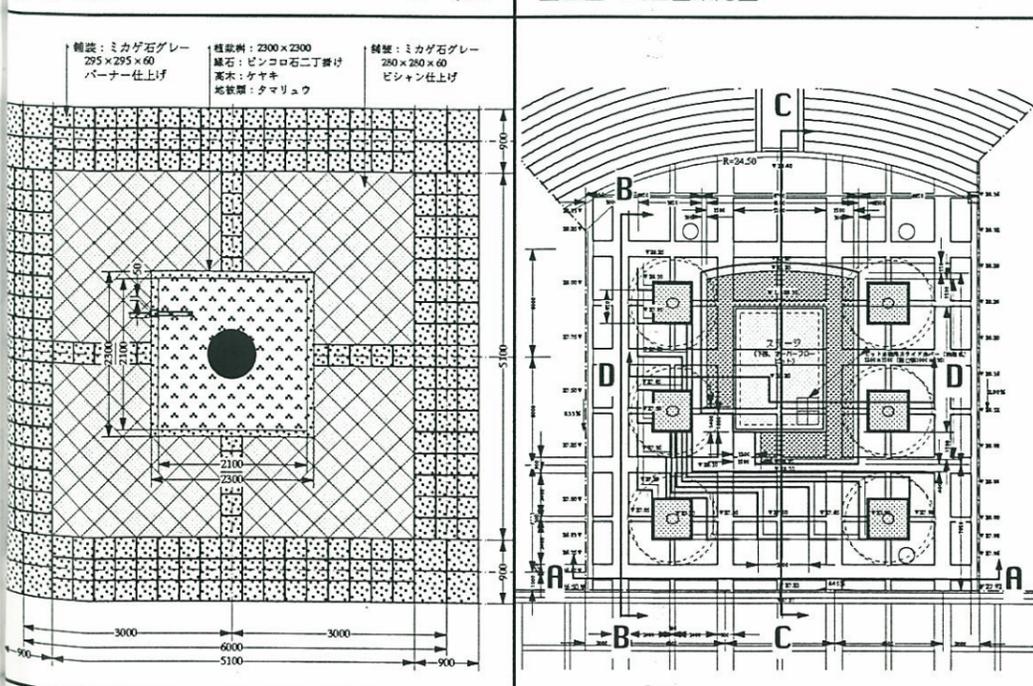
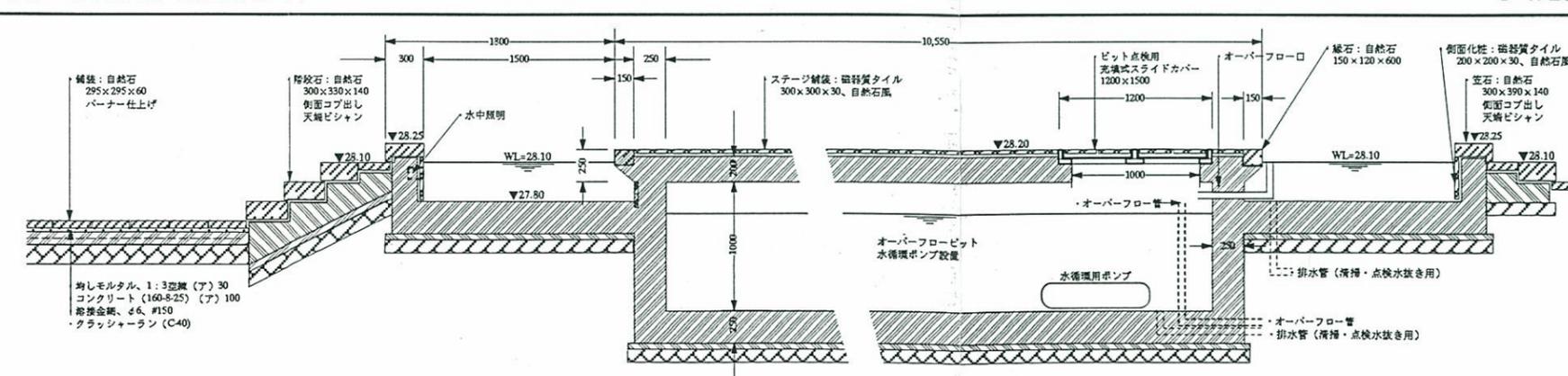
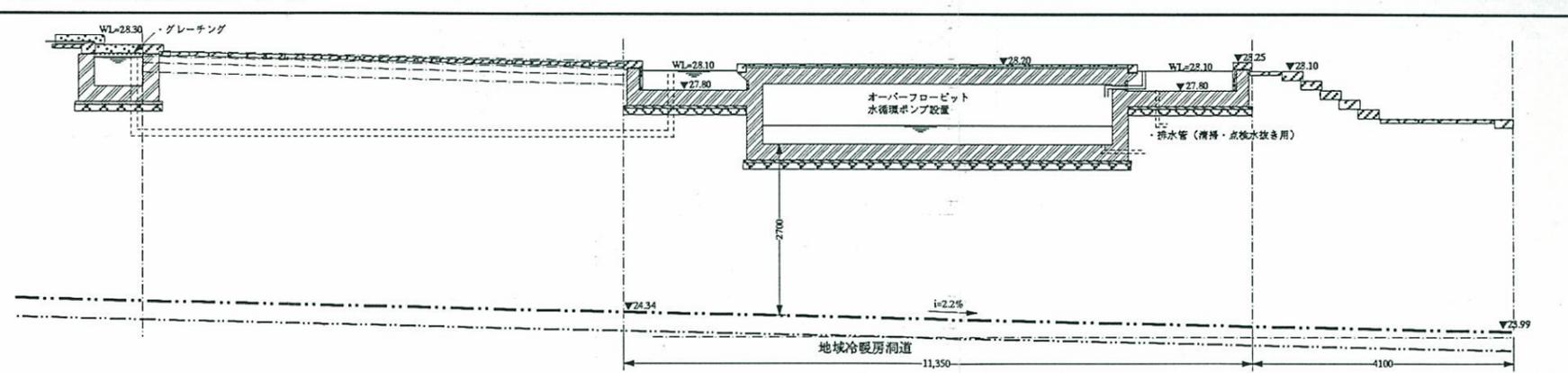
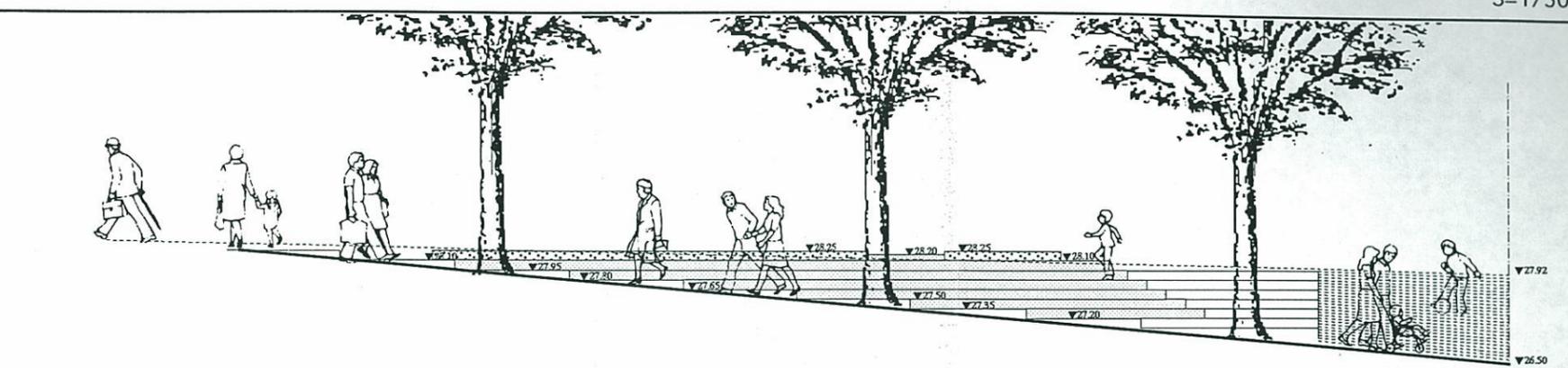
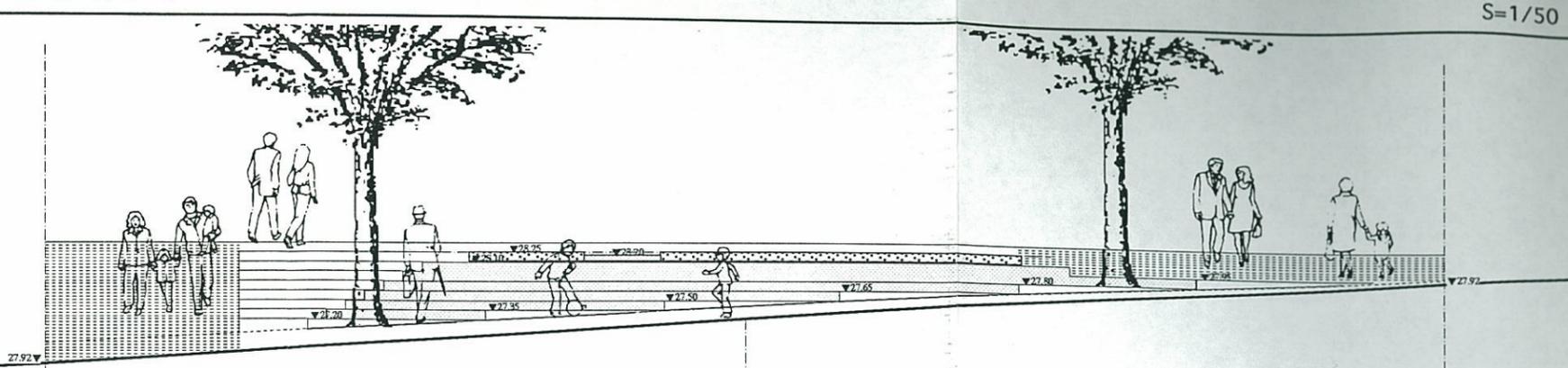
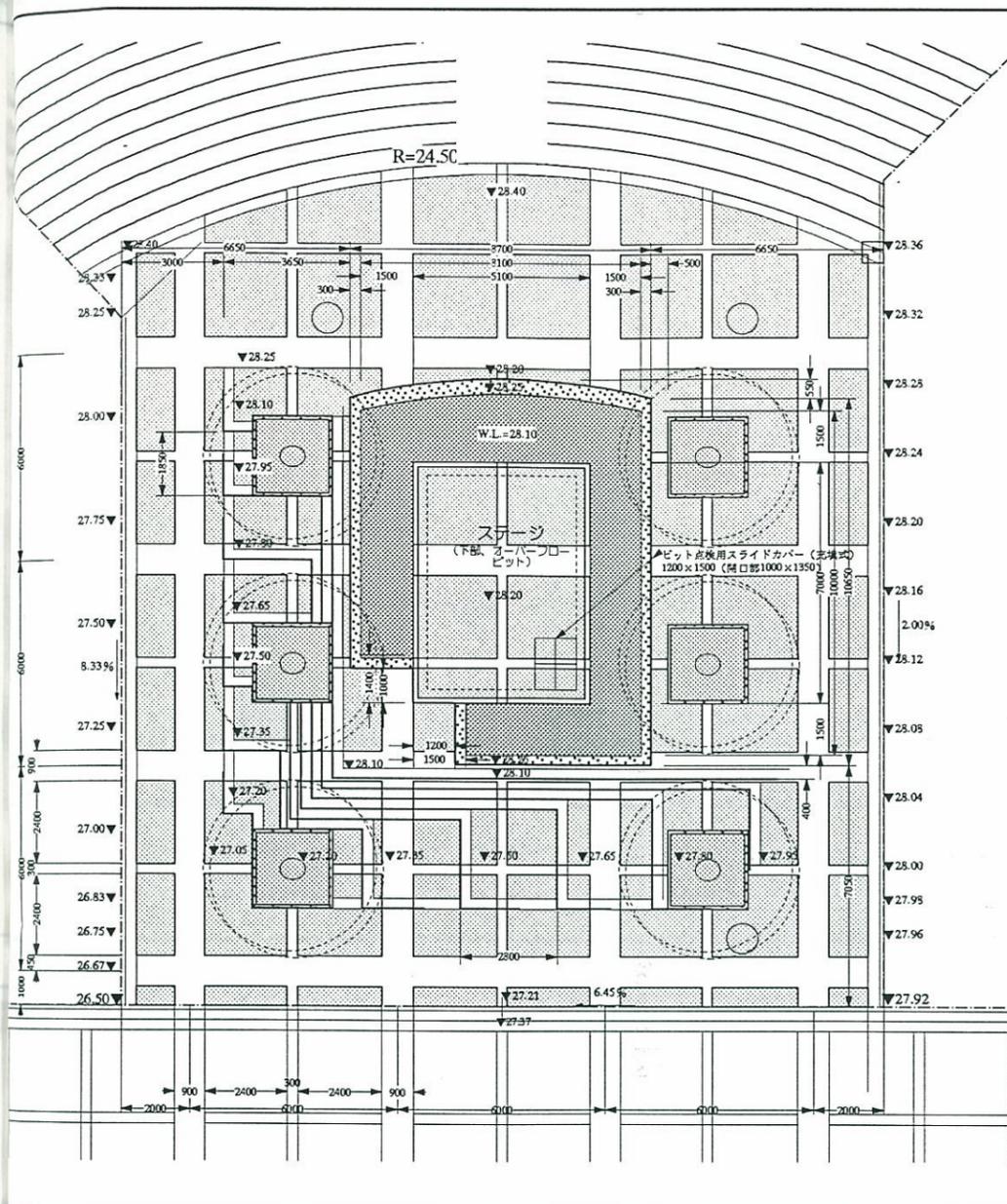


滝側面擁壁足元植栽断面図 S=1/20

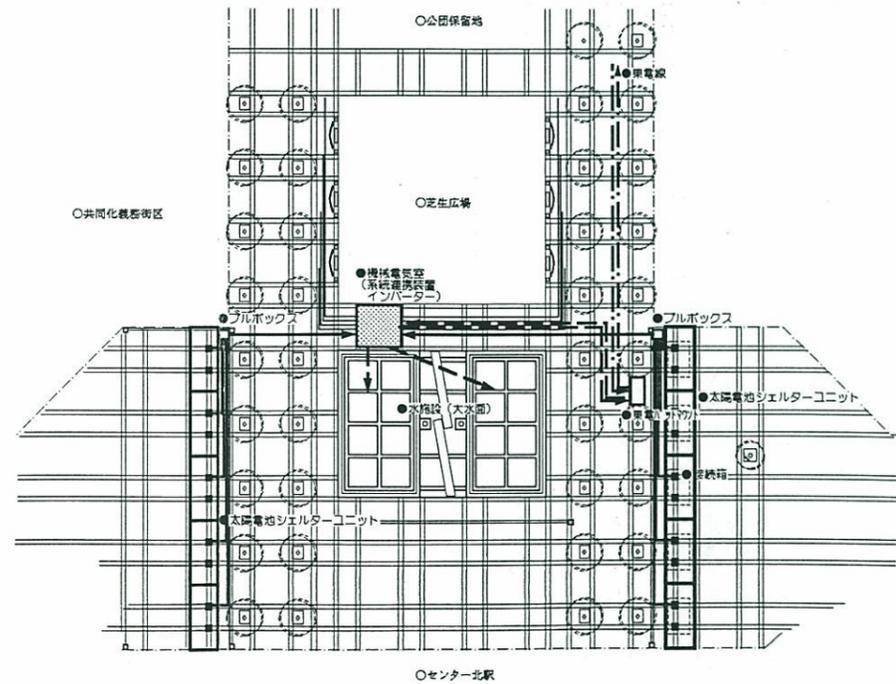
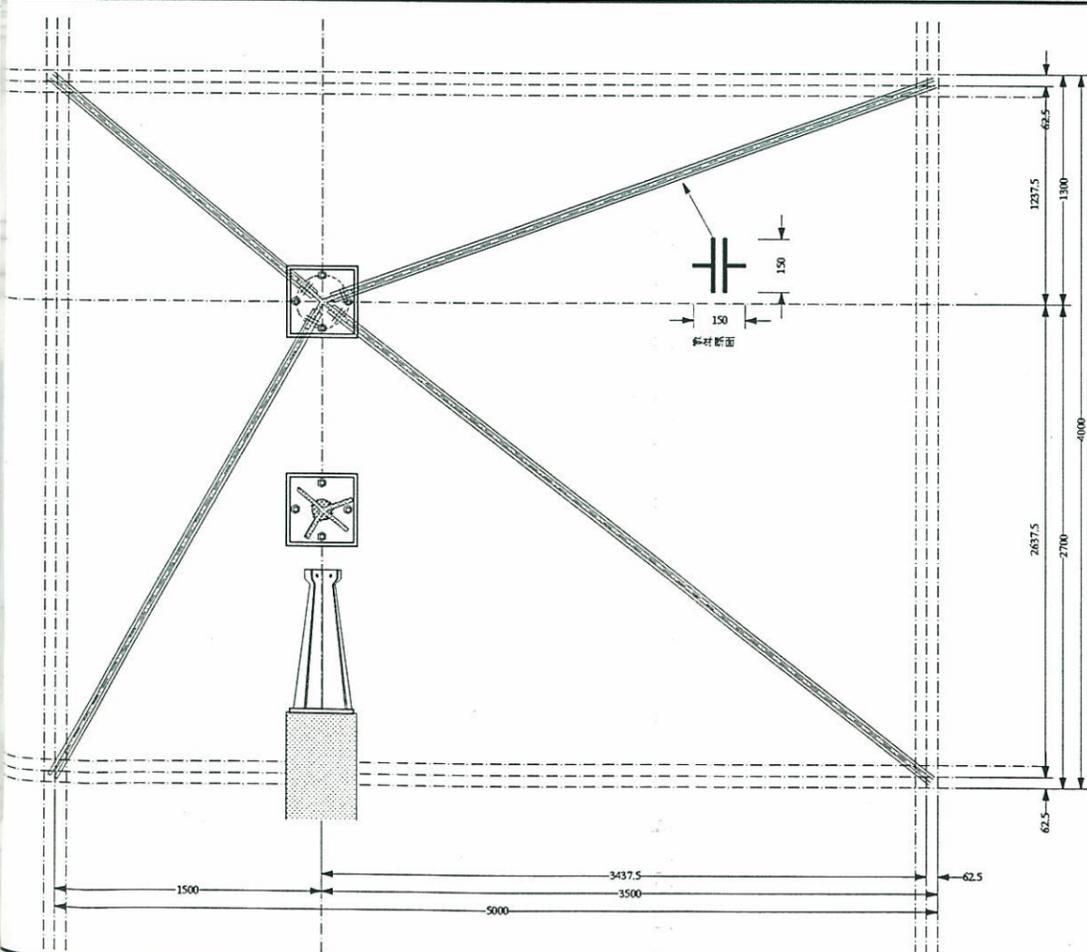
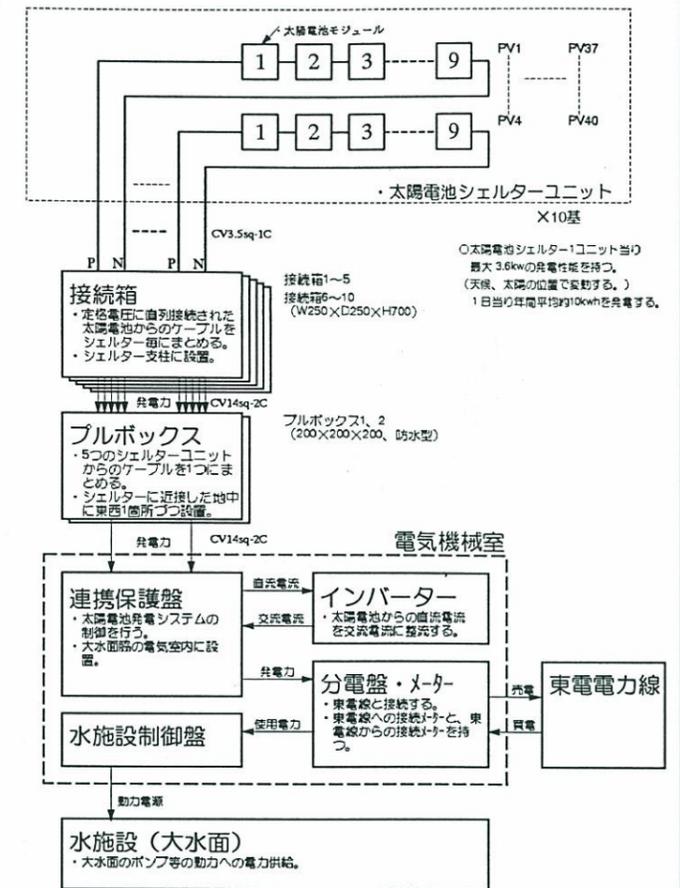
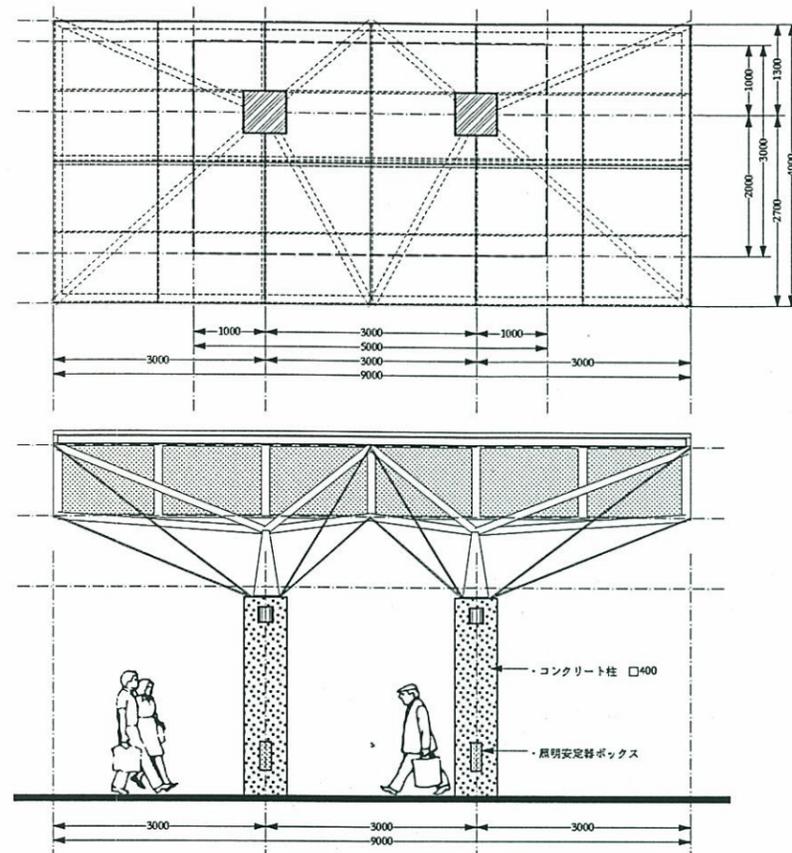
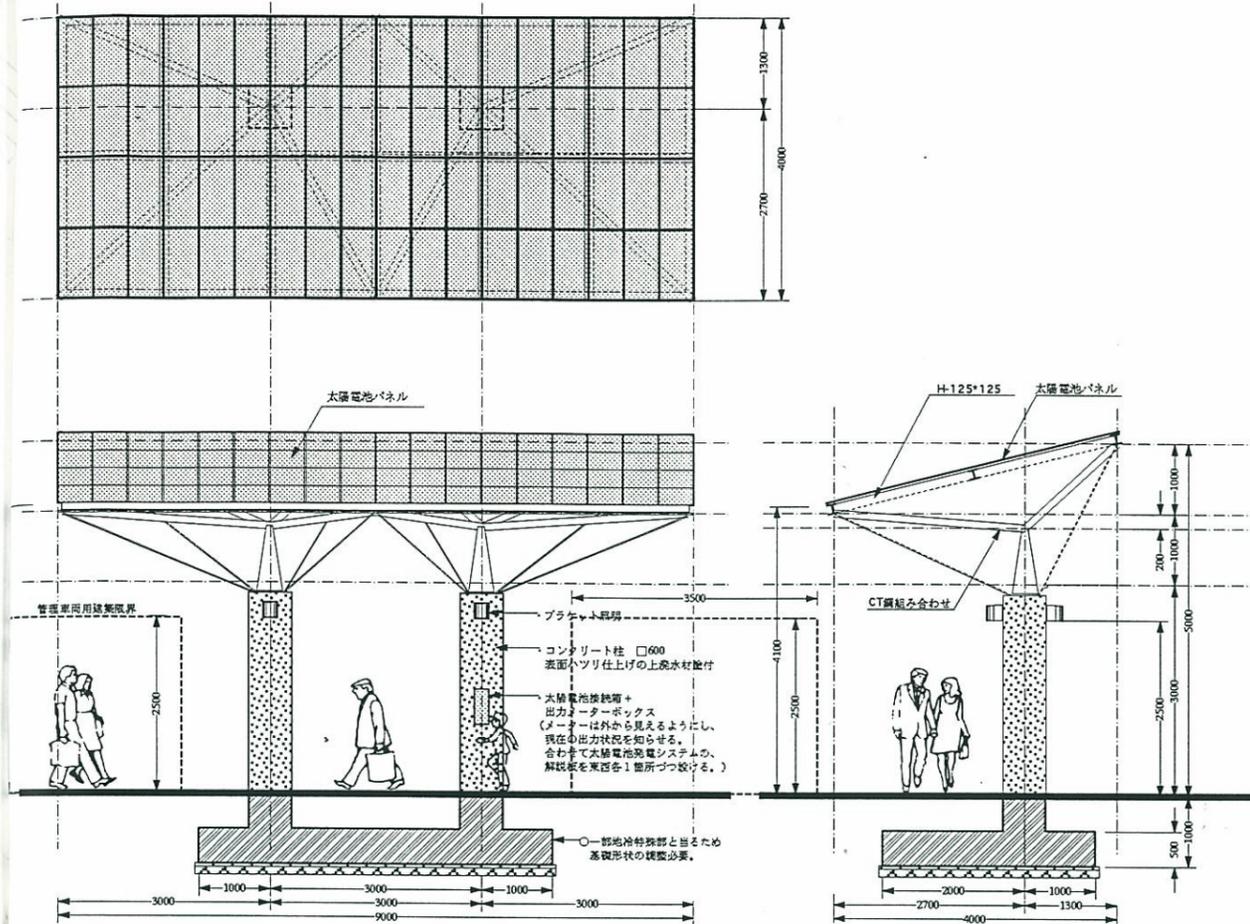


(○)のレベルは電気機械室上部のレベルを表わす。



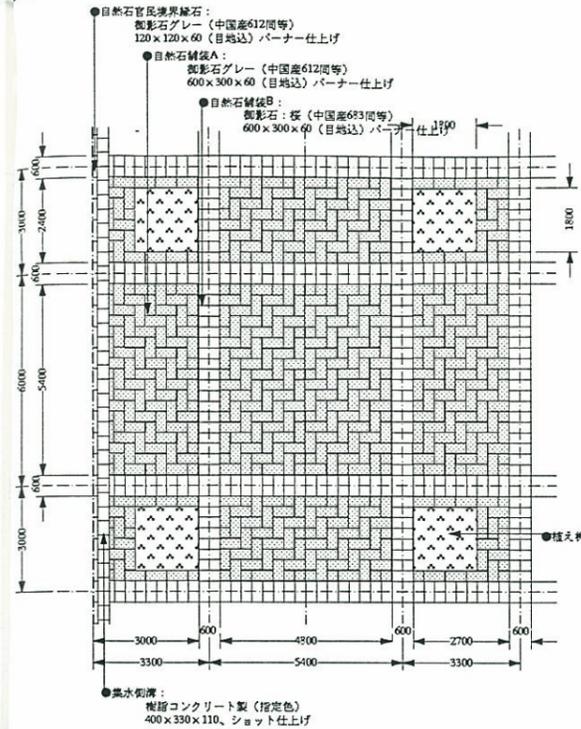


| | | |
|------|--------------------------|-------|
| 工事名称 | 港北第一地区タウンセンター シンボル広場基本設計 | |
| 図面名称 | 詳細図 (大階段下広場) | 図示 |
| 年月 | 平成 6 年 月 | 18/22 |
| 設計所 | 株式会社 山手総合計画研究所 | |



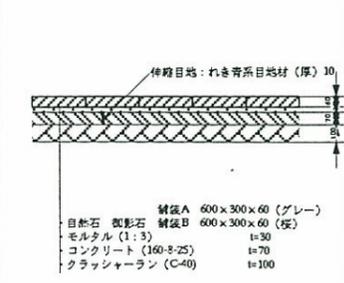
設備装部詳細図

S=1/100



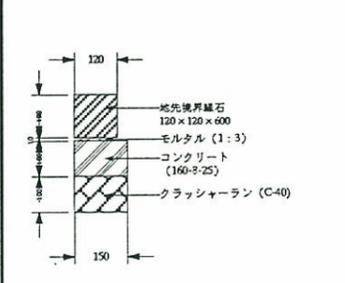
自然石舗装詳細図

S=1/20



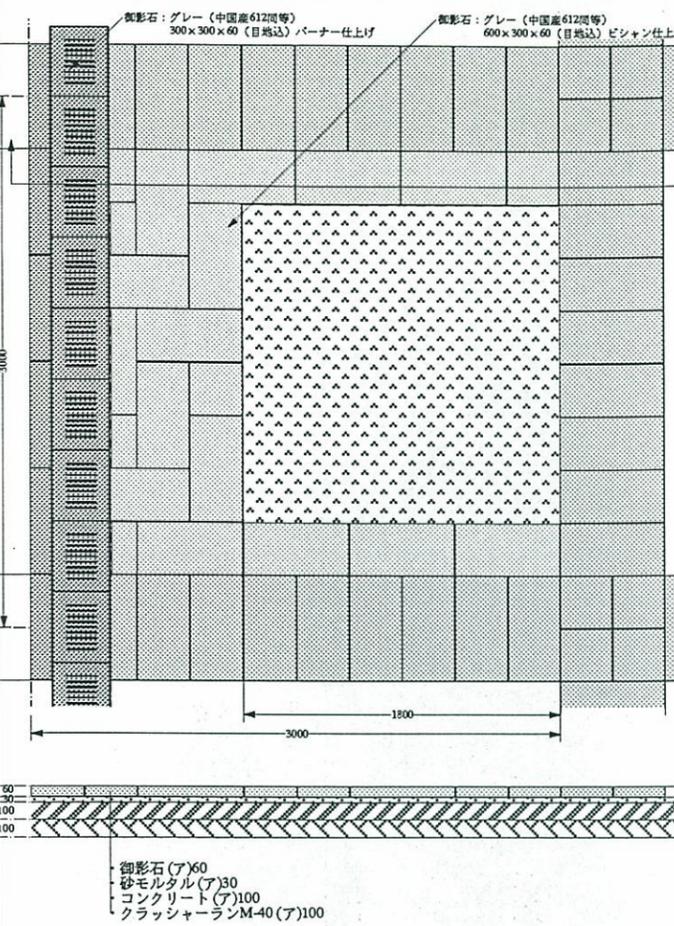
地先境界ブロック詳細図

S=1/10



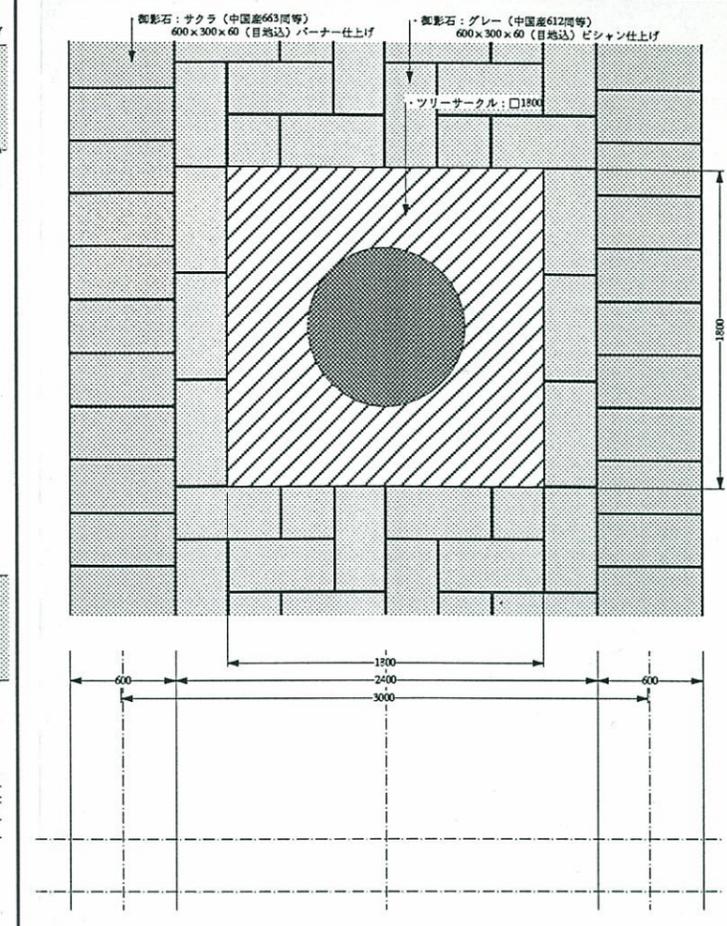
植栽樹 (イチヨウ並木用)

S=1/20



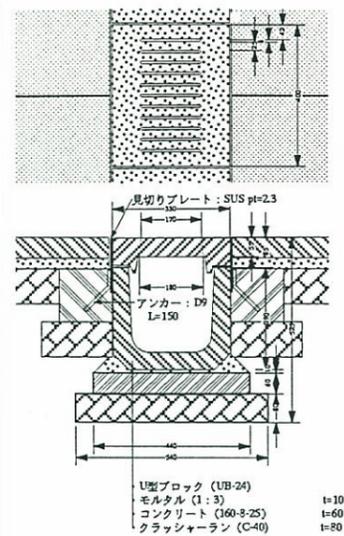
植栽樹 (ハナミズキ用)

S=1/20



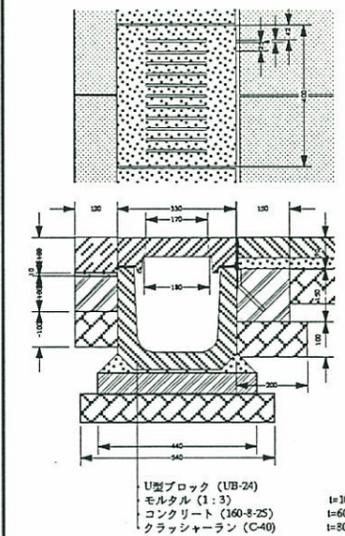
集水側溝詳細 (一般部)

S=1/10



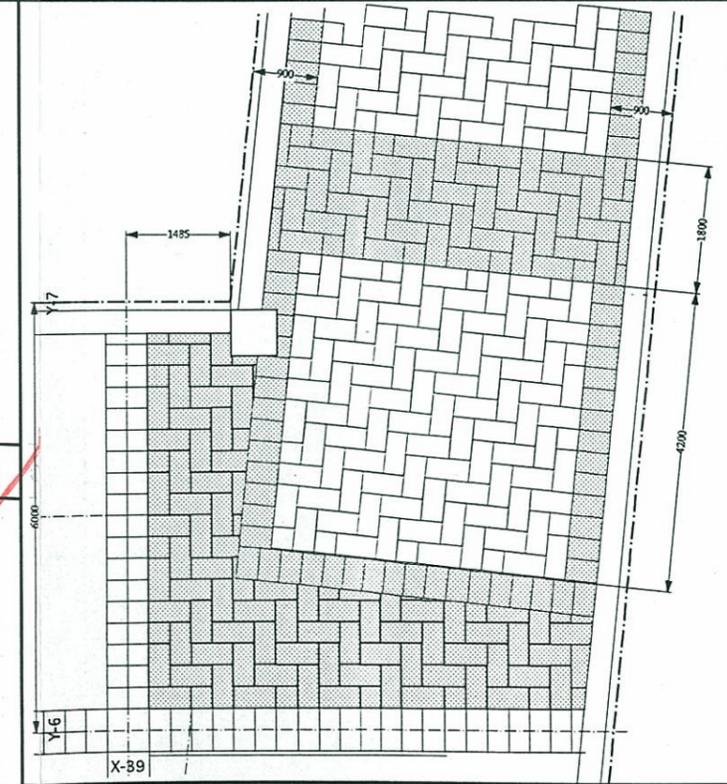
集水側溝詳細 (敷地境界部)

S=1/10



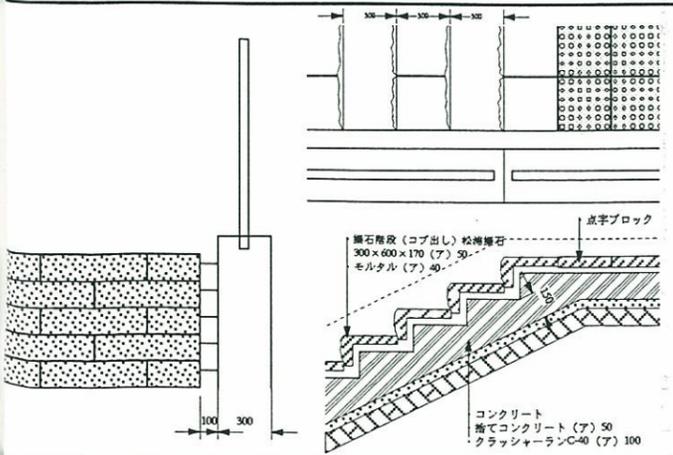
G橋たもとバテ分岐部舗装詳細

S=1/50



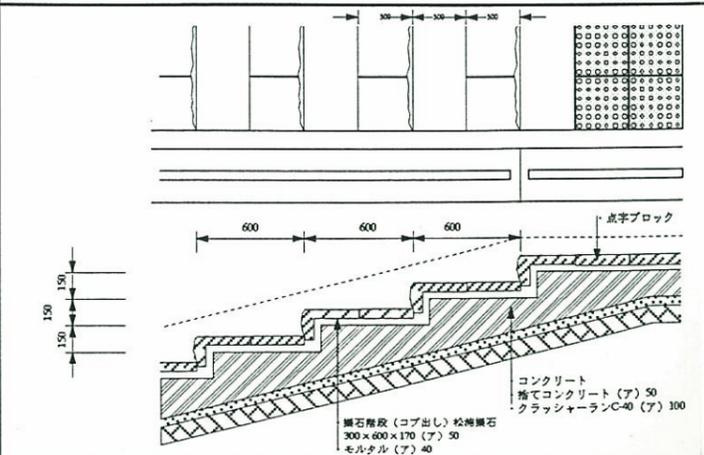
1/2階段詳細図 (歩行者専用道路橋)

S=1/20



1/4階段詳細図 (歩行者専用道路橋)

S=1/20



スロープ詳細図 (歩行者専用道路橋)

S=1/20

